

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	5
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	6
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	7
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	11	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	12
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	13
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	19
		1年			
	自己管理論 山本 浩二	2学期	1	2	20
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博 他	1学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	22
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	23	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	24	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	25	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	26	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 黒田 次郎	1学期	1	1	27
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	28
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 黒田 次郎	1学期	1	1	29
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	30
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	31
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 山本 浩二	1学期	1	1	32
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	1学期	1	1	33
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	34
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 黒田 次郎	2学期	1	1	35
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 黒田 次郎	2学期	1	1	36
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	37	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 美山 泰教	2学期	1	1	38	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	39	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	40	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	41	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	42
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	43
	1年				
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	44
	1年				
	教養基礎演習I 廣川 祐司	1学期	1	2	45
	1年				
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	46
	1年				
	教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	47
	1年				
	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	48
	1年				
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	49
	1年				
	教養基礎演習II 廣川 祐司	2学期	1	2	50
	1年				
教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	51	
1年					
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	52	
2年					
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	53	
2年					
教養演習AII 神原 ゆうこ	2学期	2	2	54	
2年					
教養演習AII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	55	
2年					
教養演習BI 神原 ゆうこ	1学期	3	2	56	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	57
		3年			
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	58
		3年			
	教養演習BII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	59
		3年			
プロジェクト演習I 見館 好隆	1学期	2	2	60	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	2学期	3	2	61	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	62
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	63
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	64
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	65
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	66
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	67	
	1年				
言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	68	
	1年				
文学を読む 福島 勲 他	2学期	1	2	69	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	70
		1年			
	民主主義とは何か 大澤 津 他	1学期	1	2	71
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	72
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	73
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	74
		1年			
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	75
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	76
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	77
		1年			
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	78
		1年			
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	79	
	1年				
現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ	1学期	1	2	80	
	1年				
現代の国際情勢 山本 直 他	1学期	1	2	81	
	1年				
国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	82	
	1年				
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	83	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	84	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	85
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	86
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	87
		1年			
	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	88
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	89
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	90
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	91
		1年			
戦後の日本経済 土井 徹平	2学期	1	2	92	
	1年				
都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2		
	1年				
ものと人間の歴史 休講	1学期	1	2		
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	93	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	94
		1年			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	95
		群			
データ処理 浅羽 修丈	2学期	1	2	96	
	1学期未修得者再履				
情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	97	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	98
		2年			
	情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	99
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	100
		2年			
■外国語教育科目	英語I (律政群 1-A) 下條 かおり	1学期	1	1	101
		律政群 1 - A			
	英語I (律政群 1-B) 葛西 宏信	1学期	1	1	102
		律政群 1 - B			
	英語I (律政群 1-C) 永末 康介	1学期	1	1	103
		律政群 1 - C			
	英語I (律政群 1-D) 石田 由希	1学期	1	1	104
		律政群 1 - D			
	英語I (律政群 1-E) 安丸 雅子	1学期	1	1	105
		律政群 1 - E			
	英語I (律政群 1-F) 野上 良子	1学期	1	1	106
		律政群 1 - F			
	英語I (律政群 1-G) 酒井 秀子	1学期	1	1	107
		律政群 1 - G			
	英語I (律政群 1-I) 木梨 安子	1学期	1	1	108
		律政群 1 - I			
	英語II (律政群 1-A) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	109
		律政群 1 - A			
英語II (律政群 1-B) 永末 康介	2学期	1	1	110	
	律政群 1 - B				
英語II (律政群 1-C) 葛西 宏信	2学期	1	1	111	
	律政群 1 - C				
英語II (律政群 1-D) 石田 由希	2学期	1	1	112	
	律政群 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語II (律政群 1-E) 安丸 雅子	2学期	1	1	113
		律政群 1 - E			
	英語II (律政群 1-F) 下條 かおり	2学期	1	1	114
		律政群 1 - F			
	英語II (律政群 1-G) 酒井 秀子	2学期	1	1	115
		律政群 1 - G			
	英語II (律政群 1-I) 木梨 安子	2学期	1	1	116
		律政群 1 - I			
	英語III (律政群 1-A) リズ・クレシーニ	1学期	1	1	117
		律政群 1 - A			
	英語III (律政群 1-B) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	118
		律政群 1 - B			
	英語III (律政群 1-C) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	119
		律政群 1 - C			
	英語III (律政群 1-D) ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	120
		律政群 1 - D			
	英語III (律政群 1-E) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	121
		律政群 1 - E			
	英語III (律政群 1-F) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	122
		律政群 1 - F			
英語III (律政群 1-G) デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	123	
	律政群 1 - G				
英語III (律政群 1-I) 船方 浩子	1学期	1	1	124	
	律政群 1 - I				
英語IV (律政群 1-A) アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	125	
	律政群 1 - A				
英語IV (律政群 1-B) シェーン・ドイル	2学期	1	1	126	
	律政群 1 - B				
英語IV (律政群 1-C) ロバート・マーフィ	2学期	1	1	127	
	律政群 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語IV (律政群 1-D) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	128
		律政群 1 - D			
	英語IV (律政群 1-E) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	129
		律政群 1 - E			
	英語IV (律政群 1-F) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	130
		律政群 1 - F			
	英語IV (律政群 1-G) マイケル・バーグ	2学期	1	1	131
		律政群 1 - G			
	英語IV (律政群 1-I) 船方 浩子	2学期	1	1	132
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2-A) 薬師寺 元子	1学期	2	1	133
		律政群 2 - A			
	英語V (律政群 2-B) 三宅 啓子	1学期	2	1	134
		律政群 2 - B			
	英語V (律政群 2-C) 酒井 秀子	1学期	2	1	135
		律政群 2 - C			
	英語V (律政群 2-D) 吉田 禎子	1学期	2	1	136
		律政群 2 - D			
	英語V (律政群 2-E) 十時 康	1学期	2	1	137
		律政群 2 - E			
英語V (律政群 2-F) 安丸 雅子	1学期	2	1	138	
	律政群 2 - F				
英語V (律政群 2-G) 村田 希巳子	1学期	2	1	139	
	律政群 2 - G				
英語V (律政群 2-I) 大塚 由美子	1学期	2	1	140	
	律政群 2 - I				
英語VI (律政群 2-A) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	141	
	律政群 2 - A				
英語VI (律政群 2-B) 三宅 啓子	2学期	2	1	142	
	律政群 2 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VI (律政群 2-C) 酒井 秀子	2学期	2	1	143
		律政群 2 - C			
	英語VI (律政群 2-D) 吉田 禎子	2学期	2	1	144
		律政群 2 - D			
	英語VI (律政群 2-E) 十時 康	2学期	2	1	145
		律政群 2 - E			
	英語VI (律政群 2-F) 安丸 雅子	2学期	2	1	146
		律政群 2 - F			
	英語VI (律政群 2-G) 村田 希巳子	2学期	2	1	147
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2-I) 大塚 由美子	2学期	2	1	148
		律政群 2 - I			
	英語VII (律政群 2-A) シエーン・ドイル	1学期	2	1	149
		律政群 2 - A			
	英語VII (律政群 2-B) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	150
		律政群 2 - B			
	英語VII (律政群 2-C) アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	151
	律政群 2 - C				
英語VII (律政群 2-D) ジャマール・ミラー	1学期	2	1	152	
	律政群 2 - D				
英語VII (律政群 2-E) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	153	
	律政群 2 - E				
英語VII (律政群 2-F) アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	154	
	律政群 2 - F				
英語VII (律政群 2-G) マーニー・セイデイ	1学期	2	1	155	
	律政群 2 - G				
英語VII (律政群 2-I) 薬師寺 元子	1学期	2	1	156	
	律政群 2 - I				
英語VIII (律政群 2-A) シエーン・ドイル	2学期	2	1	157	
	律政群 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VIII (律政群 2 - B) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	158
		律政群 2 - B			
	英語VIII (律政群 2 - C) アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	159
		律政群 2 - C			
	英語VIII (律政群 2 - D) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	160
		律政群 2 - D			
	英語VIII (律政群 2 - E) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	161
		律政群 2 - E			
	英語VIII (律政群 2 - F) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	162
		律政群 2 - F			
	英語VIII (律政群 2 - G) マーニー・セイディ	2学期	2	1	163
		律政群 2 - G			
	英語VIII (律政群 2 - I) 薬師寺 元子	2学期	2	1	164
		律政群 2 - I			
	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	165
		律政群 1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	166
		律政群 1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	167
		律政群 1年			
中国語IV 王 占華	2学期	1	1	168	
	律政群 1年				
中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	169	
	済営人律政群 2年				
中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	170	
	済営人律政群 2年				
中国語VII 蘇 小楠	1学期	2	1	171	
	済営人律政群 2年				
中国語VIII 蘇 小楠	2学期	2	1	172	
	済営人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	1	1	173
		済営群 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	1	1	174
		済営群 1年			
	朝鮮語Ⅲ チャン ユンヒャン	1学期	1	1	175
		済営群 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	176
		済営群 1年			
朝鮮語Ⅴ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	177	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語Ⅵ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	178	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語Ⅶ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	179	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語Ⅷ 金 京姫	2学期	2	1	180	
	済営比人律政群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門 夜のみ開講科目	1学期	1	2	
		1年			
	コミュニティ論 石塚優/地域創生学群	1学期	1	2	181
		1年			
	市民活動概論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	キャリア学概論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
		1年			
市民活動実践論 夜のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				
北九州社会論 神山和久/地域創生学群	2学期	2	2	182	
	2年				
地域文化論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2		
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門基幹科目	危機管理論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	キャリア形成論	1学期	2	2	183
	眞鍋和博/地域創生学群	2年			
	システム活用	2学期	2	2	184
	廣渡栄寿/地域創生学群	2年			
	まちづくり計画	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	185
	伊野憲治 他/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	186
	伊野憲治 他/地域創生学群 地域創生実習II (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	187
	廣渡栄寿/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	188
	廣渡栄寿/地域創生学群 地域創生実習II (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	189
	佐藤貴之/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	190
	佐藤貴之/地域創生学群 地域創生実習II (新カリリ読替科目名)	2年			
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	191	
神山和久/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	192	
神山和久/地域創生学群 地域創生実習II (新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	193	
片岡寛之/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	194	
片岡寛之/地域創生学群 地域創生実習II (新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	195	
西田心平/地域創生学群 地域創生実習I (新カリリ読替科目名)	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■専門基幹科目	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2	196
	西田心平/地域創生学群 地域創生実習II(新カリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2	197
	廣川祐司/地域創生学群 地域創生実習I(新カリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2	198
	廣川祐司/地域創生学群 地域創生実習II(新カリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	199
	伊野憲治 他/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	200
	廣渡栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	201
	佐藤貴之/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	202
	神山和久/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	203
	片岡寛之/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	204
	西田心平/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2	205
	廣川祐司/地域創生学群	3年			
スポーツボランティア実習I	1・2学期(ペア)	2	2	206	
徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師 スポーツ・ボランティア実習I(新カリ読替科目名)	2年				
スポーツボランティア実習I	1・2学期(ペア)	2	2	207	
徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師 スポーツ・ボランティア実習II(新カリ読替科目名)	2年				
スポーツボランティア実習II	1・2学期(ペア)	3	2	208	
徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師	3年				
障害者スポーツ実習I	1・2学期(ペア)	2	2	209	
山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習I(新カリ読替科目名)	2年				
障害者スポーツ実習I	1・2学期(ペア)	2	2	210	
山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習II(新カリ読替科目名)	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	障害者スポーツ実習II 山本浩二/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	211
		3年			
	地域創生基礎演習 A 眞鍋和博 他/地域創生学群	1学期	1	2	212
		1年			
	地域創生基礎演習 B 伊野憲治 他/地域創生学群	2学期	1	2	213
		1年			
	地域創生基礎演習 B 片岡寛之 他/地域創生学群	2学期	1	2	214
		1年			
	地域創生基礎演習 B 徳永政夫 山本浩二/地域創生学群	2学期	1	2	215
		1年			
	地域創生基礎演習 C 廣渡栄寿/地域創生学群	1学期	2	2	216
		2年			
	地域創生基礎演習 C 佐藤貴之/地域創生学群	1学期	2	2	217
		2年			
	地域創生基礎演習 C 徳永政夫/地域創生学群	1学期	2	2	218
		2年			
	地域創生基礎演習 C 山本浩二/地域創生学群	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生基礎演習 C 中島俊介/地域創生学群	1学期	2	2	219
		2年			
地域創生基礎演習 C 神山和久/地域創生学群	1学期	2	2	220	
	2年				
地域創生基礎演習 C 片岡寛之/地域創生学群	1学期	2	2	221	
	2年				
地域創生基礎演習 C 西田心平/地域創生学群	1学期	2	2	222	
	2年				
地域創生基礎演習 C 廣川祐司/地域創生学群	1学期	2	2	223	
	2年				
地域創生基礎演習 D 廣渡栄寿/地域創生学群	2学期	2	2	224	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	225	
	佐藤貴之/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	226	
	徳永政夫/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2		
	山本浩二/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	227	
	中島俊介/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	228	
	神山和久/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	229	
	片岡寛之/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	230	
	西田心平/地域創生学群	2年				
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	231	
	廣川祐司/地域創生学群	2年				
	相談援助演習 1	夜のみ開講科目	1学期	2	2	
			2年			
	相談援助演習 2	夜のみ開講科目	2学期	2	2	
			2年			
相談援助演習 3	夜のみ開講科目	1学期	3	2		
		3年				
相談援助演習 4	夜のみ開講科目	2学期	3	2		
		3年				
相談援助演習 5	夜のみ開講科目	1学期	4	2		
		4年				
相談援助実習	坂本毅啓 石塚優 深谷裕/地域創生学群	集中	3	6	232	
		3年				
相談援助実習指導 1	夜のみ開講科目	1学期 (ベア)	3	2		
		3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	
	夜のみ開講科目	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	233
	廣渡栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	234
	佐藤貴之/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	235
	徳永政夫/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	山本浩二/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	236
	廣渡栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	237
	佐藤貴之/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	238
	徳永政夫/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	
	山本浩二/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 C	1学期	4	2	239
	廣渡栄寿/地域創生学群	4年			
地域創生演習 C	1学期	4	2	240	
佐藤貴之/地域創生学群	4年				
地域創生演習 C	1学期	4	2	241	
徳永政夫/地域創生学群	4年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
山本浩二/地域創生学群	4年				
地域創生演習 D	2学期	4	2	242	
廣渡栄寿/地域創生学群	4年				
地域創生演習 D	2学期	4	2	243	
佐藤貴之/地域創生学群	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習D 徳永政夫/地域創生学群	2学期	4	2	244
		4年			
	地域創生演習D 山本浩二/地域創生学群	2学期	4	2	
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 廣渡栄寿/地域創生学群	1・2学期(ペア)	4	4	245
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 佐藤貴之/地域創生学群	1・2学期(ペア)	4	4	246
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 徳永政夫/地域創生学群	1・2学期(ペア)	4	4	247
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 山本浩二/地域創生学群	1・2学期(ペア)	4	4	
		4年			
■専門科目	地域コーディネート論 西田心平/地域創生学群	2学期	1	2	248
		1年			
	地域調査論 夜のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	NPO論 植原 真二 他	1学期	1	2	249
		1年			
	政治過程論 濱本 真輔	2学期	1	2	250
		1年			
	公共政策論 植原 真二	1学期	2	2	251
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	252
		2年			
	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	253
		2年			
	公共経営論 狭間 直樹	2学期	2	2	254
	2年				
都市経営論 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	都市経済論 難波 利光	2学期	2	2	255
		2年			
	福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	256
		2年			
	都市環境論 三宅 博之	1学期	2	2	257
		2年			
	景観まちづくり論 片岡寛之/地域創生学群	2学期	2	2	258
		2年			
	福祉環境デザイン論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	まちづくり実践論 南 博	1学期	3	2	259
		3年			
	ものづくりマネジメント論 吉村 英俊	2学期	2	2	260
		2年			
	法学総論 山口 亮介	1学期	1	2	261
		1年			
	日本国憲法原論 植木 淳	1学期	1	2	262
		1年			
	憲法人権論 中村 英樹	2学期	1	2	263
		1年			
民法総則 矢澤 久純	1学期 (ペア)	1	4	264	
	1年				
民法概論I 夜のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				
民法概論II 夜のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
社会法総論 津田 小百合	2学期	2	2	265	
	2年				
刑法犯罪論 山本 光英	2学期 (ペア)	2	4	266	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	刑法犯罪各論I 大杉 一之	1学期	3	2	267
		3年			
	刑法犯罪各論II 大杉 一之	2学期	3	2	268
		3年			
	法と犯罪I 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	法と犯罪II 夜のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	憲法機構論 中村 英樹	1学期	2	2	269
		2年			
	行政法総論 福重 さと子	1学期 (ヘア)	2	4	270
		2年			
	行政争訟法 岡本 博志	2学期	3	2	271
		3年			
	物権法 藤野 博行	2学期	2	2	272
		2年			
	家族法 小野 憲昭	1学期	2	2	273
		2年			
	会社法I 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
会社法II 夜のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				
企業取引法I 今泉 恵子	2学期	3	2	274	
	3年				
企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	275	
	3年				
知的財産法 木村 友久	1学期	3	2	276	
	3年				
情報公開・個人情報保護法 岡本 博志	2学期	3	2	277	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■専門科目	現代日本経済入門 A 柳井 雅人	1学期	1	2	278
		1年			
	現代日本経済入門 B 前田 淳	2学期	1	2	279
		1年			
	経済学入門 A 後藤 宇生	1学期	1	2	280
		1年			
	経済学入門 A 藤井 敦	1学期	1	2	281
		1年			
	経済学入門 B 畔津 憲司	1学期	1	2	282
		1年			
	経済学入門 B 前林 紀孝	1学期	1	2	283
		1年			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	284
		1年			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	285
		1年			
	企業論基礎 松本 守	2学期	1	2	286
		1年			
簿記論 I 白石 和孝	1学期	1	2	287	
	1年				
簿記論 I 岡部 勝成	1学期	1	2	288	
	1年				
簿記論 II 白石 和孝	2学期	1	2	289	
	1年				
簿記論 II 岡部 勝成	2学期	1	2	290	
	1年				
統計学 I 林田 実	2学期	1	2	291	
	1年				
統計学 II 林田 実	1学期	1	2	292	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	数学	1学期	1	2	293
	吉田 祐治	1年			
	経営統計	2学期	1	2	294
	吉田 祐治	1年			
	地域経済I	1学期	2	2	295
	杉浦 勝章	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	296
	杉浦 勝章	2年			
	金融論I	1学期	2	2	297
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	298
	後藤 尚久	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	299
	末永 勝昭	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	300
	末永 勝昭	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	301
	浦野 恭平	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	302
	後藤 宇生	2年			
産業組織論II	2学期	2	2	303	
後藤 宇生	2年				
財政学I	1学期	3	2		
休講	3年				
財政学II	2学期	3	2		
休講	3年				
人事管理論	2学期	2	2	304	
福井 直人	2年				
生産マネジメントA	1学期	3	2	305	
鳥取部 真己	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	生産マネジメントB 棚次 奎介	2学期	3	2	306
		3年			
	情報マネジメントA 越出 均	1学期	3	2	307
		3年			
	情報マネジメントB 越出 均	2学期	3	2	308
		3年			
	中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	309
		3年			
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	310
		3年			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	1学期	1	2	311
		1年			
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	312
		2年			
	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	313
		2年			
	プログラミングI 武藤 直彦	2学期	1	2	314
		1年			
	プログラミングII (新JAVA) 池田 欽一	1学期	2	2	315
	2年				
データ構造 隈本 寛	2学期	2	2	316	
	2年				
データ解析 齋藤 朗宏	2学期	2	2	317	
	2年				
データベース 池田 欽一	2学期	2	2	318	
	2年				
システムデザイン 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2		
	2年				
情報管理 池田 欽一	2学期	3	2	319	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	320
		3年			
	システム設計II 平山 克己	2学期	3	2	321
		3年			
	情報ネットワーク 隈本 覚	1学期	3	2	322
		3年			
	オペレーションズ・リサーチ 齋藤 朗宏	1学期	3	2	323
		3年			
	現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	324
		1年			
	現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	325
		1年			
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	326
		1年			
	地域福祉の理論と方法 1 深谷裕/地域創生学群	1学期	2	2	327
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 渡辺 良司	1学期	2	2	328
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚優/地域創生学群	1学期	2	2	329	
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚優/地域創生学群	2学期	2	2	330	
	2年				
児童福祉論 休講	1学期	2	2		
	2年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	2学期	2	2	331	
	2年				
障害者福祉論 小賀 久	2学期	2	2	332	
	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	333	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	相談援助の基盤と専門職 1 坂本毅啓/地域創生学群	1学期	1	2	334
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 坂本毅啓/地域創生学群	2学期	1	2	335
		1年			
	介護概論 1 閉講	1学期	3	2	
		3年			
	介護概論 2 閉講	2学期	3	2	
		3年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 藤藪 貴治	2学期	2	2	336
		2年			
	保健医療サービス 大塚 文	1学期	2	2	337
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 小賀 久	1学期	2	2	338
		2年			
	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	339
		1年			
	観光社会学 須藤 廣	集中	1	2	340
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	341
		2年			
老年心理学 石塚優/地域創生学群	2学期	2	2	342	
	2年				
教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	343	
	2年				
スポーツ心理学 磯貝 浩久	1学期	2	2	344	
	2年				
対人心理学 具志堅 伸隆	1学期	3	2	345	
	3年				
カウンセリング論 中島俊介/地域創生学群	2学期	3	2	346	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	コミュニケーション論 森永 今日子	1学期	3	2	347
			3年		
	臨床心理学 田中 信利	1学期	3	2	348
			3年		
	心理療法論 中島俊介/地域創生学群	2学期	3	2	349
			3年		
	リハビリテーション論 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
			3年		
	人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	350
			2年		
	医学一般2 閉講	2学期	3	2	
			3年		
	ボランティア活動論 西田心平/地域創生学群	1学期	1	2	351
			1年		
	ボランティア活動実践論 西田心平/地域創生学群	1学期	2	2	352
			2年		
	ボランティア活動運営論 西田心平/地域創生学群	1学期	3	2	353
			3年		
	スポーツ指導論 山本浩二/地域創生学群	集中	1	2	354
		1年			
障害者スポーツ指導論 山本浩二/地域創生学群	2学期	1	2	355	
		1年			
スポーツ・ボランティア指導論 徳永政夫/地域創生学群	2学期	1	2	356	
		1年			
スポーツ・ボランティア各論 上村 英樹	1学期	2	2	357	
		2年			
コミュニティスポーツ論 山本浩二/地域創生学群	2学期	2	2	358	
		2年			
障害者スポーツ各論 小手川 郁人	1学期	2	2	359	
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	身体適応論 高西 敏正	1学期	3	2	360
		3年			
	身体スポーツ論 加倉井 美智子	2学期	3	2	361
		3年			
	トレーニング論 徳永 政夫	2学期	3	2	362
		3年			
	健康科学 高西 敏正	2学期	3	2	363
		3年			
	社会調査の基礎 阪井 俊文	1学期	2	2	364
		2年			
	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	365
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	366
	2年				
相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	367	
	2年				
福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	2	2	368	
	2年				
福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	2	2	369	
	2年				
社会保障 坂本毅啓/地域創生学群	1学期	2	2	370	
	2年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引	
			クラス				
	備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	小林 道彦	2学期	1	2	371	
				1年			
	家族を問う	閉講		2学期	1	2	
				1年			
	人間と文化	神原 ゆうこ		1学期	1	2	372
				1年			
	ことばの科学	漆原 朗子		1学期	1	2	373
				1年			
	国際学入門	伊野 憲治		1学期	1	2	374
				1年			
	教養としての平和学	閉講		1学期	1	2	
				1年			
	可能性としての歴史	(昼のみ開講)			2	2	
				2年			
	家族の再生	閉講			2	2	
				2年			
文化と政治	(昼のみ開講)			2	2		
			2年				
言語と認知	(昼のみ開講)			2	2		
			2年				
共生社会論	(昼のみ開講)			2	2		
			2年				
戦争と平和	(昼のみ開講)			2	2		
			2年				
生活世界の哲学	伊原木 大祐		2学期	1	2	375	
			1年				
共同体と身体	(昼のみ開講)			2	2		
			2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI	中島 俊介	1学期	1	2	376	
			1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	377
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 山本 浩二	1学期	1	2	378
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	379	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養演習AI (昼のみ開講)		2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BI (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BII (昼のみ開講)		3	2	3年
プロジェクト演習I (昼のみ開講)		2	2	2年	
プロジェクト演習II (昼のみ開講)		3	2	3年	
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	1年
	現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	1年
	私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年
	思想と現代 休講	1学期	1	2	1年
	ものがたりと人間 閉講		1	2	1年
	文化と表象 (昼のみ開講)		1	2	1年
言語とコミュニケーション (昼のみ開講)		1	2	1年	
文学を読む 休講	2学期	1	2	1年	
戦争と人間 閉講		1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	381
		1年			
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人権論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	382
		1年			
	共生の作法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	北九州学 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	企業と社会 休講	1学期	1	2	
		1年			
	つながりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	383
		1年			
現代社会の諸問題 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
現代の国際情勢 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際社会論 稲月 正	2学期	1	2	384	
	1年				
国際紛争と国連 休講	2学期	1	2		
	1年				
民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治	2学期	1	2	385
	休講	1年			
	グローバル化する経済	1学期	1	2	385
	前田 淳 他	1年			
	テロリズム論		1	2	386
	(昼のみ開講)	1年			
	国際社会と日本	2学期	1	2	386
	金 鳳 珍	1年			
	歴史の読み方I	1学期	1	2	387
	小林 道彦	1年			
	歴史の読み方II	2学期	1	2	388
	小林 道彦	1年			
	そのとき世界は		1	2	389
	(昼のみ開講)	1年			
戦後の日本経済		1	2	390	
(昼のみ開講)	1年				
都市と農村の生活文化史	1学期	1	2	391	
閉講	1年				
ものと人間の歴史		1	2	392	
(昼のみ開講)	1年				
人物と時代の歴史	1学期	1	2	393	
山崎 勇治 他	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	390
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	2学期	1	2	391
	中尾 泰士	1学期未修得者再履・夜間主コース			
データ処理	1学期	1	2	392	
廣渡 栄寿	群・再履・夜間主コース				
情報表現	1学期	2	2	393	
浅羽 修丈	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
■外国語教育科目	ビジネス英語I (群1年) デビッド・ アダム・ ストット	1学期	1	1	394
		群1年			
	ビジネス英語II (群1年) シェーン・ ドイル	2学期	1	1	395
		群1年			
	ビジネス英語III (群2年) ホセ・ クルーズ	1学期	2	1	396
		群2年			
	ビジネス英語IV (群2年) ホセ・ クルーズ	2学期	2	1	397
		群2年			
■専門基幹科目	地域学入門 真鍋和博 他/地域創生学群	1学期	1	2	398
		1年			
	コミュニティ論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	1	2	
		1年			
	市民活動概論 西田心平/地域創生学群	2学期	1	2	399
		1年			
	キャリア学概論 見館好隆/地域創生学群	2学期	1	2	400
		1年			
	市民活動実践論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	北九州社会論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	地域文化論 廣川祐司/地域創生学群	1学期	2	2	401
		2年			
危機管理論 戸蔭仁司/地域創生学群	2学期	2	2	402	
	2年				
キャリア形成論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2		
	2年				
システム活用 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2		
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	まちづくり計画 片岡寛之/地域創生学群	2学期	2	2	403
		2年			
	地域創生実習I 昼のみ開講科目 地域創生実習I (新カリ読替科目名)	1・2学期 (ペア)	2	2	
		2年			
	地域創生実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	
		3年			
	スポーツボランティア実習I 昼のみ開講科目 スポーツ・ボランティア実習I (新カリ読替科目名)	1・2学期 (ペア)	2	2	
		2年			
	スポーツボランティア実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	
		3年			
	障害者スポーツ実習I 昼のみ開講科目 障害者スポーツ実習I (新カリ読替科目名)	1・2学期 (ペア)	2	2	
		2年			
	障害者スポーツ実習II 昼のみ開講科目	1・2学期 (ペア)	3	2	
		3年			
	地域創生基礎演習 A 昼のみ開講科目	1学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 B 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習 C 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
地域創生基礎演習 D 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
相談援助演習 1 深谷裕/地域創生学群	1学期	2	2	404	
	2年				
相談援助演習 2 深谷裕/地域創生学群	2学期	2	2	405	
	2年				
相談援助演習 3 深谷裕/地域創生学群	1学期	3	2	406	
	3年				
相談援助演習 4 深谷裕/地域創生学群	2学期	3	2	407	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	相談援助演習 5 深谷裕/地域創生学群	1学期	4	2	408
		4年			
	相談援助実習指導 1 坂本毅啓/地域創生学群	1学期 (ペア)	3	2	409
		3年			
	相談援助実習指導 2 坂本毅啓/地域創生学群	2学期	3	1	410
		3年			
	地域創生演習 A 中島俊介/地域創生学群	1学期	3	2	411
		3年			
	地域創生演習 A 神山和久/地域創生学群	1学期	3	2	412
		3年			
	地域創生演習 A 片岡寛之/地域創生学群	1学期	3	2	413
		3年			
	地域創生演習 A 西田心平/地域創生学群	1学期	3	2	414
		3年			
	地域創生演習 A 廣川祐司/地域創生学群	1学期	3	2	415
		3年			
	地域創生演習 B 中島俊介/地域創生学群	2学期	3	2	416
		3年			
	地域創生演習 B 神山和久/地域創生学群	2学期	3	2	417
		3年			
地域創生演習 B 片岡寛之/地域創生学群	2学期	3	2	418	
	3年				
地域創生演習 B 西田心平/地域創生学群	2学期	3	2	419	
	3年				
地域創生演習 B 廣川祐司/地域創生学群	2学期	3	2	420	
	3年				
地域創生演習 C 中島俊介/地域創生学群	1学期	4	2	421	
	4年				
地域創生演習 C 神山和久/地域創生学群	1学期	4	2	422	
	4年				

地域創生学群 地域創生学類 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 C 片岡寛之/地域創生学群	1学期	4	2	423
		4年			
	地域創生演習 C 西田心平/地域創生学群	1学期	4	2	424
		4年			
	地域創生演習 C 廣川祐司/地域創生学群	1学期	4	2	425
		4年			
	地域創生演習 D 中島俊介/地域創生学群	2学期	4	2	426
		4年			
	地域創生演習 D 神山和久/地域創生学群	2学期	4	2	427
		4年			
	地域創生演習 D 片岡寛之/地域創生学群	2学期	4	2	428
		4年			
	地域創生演習 D 西田心平/地域創生学群	2学期	4	2	429
		4年			
	地域創生演習 D 廣川祐司/地域創生学群	2学期	4	2	430
		4年			
	地域創生演習 D 深谷裕/地域創生学群	2学期	4	2	431
		4年			
卒業論文・卒業実践報告 中島俊介/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	432	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 神山和久/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	433	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 片岡寛之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	434	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 西田心平/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	435	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 廣川祐司/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	436	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 深谷裕/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	437	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域コーディネート論	2学期	1	2	
	休講 昼夜交互開講科目	1年			
	地域調査論	1学期	2	2	438
	神山和久/地域創生学群	2年			
	NPO論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政治過程論	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	439
	楢原 真二	2年			
	地方自治論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	政策過程論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	公共経営論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	都市経営論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	都市経済論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
福祉政策論	1学期	2	2		
休講	2年				
都市環境論	1学期	2	2	440	
三宅 博之	2年				
景観まちづくり論	2学期	2	2		
休講 昼夜交互開講科目	2年				
福祉環境デザイン論	2学期	2	2	441	
内田 晃	2年				
まちづくり実践論	1学期	3	2		
休講 昼夜交互開講科目	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	ものづくりマネジメント論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	法学総論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	442
	植木 淳	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法総則	1学期 (ペア)	1	4	
	昼のみ開講科目	1年			
	民法概論I	1学期	2	2	443
	平山 也寸志	2年			
	民法概論II	2学期	2	2	444
	福本 忍	2年			
	社会法総論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	刑法犯罪論	2学期 (ペア)	2	4	
	昼のみ開講科目	2年			
	刑法犯罪各論I	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
刑法犯罪各論II	2学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
法と犯罪I	1学期	3	2		
休講	3年				
法と犯罪II	2学期	3	2		
休講	3年				
憲法機構論	1学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				
行政法総論	1学期 (ペア)	2	4		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	行政争訟法	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	物権法	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	家族法	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	会社法I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	会社法II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	企業取引法I	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	企業取引法II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	知的財産法	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
現代日本経済入門A	1学期	1	2	445	
古谷 京一	1年				
現代日本経済入門B	2学期	1	2	446	
素川 博司	1年				
経済学入門A	1学期	1	2	447	
牛房 義明	1年				
経済学入門B	1学期	1	2	448	
後藤 尚久	1年				
マネジメント論基礎	2学期	1	2	449	
遠藤 雄二	1年				
企業論基礎	2学期	1	2	450	
中間 信博	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	簿記論I 池口 慶一	1学期	1	2	451
		1年			
	簿記論II 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	統計学I 林田 実	1学期	1	2	452
		1年			
	統計学II 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	数学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	経営統計 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	地域経済I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域経済II 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	金融論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
国際経済論I 休講	2学期	2	2		
	2年				
国際経済論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
経営戦略 山下 剛	2学期	2	2	453	
	2年				
産業組織論I 休講	1学期	2	2		
	2年				
産業組織論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	財政学I 前林 紀孝	1学期	3	2	454
		3年			
	財政学II 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	人事管理論 休講	2学期	2	2	
		2年			
	生産マネジメントA 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	生産マネジメントB 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	情報マネジメントA 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	情報マネジメントB 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	中小企業論 休講	1学期	3	2	
		3年			
	環境経済学 休講	1学期	3	2	
		3年			
コンピュータシステム 泉 英明	1学期	1	2	455	
	1年				
財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	456	
	2年				
財務会計論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
プログラミングI 昼のみ開講科目	2学期	1	2		
	1年				
プログラミングII (新JAVA) 昼のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				
データ構造 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	データ解析	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	データベース	2学期	2	2	457
	池田 欽一	2年			
	システムデザイン	2学期	2	2	458
	佐藤貴之/地域創生学群	2年			
	情報管理	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	システム設計I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	システム設計II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	459
	隈本 寛	3年			
	オペレーションズ・リサーチ	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	現代社会と福祉 1	1学期	1	2	460
	河嶋 静代	1年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	461
	坂本毅啓/地域創生学群	1年			
福祉国家論	2学期	1	2		
昼のみ開講科目	1年				
地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2	462	
深谷裕/地域創生学群	2年				
地域福祉の理論と方法 2	1学期	2	2		
休講	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	463	
石塚優/地域創生学群	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	464	
石塚優/地域創生学群	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	児童福祉論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	465
	河嶋 静代	2年			
	障害者福祉論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	466
	松川 素子	2年			
	相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	467
	坂本毅啓/地域創生学群	1年			
	相談援助の基盤と専門職 2	2学期	1	2	468
	坂本毅啓/地域創生学群	1年			
	介護概論 1	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	介護概論 2	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	469
	柴田 滋	2年			
	保健医療サービス	1学期	2	2	470
	石塚優/地域創生学群	2年			
権利擁護と成年後見制度	1学期	2	2	471	
小鉢 由美	2年				
心理学概論	2学期	1	2		
休講	1年				
発達心理学	1学期	2	2	472	
税田 慶昭	2年				
老年心理学	2学期	2	2	473	
石塚優/地域創生学群	2年				
教育心理学	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	スポーツ心理学	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	対人心理学	1学期	3	2	474
	田島 司	3年			
	カウンセリング論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	コミュニケーション論	1学期	3	2	475
	森永 今日子	3年			
	臨床心理学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	心理療法論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	リハビリテーション論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	476
	村田 直子	2年			
	医学一般2	2学期	3	2	
	閉講	3年			
	ボランティア活動論	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
ボランティア活動実践論	1学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				
ボランティア活動運営論	1学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
スポーツ指導論	1学期	1	2		
昼のみ開講科目	1年				
障害者スポーツ指導論	2学期	1	2		
昼のみ開講科目	1年				
スポーツ・ボランティア指導論	2学期	1	2		
昼のみ開講科目	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	身体適応論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	477
	加倉井 美智子	3年			
	トレーニング論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	健康科学	2学期	3	2	478
	高西 敏正	3年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	479
	阪井 俊文	2年			
	相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	480
	藤藪 貴治	2年			
	相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	481
	松川 素子	2年			
相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2		
休講	2年				
福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	482	
難波 利光	2年				
福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	483	
中園 紀明	2年				
社会保障	2学期	2	2	484	
坂本毅啓/地域創生学群	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第1部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われますが、本当にそうなのでしょうか？安易なイフの設定はたしかに禁物ですが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるでしょう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】【日英同盟】
- 4回 伊藤博文が暗殺されなかったら？ - 韓国併合回避の可能性はあったか - 【山県有朋】
- 5回 明治天皇がもっと長生きしていたら？ - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】【大正政変】
- 6回 日本が第一次世界大戦に参戦しなかったら【ニカ条要求】
- 7回 原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 張作霖爆殺 - その真の目的はなにか - 【護憲三派内閣】
- 9回 若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 2・26事件が未然に防げたら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？【ヒトラー】
- 12回 日独伊ソ四国協力が成立していたら？【独ソ戦】
- 13回 日米英戦争は不可避だったのか？【日独伊三国軍事同盟】
- 14回 鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？【本土決戦】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。
相当量の板書をするので、ノートはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかりとる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第4回 植民地主義と文化
- 第5回 ナショナリズムと文化
- 第6回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ：国籍・人種
- 第9回 中立・公平は可能か？
- 第10回 中間テスト

第II部 他者の内側

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 中間テストの講評
- 第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体
- 第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

そのほか講義中に課した提出物なども平常点として評価に加える。受講人数によっては試験をレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

文化と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何ともありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦争概論
- 第3回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第4回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第5回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第6回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第7回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化
- 第8回 両大戦の特徴(3)全面化
- 第9回 日本と原爆(1)原爆の開発過程
- 第10回 日本と原爆(2)原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が以前よりも総合的に理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となるので、(当たり前のことだが)休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ -】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスII」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーリーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフート理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか、被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事柄として紹介する。
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
15. 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験（選択、記述）、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・60% 小試験・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目の総論で「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④欠席した場合には、自己管理論用欠席届を提出する。
- ⑤最終回の「自己管理IVまとめ」では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
 林 洋子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※木曜日に開講される科目については、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、以下5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

- ・ 自分を知る (アイデンティティの獲得)
- ・ 働くことを知る (業界や企業、働き方など)
- ・ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる (多様な人々と協働する力を身に付けるために)
- ・ 社会人マナーを身につける (社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限のマナーや倫理感)
- ・ 学生生活の過ごし方を知る (将来の進路に向けて)

なお、授業の最終目標 (4つのミッション) は以下です。

- ・ いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
- ・ 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
- ・ 外へ出て視野を広げる
- ・ 失敗を恐れずとりあえず実践して、振り返る

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイレイヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス（授業の目的やルール、キャリアの基本知識）
- 2回 学生生活とキャリア（社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方）
- 3回 自分を知る①（一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン）
- 4回 地域活動に挑戦する（地域活動を体験した先輩とのディスカッション）※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①（傾聴、多様性理解）
- 6回 自分を知る②（働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施）
- 7回 働くということ（仕事を考える視点、仕事のやりがい）※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②（アサーショントレーニング）
- 9回 知ろう！使おう！労働法（雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法）
- 10回 社会人としての倫理やマナー③（ダイアログ、ワールドカフェ）
- 11回 社会人としての倫理やマナー④（グループディスカッション、リーダーシップ）
- 12回 就職活動を知る（就職活動を体験した先輩とのディスカッション）※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする（計画された偶発性・セレンディピティ）
- 14回 まとめ&発表（自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか）
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポートおよび授業への取り組み、宿題・・・90%
最終回のレポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。なお、火曜日2限のみ永田公彦先生にご担当頂きます。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）もほとんど同じ内容です。

※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私が、真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。

※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）と合わせて全9コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。

また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
 (入社後貴社で活躍している人は、大学時代にどんな活動をしていたのかを、登壇者自身もしくは見本にしたい社員の学生時代を紐解きながら説明する)
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製菓所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート・・・90%
 最終レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。
- ※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができないばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会にはさまざまな「できごと」、すなわち社会現象が起こっている。社会現象は人々の「考え」や「行為」から構成されている。たとえば、「結婚しない」人が増えれば晩婚化や非婚化といった社会現象は生じる。だが、そうした「考え」や「行為」は人々を取り巻く経済、政治、文化、社会関係によっても影響を受けている。たとえば、晩婚化や非婚化は「結婚できない」から生じているのかもしれない。社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「そうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。
 そのためには、(1)意味のある「問い」をたてること、(2)その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3)論証戦略に基づいてデータを集めること、(4)データを統計的に処理すること、(5)結果に基づき解釈すること（最初に立てた「問い」に対して「答え」を導くこと）、が重要である。
 この授業では、このうち(1)～(4)、とりわけ(2)と(3)に力点をおいて考えていきたい。
 社会調査とは、単に「データを集計すること」ではない。繰り返しになるが、大切なことは「解釈」である。そして、その「解釈」を導くためには、きちんとした論証戦略に基づく調査の設計、調査票の作成、調査技法・データ分析手法の習得が必要である。それらを、演習を交えながら、学習・習得することを目指す。
 なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成(1)
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成(2)
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40% 期末レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをよく読んでくること。
 課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「授業の概要」にも書いた通り、社会調査とはデータを集めることにとどまるものではありません。きちんとした論証戦略に基づく、きちんとしたデータを集めること、そしてそれに基づいて社会を解釈することです。授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

社会調査【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、検定、クロス表、相関、関連

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、テキスト『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

竹信三恵子2013『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波新書

タイトルだけでは、ジェンダーに関する本のようにみえますが、貧困、福祉、市場経済の社会の矛盾などさまざまな問題を提起してくれます。一人暮らしをすると（実家暮らしでも）、避けられない家事について考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジユメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第8・9回 テーマのを見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・第1回の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
 キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当：高西) と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2014年度入学生、2013年度入学生(新1年生、新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。ただし、時間割の関係で「日本の防衛」が受講できない場合、「教養基礎演習II」(戸蒔)とセットで履修すること。また、新2年生で、既に「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「演習AII」もしくは「演習BII」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：

教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。

本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
 スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
 スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。

「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで受講すること。

【注意②】新1年生および新2年生(2014年度・2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」(もしくは「演習AI」)を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いため、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI異文化理解の基礎（人間と文化）で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新2年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。すでに「日本の防衛」の単位を取得している者は、この科目のみの履修を認める。「日本の防衛」を未履修であるが、時間割の関係上、履修が出来ない者は、戸蒔の「教養基礎演習II」もしくは「教養演習AI」とセットで履修すること。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI」もしくは「演習BI」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックスシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】新2年生(2013年度入学生)で「日本の防衛」の単位を未履修かつ今期の履修が不可能な者で、「防衛セミナー」の履修を希望する者は、この科目を履修しなければならない。

【注意②】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」のいずれかとセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

異文化理解の基礎（応用編）：
本演習では、現代世界の宗教に関わる文化に広く問題に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界と宗教に関わる文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』、島園進ほか『現代宗教とスピリチュアリティ』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告を含む授業態度30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョンI異文化理解の基礎（人間と文化）で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、運悪く受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、宗教性

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新3年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている戸蒔の「教養基礎演習II」、「教養演習AII」、もしくは「教養演習BII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。一学期と比較して二学期はより抽象的な文献に挑戦する。

教科書 /Textbooks

1学期の受講者の関心に合わせて現代社会または文化に関するテキストを読む。テキストについては受講者の希望を聞きながら第1回で決定する。
(候補：世界思想社社会学ベーシックスシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、マルセル・ゴーシュ『民主主義と宗教』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること（講義）
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、異文化理解の基礎 / 人間と文化、現代社会と文化 / 文化と政治、政治のなかの文化）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「防衛セミナー」(「教養基礎演習I」、「教養演習AI」もしくは「教養演習BI」)のいずれかとセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「防衛セミナー」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2014年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 江戸時代の旅と自然
 - 第10講 山と人の自然学1【山村と故郷論】
 - 第11講 山と人の自然学2【自然観と森林観】
 - 第12講 山と人の自然学3【竹と産業】
 - 第13講 山と人の自然学4【竹と文化】
 - 第14講 木竹資源利用の国際比較
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ, 地球史, 生命と地球の共進化

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまなを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 動物の自己意識
動物は自己像をどのように理解するのかを考える。【自己像認知】【マークテスト】
- 第9回 「自己」の発見
ヒトの自己意識の芽生えについて考える。【自己意識】【自己概念】
- 第10回 身体感覚のメカニズム
自分の身体を自分のモノとして感じるメカニズムについて考える。【身体保持感】【ラバーハンド錯覚】
- 第11回 「他者」への気づき
他者をどのように認識するのか、他者の情報をどのように検出するのかについて考える。【生物らしさ】【バイオリジカルモーション】
- 第12回 「他者」の心を読む
他者に共感する、推測する能力の発達について考える。【共感】【心の理論】
- 第13回 ロボットに心は宿るか
他者に心を見出すメカニズムについて考える。【メンタライジング】【ロボット】
- 第14回 心を読むことの難しさ
自閉症児の心の理解について考える。【マインドブラインドネス仮説】【誤信念課題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかげはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所のやぐわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあつてわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、塔と洪水
4. あの世(日本) 極楽浄土、六道輪廻
5. あの世(世界) 地獄と天国、煉獄と金、
6. 苦と悪 悪霊、神義論、四苦八苦
7. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
8. 聖者と菩薩 列聖、慈悲
9. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼
10. 祭りと儀礼 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、病治し、祈りと念仏
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習よりも、復習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。

講義をよく聴く。

配布資料をよく読む。

資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

私たちと宗教 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

なお講義一回ごとに大切なことをあらたにひとつ学べば、半期で最低10の知識を学習できる。そのようにして四年間を着実に過ごすならば、知らないうちに成長していることがあとになってわかるだろう。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。
- 伊原木大祐『レヴィナス 犠牲の身体』創文社、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴールの大衆批判】
- 4回 実存の思想(3)【キルケゴールの実存的宗教論】
- 5回 実存の思想(4)【ハイデガー】
- 6回 実存の思想(5)【サルトル】
- 7回 実存の思想(6)【メルロ=ポンティ】
- 8回 中間総括(確認テスト)
- 9回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 11回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 15回 フェミニズムの思想(4)【クイア】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第8回に確認テスト(第3回~第7回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、たとえ全回出席してプリントを入手したとしても、ノートを取っていない、もしくは授業を聴いていないのであれば、単位の取得可能性は限りなくゼロに近いものとなるだろう。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【開国】【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【表象分析事始め】 比較分析の有効性について
- 11回 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として④【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として⑤まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2014年のテーマ：「文学と青春」

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度の「文学を読む」では、青春を扱った文学、もしくは、青春に読んでおく文学作品について、そんな出会いを体験してしまった、かつての文学少年、文学少女たちが学部を越えて熱く語ります。青春の只中を現在進行形で生きている皆さんにとって、人生を変える一冊との出会いとなる、忘れえぬ授業となることでしょう。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・文学と「青春」(福島 文学部比較文化学科)
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 馬場(文学部比較文化学科)
- 4回 田部井(文学部比較文化学科)
- 5回 渡瀬(文学部比較文化学科)
- 6回 五月女(文学部比較文化学科)
- 7回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 8回 木原(外国語学部英米学科)
- 9回 齊藤(外国語学部国際関係学科)
- 10回 漆原(基盤教育センター)
- 11回 神原(基盤教育センター)
- 12回 田村(経済学部経済学科)
- 13回 永田(グローバル人材育成推進室)
- 14回 特別講師
- 15回 特別講師

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本・・100%。(三分の二以上の出席がなければ評価対象外となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名
/Instructor

大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちに民主主義が当たり前になっているかもしれませんが、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 古代ギリシアの民主制
- 第3回 近代デモクラシーの基礎① 【ホブズ】【ロック】
- 第4回 近代デモクラシーの基礎② 【ルソー】【トクヴィル】
- 第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【福澤諭吉】【中江兆民】
- 第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】【ラディカル・デモクラシー】
- 第7回 現代日本の民主主義理論① 【境界線の政治学】
- 第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】
- 第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】【権威主義体制】【全体主義体制】
- 第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】【対立理論】【ポピュリストモデル】
- 第11回 民主主義と有権者① 【政治参加】【直接民主主義】【間接民主主義】
- 第12回 民主主義と有権者② 【エリート民主主義】【参加民主主義】
- 第13回 民主主義と選挙 【ダウンスモデル】【メディアン定理】
- 第14回 民主主義と政党、議会 【代表 / 代理】【二院制】
- 第15回 2つの民主主義 【多極共存型民主主義】【多数主義型民主主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになる。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー-家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ジェンダー論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人の関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞，ガイダンス（二宮）
- 第2回 法と道徳について（重松）
- 第3回 障害のある人の権利～ 日本国憲法から（植木）
- 第4回 民主主義の限界 - 立憲主義との関係で（中村）
- 第5回 行政は「個人の権利」をもつか（福重）
- 第6回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか（大杉）
- 第8回 契約について（契約の意義，種類，契約自由の原則等）（矢沢）
- 第9回 家族とは何か（小野）
- 第10回 商法とは何か（今泉）
- 第11回 企業形態と法（高橋）
- 第12回 民事訴訟とは何か（小池）
- 第13回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう（津田）
- 第14回 雇用とは何か（雇用関係の成立，雇用関係の展開，雇用関係の終了）（石田）
- 第15回 国際社会と日本，まとめ（二宮）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%，④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2012年 945円
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学1～エコタウン
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10・11回 環境関連施設見学2～環境ミュージアム
- 12回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 13回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 14回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 15回 社会が求める環境人材とは(外部講師)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

平成26年度の環境首都検定は12月14日(日)の予定。
エコタウン見学は11月5日(水)、環境ミュージアム見学は11月30日(日)を予定しているが、変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。
定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という感覚）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女/彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある。）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』（○）
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』（○）・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』（岩波書店、2012）』（○）、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）』（○）、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらないのか？」
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【利潤】【公表利益】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会の脆弱性【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機=福祉国家(混合経済)の登場【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰の新自由主義の台頭【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

企業と社会【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【ブラック企業】
【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点) + 期末レポート試験(50点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

つながりの人間学【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスマーケティング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)、昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 神原ゆうこ
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方々の講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション/新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースの価値付け/見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目/取材現場で感じたこと (編集委員)
- 第4回 地域とともに/分権時代と地域紙 (編集企画委員)
- 第5回 災害報道の実際/東日本大震災から3年 (社会部記者)
- 第6回 アジアと九州を考える/国際報道の現場から (編集委員)
- 第7回 読者参加型の新聞づくり/地元「遺産」を取材して (編集委員)
- 第8回 デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (q b i z 編集長)
- 第9回 キャンペーン報道のカ/消防団と防災 (社会部デスク)
- 第10回 九州経済をどう見るか/経済記者の視点(経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界/運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第12回 報道写真のカ/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 第13回 北九州の現場から/半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)
- 第14回 地域文化を見つめて/文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第15回 新聞をデザインする/ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、多メディア時代の新聞の役割について、少しでも理解を深めてくれればうれしいです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代東アジアの国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

第1回オリエンテーション

第2回山本 アジアとヨーロッパ(1) 【近代国家、EU】

第3回 " アジアとヨーロッパ(2) 【共同体、贈与】

第4回下野 グローバル化の中の中国 【改革開放、北京コンセンサス】

第5回 " " " " " "

第6回堀地 北京と世界遺産【北京、世界遺産】

第7回白石 中国の持続的発展の可能性 【経済成長、SNA、投資】

第8回横山 東アジアの安全保障 【日中の領土問題】

第9回鄧紅 日中関係の過去と現在 【魏志倭人伝、漢字、日清戦争、満州事変、国交回復】

第10回尹 日本の経済交流パートナーとしての東アジア 【東アジア地域の特徴、日本と東アジア地域との経済関係】

第11回 " 日本(九州)の東アジア戦略 【日本の経済連携の取り組み、環黄海地域での経済交流】

第12回大平 変容するアジア情勢と日本のODA【政府開発援助(OA)、米国のリバランス戦略、巡視船供与、第1・第2列島線】

第13回 " " " " " "

第14回篠崎 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新たなかたち(1) 【華人、中華世界】

第15回 " 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新たなかたち(2) 【イスラム教】

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。

レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。

平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第5回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第6回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第7回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第8回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第9回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第10回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第11回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第12回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第13回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第14回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るっぽ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフアーマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア - ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】 担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor
 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程
 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは
- 2回 自由貿易 【比較優位】【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】【金融市場】【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】【新産業】【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 12回 グローバル文化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】【乗数】
- 15回 まとめと総復習-グローバル化の光と影

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方や関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』(知の攻略 思想読本4)、作品社、2003(第3刷)、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠⅤ部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】 【帝国】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 響田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本~3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

歴史の読み方I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ(順序不同)、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(小林)
 - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ビルマの民主化運動】
 - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示、1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

"皆さんは、「Japan as No1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、私たち自身の価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、「Japan as No1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たちが生きる現代を理解することでもあります。本講義では、過去をもとに現代の社会・経済状況を理解することを目的として、第二次世界大戦後から現代に至る日本経済の推移と、その結果としての日本社会の変化についてお話しします。"

教科書 /Textbooks

毎週配布するレジュメに基づいて授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 ①敗戦と復興
- 第3回 ②「Japan as No1」と言われた時代 - 1950年代から70年代 -
1. 高度経済成長の経緯
- 第4回 2. 高度経済成長を可能とした諸要因
- 第5回 3. 戦後日本の産業構造の変化
- 第6回 ③高度経済成長と日本社会
1. 人口の変化と「人口問題」
- 第7回 2. 高度経済成長と生活様式の変化
- 第8回 3. 社会生活と企業 - 「企業社会」の発展 -
- 第9回 4. 高度経済成長がもたらした「歪(ひず)み」
- 第10回 ④「ロスジェネレーション」 - 1980年代以降の日本経済 -
1. 低成長時代から「バブル」の時代へ
- 第11回 2. 「バブル崩壊」と長期不況
- 第12回 3. 「痛みを伴う改革」がもたらしたもの
- 第13回 4. 「失われた世代」の就業環境 - 「非正規雇用」の歴史と現状 -
- 第14回 ⑤「豊かさ」と「貧しさ」の現在形
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

戦後の日本経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

高度経済成長 人口問題 企業社会 ロストジェネレーション バブル経済 非正規雇用

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会、ネットワーク、セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによってできている。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指す。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになる。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要がある。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ているといえる。この授業で使用するプログラミング言語は、VBA（Visual Basic for Application）である。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっている。

この授業は、パソコンを利用して授業を行う。具体的には、以下のような項目を身につける：

- コンピュータが行っている情報処理の流れ
- 論理的な思考方法の基礎
- VBAを用いたプログラム作成の基礎

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとは何か【VBA】
- 2回 VBAによるプログラミングの方法と簡単なプログラムの作成【Range】【フォント指定】
- 3回 プログラミングの計画について【フローチャート】
- 4回 基礎的なプログラムの作成【Select】【With】【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】【幅と高さ設定】【線種設定】【色設定】
- 6回 メッセージボックスとワークシート操作【MsgBox】【Worksheets】
- 7回 変数と条件分岐構文【変数の宣言】【変数のデータ型】【If文】
- 8回 条件分岐構文と乱数を利用したプログラム【ランダム関数】
- 9回 多重の条件分岐構文【If文のネスト】
- 10回 繰り返し構文1【For文】
- 11回 繰り返し構文2【While文】
- 12回 繰り返し構文の練習1【変数の四則演算】【「=」の意味】
- 13回 繰り返し構文の練習2【永久ループ】【変数のシミュレーション】
- 14回 多方向条件分岐構文【Select Case文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなる。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなる。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説する。

キーワード /Keywords

プログラミング VBA フローチャート

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Chris Valvona and Ayano Valvona, Lessons from Leaders, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Friendship
- 第3回 The Future of Gaming
- 第4回 Inner Scorecard
- 第5回 The Definition of Success
- 第6回 Think Week
- 第7回 Better Yourself
- 第8回 The Fast Lane
- 第9回 The Newspaper Test
- 第10回 Make a Difference
- 第11回 Dynastic Fortunes
- 第12回 Expert Opinion
- 第13回 Learn from Your Mistakes
- 第14回 Tax and Responsibility
- 第15回 Lucky Ticket

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回)... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、テキストと併せて洋画のDVDを使用し、TOEIC関連の語句・表現を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『Open the Gate for the TOEIC Test イラスト・図解で学ぶTOEIC®テストはじめての一步』
David P. Thompson / 仲川浩世 / 宮野智靖 金星堂 ¥2,100(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Pre-Test
- 3回 Unit2 Daily Life 品詞
- 4回 Unit3 Airport 時制
- 5回 Unit4 Traffic 自動詞・他動詞
- 6回 Unit5 Hotel 主語と動詞の一致
- 7回 Unit6 Bank 受動態
- 8回 Unit7 Office 不定詞・動名詞
- 9回 Unit8 Meeting 分詞
- 10回 Unit9 Employment 可算名詞・不可算名詞
- 11回 Unit10 Factory 代名詞
- 12回 Unit11 Order 関係詞
- 13回 Unit12 Contract 接続詞・前置詞
- 14回 Unit 13 Business 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次週扱うユニットの問題を解いてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1979年に英語のコミュニケーション能力を測定する世界標準テストとして開発されたTOEIC (Test of English for International Communication) は特にビジネスの世界を中心に英語力を測るものさしとして使われている。日本においても、企業・団体・学校で採用され、各種英語検定試験の中でも社会的ニーズの高い試験となっている。授業では、TOEIC問題を通して英語の聴解力・文法力・読解力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test
編著者：北尾泰幸他
出版社：朝日出版社
定価：¥1,800 + 税
ISBN: 978-4-255-15553-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全14ユニットからなる。TOEICテストに準拠したPart1-7の問題とともに、語彙増強問題、文法および英語表現の解説も設けてある。各ユニットで取り上げるテーマと文法事項は次のようになっている。

- 〈第1回〉 Unit 1: Eating Out (動詞1)
- 〈第2回〉 Unit 2: Travel (動詞2)
- 〈第3回〉 Unit 3: Amusement (品詞)
- 〈第4回〉 Unit 4: Meetings (分詞)
- 〈第5回〉 Unit 5: Personnel (不定詞と動名詞1)
- 〈第6回〉 Unit 6: Shopping (不定詞と動名詞2)
- 〈第7回〉 Unit 7: Advertisement (仮定法)
- 〈第8回〉 Unit 8: Daily Life (受動態)
- 〈第9回〉 Unit 9: office Work (代名詞)
- 〈第10回〉 Unit 10: Business (数量詞)
- 〈第11回〉 Unit 11: Traffic (接続詞)
- 〈第12回〉 Unit 12: Finance and Banking (前置詞)
- 〈第13回〉 Unit 13: Media (語彙)
- 〈第14回〉 Unit 14: Health and Welfare
- 〈第15回〉 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、授業期間中に行う語彙を中心とした小テスト (30%)、定期試験 (70%) を基準とし、授業中の態度などを加味し総合的に判断して決定する。出席することは前提であるため、出席点はないが、正当な理由なく欠席を5回した者には単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は必ずしておくこと。付属CDも利用しながら、本テキストを隔々まで活用されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - G
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、語彙を学習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4, vol. 3, vol. 2」 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト： Part 1~4 リスニングの概要
- 3回 TOEICテスト： Part 5~7 リーディングの概要
- 4回 Part 1, Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2, Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3, Part 5 と関連する文法の学習
- 7回 Part 4, Part 5と関連する文法の学習
- 8回 復習
- 9回 Part 5と関連する文法の学習、読解練習
- 10回 Part 6と関連する文法の学習、読解練習
- 11回 Part 7と関連する文法の学習 (1)
- 12回 Part 7と関連する文法の学習 (2)
- 13回 Part 5~7 総合復習
- 14回 Part 1~7 総合復習
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた学習を進めるとともに、毎授業で、基本文法の習得に必要な基礎問題のプリントを配布し、英語の基本ルールに関する知識の習得に重点を置いた指導を行っていく。

教科書 /Textbooks

北尾 泰幸他著 『Step-up Skills for the TOEIC Test いま始めようTOEICテスト』 朝日出版社 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 ￥1800
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 2回 Unit 1 「動詞」
- 3回 Unit 2 「時制」
- 4回 Unit 3 「時制」
- 5回 Unit 4 「代名詞」
- 6回 Unit 5 「不定詞」
- 7回 Unit 6 「動名詞」
- 8回 Unit 7 「冠詞・名詞」
- 9回 復習テスト
- 10回 Unit 8 「冠詞・名詞」
- 11回 Unit 9 「仮定法」
- 12回 Unit 10 「分詞」
- 13回 Unit 11 「関係詞」
- 14回 Unit 12 「接続詞」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席2回まで。遅刻2回につき1回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques 1
Week 8	Control Techniques 2
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting 1
Week 11	Charting 2
Week 12	Group Conversation 1
Week 13	Group Conversation 2
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4、小テスト
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7、小テスト
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10、小テスト
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(4回) ... 85% 日常の授業への取り組み... 15%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英米の裁判をめぐる英文読解を通して、前期に学んだTOEICの関連語句を復習・補強する。

教科書 /Textbooks

『Legal Minds-15 Journeys in Law 大学生のための法律英語 15の裁判物語』
鳥飼慎一郎・溜箭将之・Brett Cumming 著 金星堂 ¥1,995(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Case 1 Shouldn't be That Hot!
訴訟社会アメリカ? ホットコーヒーやけど裁判の真実
- 3回 Case 2 Damages for a Five-Day Delay
『知らなかった』では済まされない?! 配達遅れで被った損害への支払い
- 4回 Case 3 A Brand New Car (Well, Almost)
高すぎる勉強代? 顧客がBMW 社に求めた一罰百戒
- 5回 Case 4 Chasing a Celebrity Murder Suspect, Live on TV
アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判
- 6回 Case 5 Dangerous Driving
スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇
- 7回 Case 6 I Won't Tell You My Source!
CIA 作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由
- 8回 Case 7 A Fair Trial? Choosing the Jury
なぜこんなことに? 陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった
- 9回 Case 8 Objection, Your Honor!
プロに徹して公平に裁けるか—当事者からの献金を受けた裁判官
- 10回 Case 9 Made the U.S. My Home
戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ
- 11回 Case10 Separate and Not Equal
人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い
- 12回 Case11 Reverse Discrimination?
白人だから不合格?! 人種の是正措置と大学入学判定
- 13回 Case12 Season's Greetings: Tradition or Violation?
市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題
- 14回 Case13 Stop Copying Our Products!
アップル対サムスン—特許を侵害したのはどちらの企業が
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 2, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Food
- 第3回 Festivals
- 第4回 Review 1 The Big Picture 1
- 第5回 Cities
- 第6回 Jobs
- 第7回 Review 2 The Big Picture 2
- 第8回 Music
- 第9回 Journeys
- 第10回 Review 3 The Big Picture 3
- 第11回 Family
- 第12回 Nature
- 第13回 Review 4 The Big Picture 4
- 第14回 Happiness
- 第15回 Conservation

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業は、英語Iで培ったTOEIC問題への取り組みに基づき、さらにTOEICの問題を利用し、英作文力や会話力の養成を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEIC 新公式問題集 vol. 4, vol. 3, vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Part 1 の学習と英文構築 (1)
- 3回 Part 1 の学習と英文構築 (2)
- 4回 Part 2 の学習と会話練習 (1)
- 5回 Part 2 の学習と会話練習 (2)
- 6回 Part 3 の学習と読解練習 (1)
- 7回 Part 3 の学習と読解練習 (2)
- 8回 Part 4 の学習と読解練習 (1)
- 9回 Part 4 の学習と読解練習 (2)
- 10回 Part 5 の学習と読解練習 (1)
- 11回 Part 5 の学習と読解練習 (2)
- 12回 Part 6 の学習と読解練習 (1)
- 13回 Part 6 の学習と読解練習 (2)
- 14回 Part 7 の学習と読解練習 (1)
- 15回 Part 7 の学習と読解練習 (1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、英語の基本文法を扱ったテキストを使用し、英語習得に不可欠の文法知識の把握を基盤に、英語4技能の基礎知識の習得に力を入れていく。TOEIC問題に関しては、毎授業でプリントを配布し、2学期に受験するTOEICテストで1学期以上のスコアを取得できるよう指導していく。

教科書 /Textbooks

小中 秀彦 他著 『English Upgrade ベーシック・グラマーからリーディングへ』 成美堂 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 ￥1800
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 文の成り立ち
- 3回 Unit 2 句・節・文
- 4回 Unit 4 時制
- 5回 Unit 5 時制
- 6回 Unit 8 進行形
- 7回 Unit 9 完了形
- 8回 Unit 9 完了形
- 9回 復習テスト
- 10回 Unit 10 助動詞
- 11回 Unit 11 受動態
- 12回 Unit 12 不定詞
- 13回 Unit 13 動名詞
- 14回 Unit 14 分詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席2回まで。遅刻2回につき1回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名
/Instructor

リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 1 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. Focus will be on improving the four major English skills-speaking, listening, reading and writing. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills. Upon completion of this course, students should have increased confidence in their ability to speak and understand English and communicate more confidently in English with those around them.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction

Week Two: Unit 1 "A Time to Remember" People; childhood; memories

Week Three: Unit 1 "A Time to Remember" Practice and wrap up

Week Four: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Entertainment; movies and books; reactions and opinions

Week Five: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Practice and wrap up

Week Six: Unit 16 "What's Your Excuse?" Requests; excuses; invitations

Week Seven: Unit 16 "What's Your Excuse?" Practice and wrap-up

Week Eight: Midterm Review

Week Nine: Unit 5 "Going Places" Travel; vacations; plans

Week Ten: Unit 5 "Going Places" Practice and wrap-up

Week Eleven: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Landmarks and monuments; world knowledge

Week Twelve: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Practice and wrap-up

Week Thirteen: Unit 4 "I've Never Heard of That!" Food; recipes; instructions; cooking methods

Week Fourteen: Unit 8 "Let's Celebrate!" Holidays; festivals; customs; celebrations

Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%

Reports - 20%

Quizzes and Presentations - 20%

Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語III (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 1-4 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 5 and Discussion 1
Week 10 Unit 6 and Discussion 2
Week 11 Unit 7 and Discussion 3
Week 12 Unit 8 and Discussion 4
Week 13 Units 5-8 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語III (律政群 1-D) 【昼】

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Orientation
Week 2 Shadow Talking
Week 3 Speaking for Speed
Week 4 Repeating for Communication
Week 5 Conversation Style
Week 6 Expand and Recycle
Week 7 Speaking on Topics
Week 8 Workarounds
Week 9 Speaking on Topics
Week 10 Disagreement
Week 11 Reason Articulation
Week 12 Group Conversation 1
Week 13 Group Conversation 2
Week 14 Test Practice
Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

World English 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (People)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Work, Rest, and Play)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Going Places)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Food)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Sports)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Destinations)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Communication)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (The Future)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Shopping for Clothes)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Lifestyles)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (Achievements)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Consequences)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As directed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語III (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Stepping Stones for the TOEIC Test” 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』 (光富省吾共著) 朝日出版社 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1 TOEIC出題形式および傾向と対策
- 3回 Unit 2 Travel & Airports、名詞・代名詞・冠詞
- 4回 Unit 3 Sightseeing & Hotels、形容詞・副詞
- 5回 Unit 4 Dining & Restaurants、時制(1)
- 6回 Unit 5 Sports & Entertainment、時制(2)
- 7回 Unit 6 Fashion & Shopping、助動詞
- 8回 Unit 7 School & Culture、他動詞・自動詞
- 9回 Unit 8 Review Test 1
- 10回 Unit 9 Transportation & Commuting、不定詞・動名詞
- 11回 Unit 10 Family Life & Home、現在分詞・過去分詞・受動態
- 12回 Unit 11 Computers & the Internet、仮定法
- 13回 Unit 12 Offices & Office Supplies、関係詞
- 14回 Unit 13 Jobs & Recruitment、接続詞
- 15回 Unit 14 Business, Accounting & Banking、前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：30%
ただし最終評価にはTOEIC受験の可否が反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Explanation of the course. Unit 1A: Introductions - Starting a Conversation
 Week 2: Unit 1B: Getting someone to repeat. "Do you know where ___ is?"
 Week 3: Unit 1C: Using "but" to show contrast.
 Week 4: Sounding Natural 1: Silence and conversation strategies.
 Week 5: Unit 2A&B: Daily Life. "What time do you ___?" Showing interest with short responses.
 Week 6: Sounding Natural 2: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions. Talking about yourself.
 Week 7: Unit 3A&B: University Life. "What clubs are you in?" "What's your favorite subject?" Echo questions.
 Week 8: Unit 4A&B: Skills. "Do you play any sports?" Don't be over humble.
 Week 9: Unit 5A&B: Family. "Would you like to get married some day?" Asking personal questions.
 Week 10: Unit 2C: "How long does it take you to get here?" Rounding off numbers.
 Week 11: Unit 3C: "What do you think of this university?"
 Week 12: Unit 4C: "What do you think is a good way to study English?"
 Week 13: Unit 5C: Having children and getting married.
 Week 14: Review of units one to five.
 Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
 No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read text in advance of class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues Intermediate Level by Olivia Johnston, Mark Farrell

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the Course
 Week 2: Advertising
 Week 3: Animal Rights
 Week4: Art and Artists
 Week 5: Beauty
 Week 6: Beliefs
 Week 7: Crime and Punishment
 Week 8: Discipline
 Week 9: Drink and Drugs
 Week 10: Family
 Week 11: Fashion
 Week 12: Film and TV
 Week 13: Presentations
 Week 14: Presentations
 Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
 Homework 20%
 Discussions and presentations 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	律政群 1 - D				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2003		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
 The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
 Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Orientation
- 2: Asking someone's name
- 3: Travel jobs
- 4: Floor plans
- 5: Opening hours
- 6: Making reservations
- 7: Confirming reservations
- 8: Checking in
- 9: Taking calls
- 10: On tour
- 11: Ordering/taking orders
- 12: Checking information
- 13: Taking messages
- 14: Directions
- 15: Changing money/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 50%
Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、単語
- 2回 Unit 1、動詞と時制(1)
- 3回 Unit 2、動詞と時制(2)
- 4回 Unit 3、動詞と時制(3)
- 5回 Unit 4、仮定法
- 6回 Unit 5、準動詞(1)
- 7回 Unit 6、準動詞(2)
- 8回 Midterm Testおよび解説
- 9回 Unit 7、準動詞(3)
- 10回 Unit 8、準動詞(4)
- 11回 Unit 9、形容詞・副詞と比較
- 12回 Unit 10、不定代名詞
- 13回 Unit 11、関係詞(1)
- 14回 Unit 12、関係詞(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題含む）：20%
最終評価にはTOEICのスコアが反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト (10分) を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Perfect Shot for the TOEIC Test』 著者：上條 武、Braven Smillie ¥1,900
出版社：金星堂 2013年 1月 発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Dining out [外食]
- 3回 Unit 2 Entertainment [娯楽]
- 4回 Unit 3 Housing and Property [住宅・不動産]
- 5回 Unit 4 Traveling [旅行]
- 6回 Unit 5 General Business [一般業務]
- 7回 Unit 6 Manufacturing [製造・生産]
- 8回 Unit 7 Purchasing [購買]
- 9回 Unit 8 Meeting and Office Procedures [会議・事務手続き]
- 10回 Unit 9 Personnel [人事]
- 11回 Unit 10 Finance [経済]
- 12回 Unit 11 Technical Areas [技術]
- 13回 Unit 12 News Reporting [ニュースレポート]
- 14回 Unit 13 Press Release [プレスリリース]
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)

発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。
1. 語彙を増やす 2. リスニング力を強化する 3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める 5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test (Asahi Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Eating Out
- 第3回 Unit 2 Travel
- 第4回 Unit 3 Amusement
- 第5回 Unit 4 Meeting
- 第6回 Unit 5 Personnel
- 第7回 Unit 6 Shopping
- 第8回 Unit 7 Advertisement
- 第9回 Unit 8 Daily Life
- 第10回 Unit 9 Office Work
- 第11回 Unit 10 Business
- 第12回 Unit 11 Traffic
- 第13回 Unit 12 Finance and Banking
- 第14回 Unit 13 Media
- 第15回 Unit 14 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20%、提出物 30%、期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の養成を図る。特にTOEICで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vo. 5, vol, 3, vol, 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1~4 (リスニング) の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5~7 (リーディング) の概要
- 4回 Part 1, Part 5 と関連する文法の学習
- 5回 Part 2, Part 5 と関連する文法の学習
- 6回 Part 3, Part 5 と関連する文法の学習
- 7回 Part 4, Part 5 と関連する文法の学習
- 8回 リスニングの復習
- 9回 Part 6 と関連する文法の学習
- 10回 Part 7 と関連する文法の学習 (1)
- 11回 Part 7 と関連する文法の学習 (2)
- 12回 Part 7 と関連する文法の学習 (3)
- 13回 リーディングの復習
- 14回 総合復習 Part 1~Part 7
- 15回 模擬試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

① More Step-up Skills for the TOEIC Test

英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が年々増加している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、日本では年間約230万余の人々が受験している。TOEICスコアは多くの会社の就職時、就職後に求められているのが現状です。本授業ではTOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説、文法説明等を通して、英語の聴解力、文法力、読解力の向上を目指します。

② Styling Corporate Messages

経済のグローバル化が加速している今日、多くの日本企業は市場や生産拠点を求めて海外に進出している。一方、日本企業の動向に注目する海外の投資家も増加しています。こうした背景のなか、自社の製品・サービスの取引や資金調達を世界規模で推進するため、インターネットを利用した情報発信に力を注ぐ日本企業が、英語ウェブサイトにて英文情報を掲載している。授業ではこれらの掲載された英文情報を読み、企業や経済の動きに関わる情報を理解するのがねらいである。

教科書 /Textbooks

- ① More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 北男泰幸著 朝日出版社 1,800円
- ② Styling Corporate Messages 『世界で活躍する日本の企業』 椋平淳著 成美堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキスト ① More Step-up Skills for the ToEIC Test

第1回Unit 1 Eating Out : 外食・動詞 (1) ガイダンス (テキスト、授業の流れ、自宅学習の方法、成績評価等)

第2回Unit 2 Travel : 旅行・動詞 (2)

第3回Unit 3 Amusement : 娯楽・品詞

第4回Unit 4 Meeting : 会議・分詞

第5回Unit 5 Personnel : 人事・不定詞と動名詞 (1)

第6回Unit 6 shopping : 買い物・不定詞と動名詞 (2)

第7回Unit 7 Advertisement : 広告・仮定法

第8回Unit 8 Daily Life : 日常生活・受動態

テキスト ② Styling Corporate Messages

第9回Unit 1 美の世界基準をめざして — 花王

第10回Unit 2 世界制覇をめざしたブランド統一 — パナソニック

第11回Unit 3 自動車工場と自然環境の調和 — トヨタ

第12回Unit 4 創業100周年にむけたビジョン構築 — 三菱電機

第13回Unit 5 本業を活かした国際貢献 — コマツ

第14回Unit 6 フリート戦略 : アジアNo.1の航空会社にむけて — ANA

第15回Unit 7 付加価値サービスとスケールメリットの自動車事業 — オリックス

成績評価の方法 /Assessment Method

定期考査・ ・ 50% 小テスト・ ・ 40% 日常の授業への取り組み・ ・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語V (律政群 2-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業時には必ず辞書を持ってくる

予習の方法は第1回目の授業中に説明します

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - E
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐ使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

また法律関係に関する専門的な内容の英文も読んでいきます。「TOEICの対策で基本的な英語力をつけ、法律関係のリーディング教材で応用」というイメージで進めていきます。

教科書 /Textbooks

- ① 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』 国際ビジネスコミュニケーション協会
- ② リチャード・パウエル 他 『英語で学ぶ日本の法、世界の法』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高校時代に使用した参考書
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 ①TOEIC Testの概要 リスニングセッション / ② : chapter 1 わたしたちと法
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセッション / chapter 2 海外の法制度
- 4 パート1、パート5 / chapter 3 裁判所の構成、管轄
- 5 パート2、パート5 / chapter 1~3の内容のレビュー
- 6 パート1、パート5 / chapter 4 さまざまな法専門職
- 7 パート2、パート5 / chapter 5 近代法から現代法へ
- 8 パート1、2、5のレビュー / chapter 6 憲法
- 9 パート3、パート6 / chapter 4~6の内容のレビュー
- 10 パート4、パート7 / chapter 7 刑法
- 11 パート3、パート6 / chapter 8 民法
- 12 パート4、パート7 / chapter 9 刑事訴訟法と民事訴訟法
- 13 リスニングセッションのレビュー / chapter 7~9の内容のレビュー
- 14 リーディングセッションのレビューchapter 10 商法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Lesson 1 Trips and Transportation
- 3回 Lesson 2 Eating Out
- 4回 Lesson 3 Purchasing
- 5回 Lesson 4 Entertainment and Media
- 6回 Lesson 5 Climate and Health
- 7回 Lesson 6 Housing and Corporate Property
- 8回 Lesson 7 E-mail, Letters and Phoning
- 9回 Lesson 8 Personal Affairs
- 10回 Lesson 9 Meetings and Conferances
- 11回 Lesson 10 Finance and Budgeting
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales"The Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 試験 75%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本でいま起きている問題を海外に紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What's on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction (授業の進め方)
Unit 1 Ramen Revolution (1)
- 2回 Unit 1 Ramen Revolution (2)
- 3回 Unit 2 Top Twitter
- 4回 Unit 2 Top Twitter
- 5回 Unit 3 Hope for the Future
- 6回 Unit 3 Hope for the Future
- 7回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 8回 Unit 4 How to Beat the Heat
- 9回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 10回 Unit 5 Party, Brazilian-style
- 11回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 12回 Unit 6 Smart Phones, Smart Kidsnner Vision
- 13回 Unit 7 Frozen Frontier
- 14回 Unit 7 Frozen Frontier
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

教科書 /Textbooks

Check it out Book 3 by Milada Broukai Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Getting acquainted and filling out student information cards.
- 2 回 Unit 1 Text 1~12
- 3 回 Unit 2 Text 13~24
- 4 回 Unit 3 Text 25~36
- 5 回 Grammar Review Test Units 1~3 & Conversation test
- 6 回 Introduction to outlining & making outline about student "Home Prefecture"
- 7 回 Using last weeks outline to create a composition
- 8 回 Unit 4 Text 39~50
- 9 回 Unit 5 Text 51~62
- 10 回 Unit 6 Text 63~74
- 11 回 Grammar Review Test Units 4~6 & Conversation test
- 12 回 Outlining about student's personal preferences
- 13 回 Writing story about last week's outline
- 14 回 Introduction to public speaking from outlines
- 15 回 Speeches from last Week's outlines

成績評価の方法 /Assessment Method

70 % assignments 30% Final Examination
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Class preparation will vary according to the current assignment. Instruction about how to prepare will be given by the teacher on a weekly basis. Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with the teacher and other students will make studying fun for everyone. It is also helpful if you feel free to ask questions about anything you don't understand. It is best to ask the teacher, because the student you ask may not understand either.

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

以下の 5 項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。
 1 . 語彙を増やす 2 . リスニング力を強化する 3 . 文法、語法の知識を身につける
 4 . 速読の能力を高める 5 . 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

THE TOEIC TEST TRAINER Target 780" by B. A. Smith. (セングージ ラーニング)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Pre-test
- 第 2 回 Unit 1 申し出—名詞・代名詞・冠詞
- 第 3 回 Unit 2 意見—スキミング
- 第 4 回 Unit 3 可能性—比較
- 第 5 回 Unit 4 お知らせ・通知・注意—主語と動詞の一致
- 第 6 回 Unit 5 理由—フレーズリーディング
- 第 7 回 Unit 6 提案—分詞構文
- 第 8 回 Unit 7 口論—仮定法
- 第 9 回 Unit 8 天気予報—視野を広げる
- 第 10 回 Unit 9 依頼—動詞
- 第 11 回 Unit 10 雑談—並列法・倒置法
- 第 12 回 Unit 11 Wh疑問文—スキミング
- 第 13 回 Unit 12 発表・話—速読練習総合
- 第 14 回 Review
- 第 15 回 Post-test

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度および課題 30%、小テスト 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業は、TOEICテストについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を復習するとともに、TOEICで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の更なる養成を図る。また、英語で文章を作り、英語で会話する力も養成する。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5, vol. 3, vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Part 1 の学習と英文構築
- 3回 Part 2 の学習と会話の練習 (1)
- 4回 Part 2 の学習と会話の練習 (2)
- 5回 Part 3 の学習と読解の練習 (1)
- 6回 Part 3 の学習と読解の練習 (2)
- 7回 Part 4 の学習と読解の練習 (1)
- 8回 Part 4 の学習と読解の練習 (2)
- 9回 Part 5 の学習と文法の学習 (1)
- 10回 Part 5 の学習と文法の学習 (2)
- 11回 Part 6 の学習と文法の学習 (1)
- 12回 Part 6 の学習と文法の学習 (2)
- 13回 Part 7 の学習と文法の学習 (1)
- 14回 Part 7 の学習と文法の学習 (2)
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み...40% 単語テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ① More Step-up Skills for the TOEIC Test
英語を用いた国際的なコミュニケーションの必要性が増している現在、コミュニケーションに主眼を置いたTOEICテストは、英語力を測る物指しとして用いられている。TOEICは世界の約150ヶ国で実施され、日本では年間約230万余の人々が受験している。TOEICスコアは多くの企業の就職時、就職後に求められている。本授業ではTOEICテストに準拠した問題を解きながら、語彙の練習、英語表現の解説、文法説明等を通して英語の聴解力、読解力、文法力の向上を目指します。
- ② Styling Corporate Messages
経済のグローバル化が加速している今日、多くの日本企業は市場や生産拠点を求めて海外に進出している。一方、日本企業の動向に注目する海外の投資家も増加している。こうした背景のなか、自社の製品、サービスの取引や資金調達を世界規模で推進するために、インターネットを利用した情報発信に力を注ぐ日本企業が、英語ウェブサイトにて英文情報を掲載している。本授業では、これらの掲載された英文情報を読み、企業や経済の動きに関わる情報を理解するのがねらいである。

教科書 /Textbooks

- ① More Step-up Skills for the TOEIC Test 『一歩上を目指すTOEICテスト』 北野泰幸著 朝日出版社 1,800円
- ② Styling Corporate Messages 『世界で活躍する日本の企業』 棕平淳著 成美堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① More Step-up skills for the TOEIC Test
第 1回 Unit 9 Office Work : オフィスワーク・ 代名詞
第 2回 Unit 10 Business : ビジネス・ 数量詞
第 3回 Unit 11 Traffic : 交通・ 接続詞
第 4回 Unit 12 Finance and Banking : 金融と銀行業務・ 前置詞
第 5回 Unit 13 Media : マスメディア・ 語彙
第 6回 Unit 14 Health and Welfare : 健康と福祉
- ② Styling Corporate Messages
第 7回 Unit 8 店舗の多様化による顧客拡大 - ローソン
第 8回 Unit 10 統合による相乗効果を求めて - J.フロント リテイリング
第 9回 Unit 11 地球温暖化への挑戦 - 東京海上グループ
第 10回 Unit 12 日本の空から世界の空へ - 三菱重工業・ 三菱航空機
第 11回 Unit 14 TOPVALU : 顧客の声から生まれたブランド - イオン
第 12回 Unit 15 先端的研究機関で業界をリードする - 参天製薬
第 13回 Unit 16 和風の'うまみ'を西洋に - キッコーマン
第 14回 Unit 17 人材とともに成長する企業 - キーエンス
第 15回 Unit 18 トレンドを見通す独自の視点 - 博報堂

成績評価の方法 /Assessment Method

定期考査・ ・ 50% 小テスト・ ・ 40% 日常の授業への取り組み・ ・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 授業時には必ず辞書を持ってくる
- 予習の方法は第1回目の授業で説明

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - E
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テストの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。

文法、語彙力など英語の「基礎体力」を身につけて、それらが「すぐに使える」状態にもっていくために、「問題を解いて終わり」ではなく、学習した英語を使ったトレーニングを実践していきます。

また法律関係に関する専門的な内容の英文も読んでいきます。「TOEICの対策で基本的な英語力をつけ、法律関係のリーディング教材で応用」というイメージで進めていきます。

教科書 /Textbooks

- ① 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』 国際ビジネスコミュニケーション協会
- ② リチャード・パウエル 『英語で学ぶ日本の法、世界の法』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高校時代に使用した参考書
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション:授業進行の詳細、成績評価の詳細
- 2 ①TOEIC Testの概要 リスニングセクション / ②chapter 11 陪審員と裁判員
- 3 TOEIC Testの概要 リーディングセクション / chapter 12 国際法
- 4 パート1、パート5 / chapter 13 犯罪学
- 5 パート2、パート5 / chapter 11~13のレビュー
- 6 パート1、パート5 / chapter 14 ことばと法
- 7 パート2、パート5 / chapter 15 ジェンダーと人種の平等に関する法
- 8 パート1、2、5のレビュー / chapter 16 人権法
- 9 パート3、パート6 / chapter 14~16 のレビュー
- 10 パート4、パート7 / chapter 17 司法制度改革
- 11 パート3、パート6 / chapter 18 知的財産法
- 12 パート4、パート7 / chapter 19 家族法
- 13 リスニングセクションのレビュー / chapter 20 法と社会科学
- 14 リーディングセクションのレビュー / chapter 17~20のレビュー
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
- 毎回の小テスト:30%
- 期末試験:50%
- 最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST 基本レッスン』 by 今村洋美 野田恵剛 西村智 柳朋宏 鶴見書店
Wicked and Shuddering Tales by Yoko Hosokawa 開文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 模擬テスト Part 1 Part 2
- 3回 模擬テスト Part 3
- 4回 模擬テスト Part 3
- 5回 模擬テスト Part 4
- 6回 模擬テスト Part 4
- 7回 模擬テスト Part 5
- 8回 模擬テスト Part 6
- 9回 模擬テスト Part 7
- 10回 模擬テスト Part 7
- 11回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "Shredni Vashtar"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "A Pair of Hands"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 試験 75%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前期に続いて、日本でいま起きている問題を海外に紹介するNHK衛星放送の番組を教材に、英語ニュースを聴いて理解します。英語ニュースの内容を理解するのに必要な構文力や語彙力など、読解力の向上を図ります。シャドーイングやオーバーラッピングなどを通して、英語のリズムやイントネーションに慣れるようにします。社会の出来事に対して考察力をつけ、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“What's on Japan 8 : NHK English News Stories” 山崎達朗/ Stella M. Yamazaki 編著
金星堂 2014年 ISBN978-4-7647-3973-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 8 Top Skills on Display
- 2回 Unit 8 Top Skills on Display
- 3回 Unit 9 Reality Check
- 4回 Unit 9 Reality Check
- 5回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 6回 Unit 10 Saving the Rain Dance
- 7回 Unit 11 Building a Better Ball
- 8回 Unit 11 Building a Better Ball
- 9回 Unit 12 Clean-up Relay
- 10回 Unit 12 Clean-up Relay
- 11回 Unit 13 Music for a Silent World
- 12回 Unit 13 Music for a Silent World
- 13回 Unit 15 Sleeping Business
- 14回 Unit 15 Sleeping Business
- 15回 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験や課題などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況 (小テストを含む) と課題・・・ 30% 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①テキスト付属のDVDを活用し、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を持参すること。
- ③やむを得ず欠席する場合は、連絡をすること。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues: Upper Intermediate by Ken Wilson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Adventure
Week 3: Crime
Week 4: Culture Clash
Week 5: Ecology
Week 6: Freedom
Week 7: Globalization
Week 8: Horror
Week 9: Language
Week 10: London Life
Week 11: Love
Week 12: Money
Week 13: Presentations
Week 14: Presentations
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名
/Instructor

アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Asking open and closed questions.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Communication Strategy. Repeating.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Giving long answers.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. Agreeing and disagreeing.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Interrupting. Getting a word in.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 2 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed every week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson A: Getting to know you
- 2 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson B: People and things we like
- 3 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson A: Countries of the world
- 4 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson B: What is your city like?
- 5 回 Unit 3: Personal Items: Lesson A: Gift giving
- 6 回 Unit 3: Personal Items: Lesson B: Keepsakes
- 7 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson A: Everyday activities
- 8 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson B: At school
- 9 回 Unit 5: Food: Lesson A: Food and eating habits
- 1 0 回 Unit 5: Food: Lesson B: Food and health
- 1 1 回 Unit 6: My Family: Lesson A: This is my family!
- 1 2 回 Unit 6: My Family: Lesson B: Family relationships
- 1 3 回 Unit 7: Time: Lesson A: Time and schedules
- 1 4 回 Unit 7: Time: Lesson B: Free time
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /ASKING FOLLOW UP QUESTIONS
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 ADDRESSING PEOPLE IN BUSINESS/SOCIAL SITUATIONS
- 1 0 回 ASKING ABOUT PERSONAL EXPERIENCES
- 1 1 回 ASKING & ANSWERING ABOUT COMPLETION OF TASKS
- 1 2 回 MONEY MATTERS: LARGE NUMBERS & PRICES
- 1 3 回 MONEY MATTERS: DOLLARS AND CENTS
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にWords and Phrasesで記事に記載されている単語と熟語を確認し、Summaryで記事の内容を予想する。次に記事を読解し、Multiple ChoiceとTrue or Falseで理解度をチェックする。最後にVocabularyで記事に関連した語法を学ぶ。

[授業のねらい]

- (1)The New York Times, International Herald Tribune, The Associated press等の英字新聞から社会、文化、政治経済、言語、教育等のあらゆる分野を網羅した、身近な世界のニュースに触れ、楽しみながら、多角的且つ複眼的に英語力を培う。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media 『15章版 ニュースメディアの英語』 ￥1,200
編著者：高橋優身、伊藤典子、Richard Powell
出版社：Asahi Press
発行：2014年1月

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell
- 第3回 Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第4回 Unit 3 Treasure Island Trauma
- 第5回 Unit 4 No, Greenland does not belong to China
- 第6回 Unit 5 Mobile devices are new black bags for physicians
- 第7回 Unit 6 Off-the-air TV drama in Iran
- 第8回 Unit 7 Boy attends New York school remotely via robot
- 第9回 Unit 8 Kagawa shines with hat trick, Manchester United captures 20th English League crown
- 第10回 Unit 9 'Abenomics' out of the gate
- 第11回 Unit 10 In Gabon, Lure of Ivory Is Hard for Many to Resist
- 第12回 Unit 11 U.S. border security is better. Is it enough?
- 第13回 Unit 12 Are there any Europeans left?
- 第14回 Unit 13 Geopolitics and the shale revolution
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Ideas and Issues: Upper Intermediate by Ken Wilson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Adventure
Week 3: Crime
Week 4: Culture Clash
Week 5: Ecology
Week 6: Freedom
Week 7: Globalisation
Week 8: Horror
Week 9: Language
Week 10: London Life
Week 11: Love
Week 12: Money
Week 13: Presentations
Week 14: Presentations
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 1単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
 The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.
 Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Organizing Ideas.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Criteria Evaluation.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Signposting and signal words.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Comparing and contrasting.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. In depth details.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Summarizing arguments.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - D) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Textbook by Jay M Myler. Rising Sun Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
- 10.Topic: The Great Kings
- 11.Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Class opening: Getting ready
- 2 回 Unit 7: Time:Lesson A: Time and Schedules
- 4 回 Unit 7: Time:Lesson B: Free time
- 3 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson A: Holidays and celebrations
- 5 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson B: Festivals!
- 6 回 Unit 9: Person to Person:Lesson A: Living with others
- 7 回 Unit 9: Person to Person:Lesson B: Modern dating
- 8 回 Midterm Exam
- 9 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson A: Housing
- 10 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson B: Decorate a room
- 11 回 Unit 11: Clothing:Lesson A: Shopping for clothes
- 12 回 Unit 11: Clothing:Lesson B: Clothing dos and don'ts
- 13 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson A: Jobs
- 14 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson B: Getting a job
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Midterm and Final Examinations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にListening と Readingにより本文の内容を把握する。次に、Let's Skimで重要な情報を大まかに得る。更に、Dialogでエッセイに関連した会話を聞きとることによって、本文の理解をより深める。最後に、Vocabulary Review で日常使える用語の練習をし、発信型英語の基礎作りを図る。

[授業のねらい]

- (1)日本文化に対する理解を深めると同時に、読解力を向上させ、英文の基本的な論述の形式を身に付ける。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Let's Introduce Japanese Culture! 『日本文化を世界に!』 ￥1,800
編著者：肥川絹代、薬師寺元子、David Farnell
出版社：栄宝社
発行：2014年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に説明する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 The Spirit of Japanese Hospitality
- 第3回 Unit 2 Superb! Tokyo Skytree
- 第4回 Unit 3 Japanese Seasonal Charms: The Bewitching Beauty of Kimono
- 第5回 Unit 4 Japanese High-Quality technology
- 第6回 Unit 5 Healthy and Colorful Japanese Cuisine
- 第7回 Unit 6 Destruction and Creation: Japanese Stage Art
- 第8回 Unit 7 Hospitality and Peace in Japanese Robots
- 第9回 Unit 8 Samurai Spirit
- 第10回 Unit 9 Anime: A Japanese Soft Power
- 第11回 Unit 10 Hot Springs: Let's Become Healthy and Beautiful!
- 第12回 Unit 11 Video Games for Everyone
- 第13回 Unit 12 Tranquility and Dynamism in Competitive Calligraphy
- 第14回 Unit 13 Kawaii Going Global
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典を必ず持参のこと。(電子辞書も可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以 】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 中国語概説・単母音と声調
- 2 . 子音 1 と複母音 1
- 3 . 子音 2 と複母音 2 ・ 基本挨拶
- 4 . 鼻母音・音節と音便・教室用語
- 5 . 発音の復習とまとめ
- 6 . 「自己紹介」（判断文・疑問文 1 ・ 人称代名詞）
- 7 . 復習と実用練習
- 8 . 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文 2 ）
- 9 . 復習と実用練習
- 10 . 「両替」（願望表現・数字・場所）
- 11 . 復習と実用練習
- 12 . 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
- 13 . 復習と実用練習
- 14 . 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
- 15 . 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関（本文）
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州（本文）
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡（本文）
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀（本文）
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎（本文）
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国（本文）
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道（本文）
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 蘇 小楠 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語VIII 【昼】

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

嚴基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち表現】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ヘアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。
韓国語で発表をする形で会話テストがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人律政群
/Class 2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks
ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 . オリエンテーション、シラバス紹介
 - 2 . インタビューする
 - 3 . インタビューする
 - 4 . 自己紹介する
 - 5 . 自己紹介する
 - 6 . 自己紹介する
 - 7 . 決まりを言う
 - 8 . 決まりを言う
 - 9 . 約束をする
 - 10 . 約束をする
 - 11 . 約束をする
 - 12 . 道案内をする
 - 13 . 道案内をする
 - 14 . 道案内をする
 - 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回体の具合を言う
- 10回体の具合を言う
- 11回体の具合を言う
- 12回勉強の仕方を話す
- 13回勉強の仕方を話す
- 14回勉強の仕方を話す
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニティ論【昼】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コミュニティとは、今日では単に特定の場所や集団と同一視することができず、一つの理念で説明もできない用語といえる。社会学的視点による伝統的なコミュニティ(血縁・地縁に基づく近隣集団、小規模な町、空間的に限定される地域社会や職業に基づく特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在する。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン、グローバリゼーション、インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場もありうる。そのため伝統的コミュニティ及び、今日的解釈を通じたコミュニティでの人間関係を理解することをねらいとする。一方で、学生はコミュニティの曖昧さと今日の社会関係の多様性と匿名性を理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料配布による

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：社会、地域社会、コミュニティについて
- 第2回 伝統的コミュニティの概念
- 第3回 コミュニティの概念の多様性
- 第4回 今日のコミュニティの基本的な捉え方
- 第5回 地域社会の変化と今日の地域生活①社会環境的研究と精神的健康
- 第6回 地域社会の変化と今日の地域生活②地域における人間関係
- 第7回 社会関係資本としてのコミュニティ
- 第8回 コミュニティ調査研究①【地域活動】
- 第9回 コミュニティ調査研究②【地域の互酬性】
- 第10回 調査結果に見る地域における関係性の多様化
- 第11回 関係性の変化と地域における教育
- 第12回 関係性の多様化と地域の位置づけ【ネットワークコミュニティ、バーチャル・コミュニティ】
- 第13回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ
- 第14回 コミュニティ再生への希求と郷愁
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(課題・レポート提出等) 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州社会論 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
この講義は、北九州地域の社会状況について幅広く学び地域理解を深めるとともに、地域が抱えるさまざまな問題点について、発生の背景や取り組みについて共に考えていきます。
具体的には、北九州市の生い立ち、都市環境や産業の姿、行政施策の今と昔について学び、また市民生活に関する諸調査やまちづくり事例研究などについても紹介、解説します。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。必要に応じて、授業の中で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに 都市とはなにか、そして北九州市の紹介
 - 2回 北九州市の生い立ち 【時代の節目に登場する北九州】 【市勢要覧】
 - 3回 北九州市の地域政策の歴史① 【マスタープラン】
 - 4回 北九州市の地域政策の歴史② 【ルネッサンス構想】 【「元気発信！北九州」プラン】
 - 5回 統計でみる産業構造と北九州 【事業所統計】
 - 6回 統計でみる北九州社会の姿 【社会生活指標】
 - 7回 北九州の産業と人物、今と昔① 【北九州の4k】
 - 8回 北九州の産業と人物、今と昔② 【北九州の企業家たち】
 - 9回 北九州の産業、今日と明日 【北九州発のイノベーション】
 - 10回 北九州市（行政）のまちづくり事例
 - 11回 北九州市の市民力
 - 12回 北九州市の住みよさ評価① 【相対性、フルセット都市】
 - 13回 北九州市の住みよさ評価② 【比較の意義、ソーシャル・キャピタル】
 - 14回 北九州市政と市民意識の動向
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
日常の授業への取り組み... 30% 期末レポート(ミニレポート含む)ト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
主として、「北九州を知らない、だから詳しく知りたい」学生を対象としています。日頃から北九州情報に注目しておいてください。それが皆さん自身の予習となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア形成論【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事求められています。その手順は以下になります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思います。また、社会人学生の皆さんは、普段の仕事で課題や問題点を抱えていらっしゃると思います。そのような皆さんに、即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドウハウ』野口吉昭編 PHP 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【帰納法】
- 5回 フレームワークシンキング(1)【フレームワーク】
- 6回 フレームワークシンキング(2)【ロジックツリー】
- 7回 フレームワークシンキング(3)【マトリックス】
- 8回 フレームワークシンキング(4)【フレームワークシンキング演習】
- 9回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考とは】
- 10回 クリティカルシンキング(2)【複眼的にみる】
- 11回 クリティカルシンキング(3)【データの見方】
- 12回 クリティカルシンキング(4)【クリティカルシンキング演習】
- 13回 ディスカッションの方法(1)【ブレーンストーミング】
- 14回 ディスカッションの方法(2)【KJ法・ブレインライティング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになります。

キャリア形成論 【昼】

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、ブレインストーミング、KJ法、ブレインライティング

システム活用 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本授業では、システム活用の基礎知識について学習する。システムに関する知識が業務上の問題解決に適用できることを理解し、システム利用者としての必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、グループディスカッションや個人ワークなどを通じて、システムを活用していく際の問題点を共有し、利用時の正しい判断について議論する。

教科書 /Textbooks
 『情報処理教科書 ITパスポート』（芦屋 広太著）翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○ 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 企業と法務
 - 3回 経営戦略
 - 4回 システム戦略
 - 5回 開発技術
 - 6回 プロジェクトマネジメント
 - 7回 サービスマネジメント
 - 8回 基礎理論
 - 9回 コンピュータシステム
 - 10回 マルチメディア
 - 11回 ヒューマンインターフェース
 - 12回 データベース
 - 13回 ネットワーク
 - 14回 セキュリティ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題 ... 40%
 積極的な授業への参加 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 毎回、各自の視点に基づく疑問点を発表してもらう。その疑問点について、グループディスカッションや質疑応答を繰り返しながら、授業を展開する。受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords
 ストラテジ マネジメント テクノロジ

地域創生実習I【昼】

担当者名 伊野憲治 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
- 12～15回 前期実習の振り返り、報告
- 16～19回 後期実習前指導
- 20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
- 27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 伊野憲治 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2～4回 実習前指導
5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
12～15回 前期実習の振り返り、報告
16～19回 後期実習前指導
20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～13回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 14回～15回 前期実習・活動の振り返り
- 16回～27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 伊野憲治 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
- 12～15回 前期実習の振り返り、報告
- 16～19回 後期実習前指導
- 20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
- 27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
14回～15回	前期実習	活動の振り返り			
16回～27回	後期実習	【地域創生力】	【チームでの協働】	【課題解決】	【企画】
28回～29回	後期実習	活動の振り返り			
30回	まとめ				

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～13回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 14回～15回 前期実習・活動の振り返り
- 16回～27回 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 28回～29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
14回～15回	前期実習・活動の振り返り
16回～27回	後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
28回～29回	後期実習・活動の振り返り
30回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習I【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習Iでは性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。また、考案したスポーツ種目のルールなどを小学校低学年の子供たちにグループ単位で実際に指導する。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日等を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習IIはスポーツボランティア実習Iをふまえ幅広い年齢層やスポーツ種目に合わせた形で実際の指導や講習などを積極的に行っていく。スポーツボランティア実習Iのグループ学習から、個人の資質を高めることに重点を置き、地域のスポーツ指導やキッズスポーツ指導などを行う。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
 また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日等を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習II 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群・上村英樹/非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 スポーツボランティア実習では、地域で必要とされる活動の実施やイベントの企画、補助、ボランティアへの参加など地域が抱える様々な問題や課題を考える。また、地域の子供やシニア世代との交流を深め自身にできることや、やらなければいけないことを考え自分自身を高めていく。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要な資料は適宜配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～13回	前期実習
14回～15回	前期実習・活動の振り返り
16回～27回	後期実習
28回～29回	後期実習
30回	後期実習・活動の振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度や姿勢	50%
実習への積極的な参加	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 学外授業への取り組み指導
- 3～4回 車いすの基本操作
- 5～6回 マップの作成と評価
- 7～8回 水泳
- 9～10回 車いすで運動・スポーツ
- 11～12回 学外授業(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 13回 障害者アスリート講演・実技体験
- 14回 障害者スポーツ大会実施種目の体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を感じ取る。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 高齢者疑似体験
- 3～5回 レクリエーションスポーツ
- 6～8回 視覚障害者のスポーツ
- 9～10回 学外授業(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 11～12回 肢体不自由者のスポーツ
- 13回 重度障害者のスポーツ
- 14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted(適応・応用)」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ボッチャ【重度障害者】【脳性麻痺】
- 3回 陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
- 4回 陸上競技②【投てき】【伴走】
- 5回 卓球①【聴覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 6回 卓球②【サウンドテーブルテニス】
- 7回 フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 8回 水泳①【障害者に合わせた指導】
- 9回 水泳②【障害者に合わせた指導】
- 10～11回 アダプテッド・スポーツプログラムの作成【個人で立案】
- 12～13回 アダプテッド・スポーツプログラムの実施・評価
- 14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 前半のまとめ
- 16回 実習プロジェクトに向けたオリエンテーション
- 17回 実習プロジェクト【企画・立案】
- 18回～28回 実習プロジェクト
- 29回 障害者アスリート講演・実技体験
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習(平常授業)への取り組み・・・50% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。実習6時間以上、水泳3時間は必修です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 眞鍋和博 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生学群で実習をすすめていくために必要な考え方やチーム形成を学びます。FMラジオ番組企画制作実習のガイダンスを行い、各チームで自律的主体的にすすめていきます。また、ポートフォリオの書き方をレクチャーしつつ、自己の目標設定やセルフマネジメントの手法を学びます。後半では、各コース、各実習チームに分かれてのチームミーティングや進捗発表などを行います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第01回オリエンテーション・実習の心構え
 第02回FMラジオ番組企画制作実習ガイダンス
 第03回ポートフォリオ1
 第04回FMラジオ番組企画制作実習プレゼン1(1限+2限)
 第05回ポートフォリオ2
 第06回FMラジオ番組企画制作実習プレゼン1(1限+2限)
 第07回各コースごと
 第08回各コースごと
 第09回各コースごと
 第10回各コースごと
 第11回各コースごと
 第12回各コースごと
 第13回各コースごと
 第14回各コースごと
 第15回アセスメント解説・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 FMラジオ番組企画制作実習は、各チームごとに授業時間外にミーティング等を行い、やるべきことを期日までに仕上げる必要があります。また、各コース、実習ごとに分かれてからは、水曜日の1限、2限を使ってミーティング等を行います。詳しくは、第1回目の授業のときに説明します。
 遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 伊野憲治 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップを、グループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 片岡寛之 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度...50%
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
 地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。
 地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永政夫 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、ファシリテーションについて学習する。プロジェクトを進めるにあたり、チームの相互理解や情報共有を促し、問題解決や新アイデア創出などを促進するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、ファシリテーションのスキルを用いて、チームで話し合いを行う際の問題点を共有し、その解決に向けて議論する。

教科書 /Textbooks

『ファシリテーターの工具箱』（森時彦）ダイヤモンド社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』（浅見淳一著、中嶋秀隆監修）総合法令出版
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』（中憲治著、中嶋秀隆監修）総合法令出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回～14回：発表とディスカッション
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords

ファシリテーション プロジェクト・マネジメント

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、ストラテジとマネジメントの基礎的な部分を学習します。これにより、様々なプロジェクトでの企画・立案、計画の遂行、評価といった一連のプロセスを効率的に実施できるようになります。最終的には、実習活動において得られた知識を活用できるようにすることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 6回 マネジメントの基礎
- 7回 マネジメント部分のまとめ
- 8回～ 13回 ストラテジの基礎
- 14回 ストラテジ部分のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ゼミでチームを組んで進めていくうえでチームの相互理解や情報の共有を保ちながら問題を解決していくことや新たな発想を創造していくために必要な考え方や行動を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域福祉のコースでは、地域における介護や子育て支援や人権文化の促進など、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指している。基礎演習Cにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「勇気づけの家族コミュニケーション」(アドラー心理学)という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「続アドラー心理学トークンセミナー 勇気づけの家族コミュニケーション」野田俊作著, アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「アドラー心理学トークンセミナー 第二部 共同体」野田俊作著, アニマ21

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 家族コミュニケーションについて(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと, 気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと, 気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の担当箇所の発表内容は配布資料として作成して事前に担当教師まで提出のこと。

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Cでは、行動経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。そのテーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者力を身に付けていきます。

これとは別に、地域創生実習Iを受講している皆さんの活動についても、この基礎演習Cで報告してもらい、皆で議論していきます。地域活動の実践と振り返りを重ねながら今後の皆さんの活動に活かしましょう。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「行動経済学」に関するアプローチの方法
- 2回～ 4回 「題材」の設定と分担、【バイアス】、【ヒューリスティック】、【消費者力】
- 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的な運営を目指します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「まちについて調べてみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々な地域におけるまちづくりの事例について学びながら、自らテーマを設定し、まちに関する様々な事項について調べることを通して、まちに対する理解を深め、主体的に取り組む姿勢を養うことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション【目標の共有】
 2～4回 地元のまちについて調べて発表する【文献・データ収集】
 5～14回 まちづくりの成功事例を調べて発表する【まちづくり】【文献・データ収集】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1年次の地域創生基礎演習Bでやってきたことを踏まえ、さらに問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
- 2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域活性化のツールとして、英国発祥のフットパスについて勉強し、議論する。
 これまでの観光の取り組みに対する課題を精査し、新たな観光の可能性を模索する。
 人と人をつなぐ新たな観光の可能性を模索することで、地域活性化に有効な手法を検討する。
 また、学習するだけでなく実践し、現場で学ぶことを身に着けるとともに、自分たちで地域を実際に活性化させるための活動を行う。

教科書 /Textbooks

平松紘（2002）『ウォーキング大国イギリス』明石書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 篠原徹（編）（1998）『民俗の技術(現代民俗学の視点)』朝倉書店
- 菅豊（2005）『川は誰のものか-人と環境の民俗学(歴史文化ライブラリー)』吉川弘文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキストの輪読①
- 第3回：テキストの輪読②
- 第4回：テキストの輪読③
- 第5回：テキストの輪読④
- 第6回：テキストの輪読⑤
- 第7回：テキストの輪読⑥
- 第8回：テキストの輪読⑦
- 第9回：テキストの輪読⑧
- 第10回：テキストの輪読⑨
- 第11回：テキストの輪読⑩
- 第12回：テキストの輪読⑪
- 第13回：テキストの輪読⑫
- 第14回：テキストの輪読⑬
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極性等：）50％
 専門的知識の習得度：50％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時間外で課外活動を行うことがあります。
 この活動に積極的に参加することが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、単に専門的知識の充足だけでなく、その専門的知識を生かし、実際に地域社会を活性化する必要があります。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本演習では、リーダーシップについて学習する。プロジェクトを進めるにあたり、チームワークを引き出し、チームの成果が最大となるように支援するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、チームで活動する際の問題点を共有し、その解決に向けて議論する。

教科書 /Textbooks
 『リーダーシップ論』（選定中、オリエンテーション時に指示します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション
 2回～14回 : 発表とディスカッション
 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords
 リーダーシップ ミッション 行動指針 プロジェクト・マネジメント

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、人とのディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回～ 3回 実践活動の検証とフィードバック
 4回～ 14回 ストラテジ、マネジメントに関する書籍の輪読とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Dでは卒業論文・卒業実践報告の作成にむけ、どのようにテーマを見つけていくのか。また、文献調査や関係者からの聞き取り調査などを行う。

教科書 /Textbooks
 資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 関心のある事例をあげてみる
 - 2回 スポーツ指導者について
 - 3回 スポーツをとおした地域貢献について 1
 - 4回 スポーツをとおした地域貢献について 2
 - 5回 スポーツをとおした地域貢献について 3
 - 6回 スポーツ実施者の問題点について 1
 - 7回 スポーツ実施者の問題点について 2
 - 8回 スポーツ実施者の問題点について 3
 - 9回 データの収集 1
 - 10回 データの収集 2
 - 11回 データの収集 3
 - 12回 データの分析 1
 - 13回 データの分析 2
 - 14回 データの分析 3
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 配布されたプリント等は毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理・メンタルヘルスに関する理論の一つを基礎から応用までをガッチリ学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分のメンタルを健康にする方法と内容について学ばねばならない。基礎演習Dにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「あるがまま・とらわれ」（森田療法）という心理療法の概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二監修，講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著，白掲社

地域創生基礎演習D 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 メンタルにおけるタフさ「あるがまま」について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと,気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと,気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前の予習を行うこと。必ず当日の予定学習箇所は一読して自分の疑問点や課題を把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Cの内容を発展させるため、引き続き基礎演習Dにおいても、行動経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者力を身につけていきます。2年次後半でもあり、特に、自らの報告スタイルに少しでも自信がもてるようなプレゼンテーションを期待しています。
これとは別に、地域創生実習Iを受講する皆さんの活動についても、継続してこの基礎演習Dで報告してもらい皆で議論していきます。
なお、3年次以降の地域創生演習に備え、「卒業論文」や「卒業実践報告」に向けたテーマ決めについても取り組みます。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回～ 4回 「題材」の再設定と分担、【行動経済学】、【プロスペクト理論】【実習報告】
- 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的な参加と、いっそう充実したゼミ運営を目指します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「色々なまちと比較してみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々なまちとの比較を通して自分のまちを客観視することを学び、まちに対する理解をさらに深めること、3年次以降、本格的に地域の調査を始める上で必要となる基本的な事項について学ぶことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習に関する報告【振り返り】
- 5～6回 グループディスカッション【職業】
- 7～12回 調査結果の報告【データ収集】【分析】
- 13～14回 実習に関する報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
引き続き地域創生基礎演習Cでやってきたことを踏まえ、問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 インTRODクシヨN(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
2回~14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度...50% 積極的な演習への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらおう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域活性化のツールとして、英国発祥のフットパスについて勉強し、議論する。
 これまでの観光の取り組みに対する課題を精査し、新たな観光の可能性を模索する。
 人と人をつなぐ新たな観光の可能性を模索することで、地域活性化に有効な手法を検討する。
 また、学習するだけでなく実践し、現場で学ぶことを身に着けるとともに、自分たちで地域を実際に活性化させるための活動を行う。

教科書 /Textbooks
 特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回：イントロダクション
 第2回：フットパスに関するディスカッション①
 第3回：フットパスに関するディスカッション②
 第4回：フットパスに関するディスカッション③
 第5回：フットパスに関するディスカッション④
 第6回：フットパスに関するディスカッション⑤
 第7回：フットパスに関するディスカッション⑥
 第8回：フットパスに関するディスカッション⑦
 第9回：フットパスに関するディスカッション⑧
 第10回：フットパスに関するディスカッション⑨
 第11回：フットパスに関するディスカッション⑩
 第12回：フットパスに関するディスカッション⑪
 第13回：フットパスに関するディスカッション⑫
 第14回：フットパスに関するディスカッション⑬
 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への積極的姿勢：50%
 専門的知識の習得度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本授業は時間外に課外活動を行うことがある。
 この課外活動に積極的に参加することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本授業は、専門的知識の充足のみならず、その知識を活用して実際に地域活性化につなげる活動も合わせて行うことを目的としている。

キーワード /Keywords

相談援助実習【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓 石塚優 深谷裕/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 6単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間以上である。
 社会福祉施設・機関において、23日間（1日8時間）以上の実習を行う。
 実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。
 実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。
 詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価（50%）+ 教員による実習評価（50%）= 100%
 なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかみの単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか 1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなどはできるように自己学習に励んでいただきたい。
 本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
 ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 ②同年度に「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本演習では、マネジメントの基礎と原則について学習する。また、プロジェクトを計画的に進めることができるようになるために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。

教科書 /Textbooks
 『マネジメント論』（選定中、オリエンテーション時に指示する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション
 2回～14回 : 発表とディスカッション
 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords
 マネジメント マーケティング イノベーション プロジェクト

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、地域が抱える課題の発見を目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での具体的なテーマや方向性を決定することを目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 イン트로ダクション
 2回～ 14回 地域が持つ課題に関するディスカッションとそれに関するテーマの学習
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市のスポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成する。その年度によって計画が大きく変更されることは大いに予想されます。各年度に特徴をもった年間計画（長期的指導プラン）や数か月単位ごとに行う（短期的指導プラン）・シーズンスポーツも含めて計画していく。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 1
- 2回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 2
- 3回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 1
- 4回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 2
- 5回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 6回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 7回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 8回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 9回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 10回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 11回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 12回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 13回；組織の在り方を議論する
- 14回；組織の在り方を議論する
- 15回；2学期へのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・ 60%
達成度・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
本演習では、地域が抱える課題を共有し、その対策について考察する。また、マネジメントの視点から可能なアプローチについて議論する。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回～14回 : 発表とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords
マネジメント 地域 プロジェクト

地域創生演習B 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究の課題発見と具体的な改善案の提示を目指します。最終的には、今後の研究実践活動の具体的なテーマに対する基礎的知識の習得と詳細な実施計画の立案を目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODakシヨン
 2回～14回 学生の研究テーマに対する書籍、論文の輪読とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市スポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成したものをを用いて実際に指導にあたる。
車椅子野球や総合型スポーツクラブACEの取り組みの中で様々な種目の実践や指導をおこなう。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回；幼児期の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 2 回；幼児期の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 3 回；幼児期の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 4 回；小学生の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 5 回；小学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 6 回；小学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 7 回；中学生の体を動かす、(体育・スポーツ活動) の楽しさを考える
- 8 回；中学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 9 回；中学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 10 回；シニアの健康を考える・・・指導の留意点
- 11 回；シニアの健康を考える・・・楽しい指導を考え実践の準備をする
- 12 回；指導演習 (1)
- 13 回；指導演習 (2)
- 14 回；指導演習 (3)
- 15 回；指導演習 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・60%
達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切にし、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。
スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
本演習では、今まで取り組んできた地域活動について、総括を行う。各自のテーマについて必要な調査や資料収集などを行う。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回~14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間などを含む)に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作してほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本演習では、地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題に関するディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究をより深く考察し、総括するための準備を行います。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨN
 2回～14回 学生の研究テーマに対する書籍や論文の輪読とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
 また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでのスポーツ・ボランティアの実践を通して自らの関心に応じた実践テーマを選択し、調査、研究を行っていく。
また、報告、ディスカッション等を随時行いながら研究発表に向けたまとめに取り組む。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒論に向けた指導オヨビディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次から4年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本演習では、各自のテーマについてまとめていく。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間などを含む)に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本演習では、各学生が取り組んでいる実践や研究を知見としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 イン트로ダクション
 2回～14回 実践や研究に関するディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
 また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

卒論に向けてのディスカッションや個別指導を行う

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、1年次1学期活動の確認
- 2、1年次2学期活動の確認
- 3、1学年をまとめる
- 4、2年次1学期活動の確認
- 5、2年次2学期活動の確認
- 6、2学年をまとめる
- 7、3年次1学期活動の確認
- 8、3年次2学期活動の確認
- 9、3学年をまとめる
- 10、卒論テーマ決定
- 11、卒論指導1
- 12、卒論指導2
- 13、卒論指導3
- 14、卒論指導4
- 15、卒論指導5

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次から4年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導 1
- 3回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導 2
- 4回～ 8回 : 研究途中経過報告 1回目
- 9回～ 13回 : 研究途中経過報告 2回目
- 14回 : 中間報告会
- 15回～ 19回 : 研究途中経過報告 3回目
- 20回～ 24回 : 研究途中経過報告 4回目
- 25回～ 28回 : 研究途中経過報告 5回目
- 29回 : 最終報告会
- 30回 : 総評

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・卒業実践報告書 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行つてのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文・実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回、 オリエンテーション
- 2・3回、 論文・報告書の書き方指導
- 4～8回、 研究途中経過報告1回目
- 9～13回、 研究途中経過報告2回目
- 14回 中間報告会
- 15～19回、 研究途中経過報告3回目
- 20～24回、 研究途中経過報告4回目
- 25～28回、 研究途中経過報告5回目
- 29回、 最終報告会
- 30回、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミは、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分行って望むこと。
また、時間外においても随時、教員と連絡を取りアドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks
 とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
- 2回 地域社会の変化について①
- 3回 地域社会の変化について②
- 4回 地域社会の変化について③
- 5回 地域社会の変化について④
- 6回 中間まとめと課題提起
- 7回 課題の実施
- 8回 地域再生とコーディネート
- 9回 福祉とコーディネート
- 10回 まちづくりとコーディネート
- 11回 受講生からの提起①
- 12回 受講生からの提起②
- 13回 地域の「私」「公」「共」①
- 14回 地域の「私」「公」「共」①
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 講義では、テーマに即してレジюмеや資料を配布する。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジюмеを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。
 本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)(変更する可能性がありますので学期が始まってからの指示に従ってください)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。
 教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が4人のため、授業内容の変更等がありますのでご了解下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、政治制度、政治に参加する人々（有権者、マスメディア、政党、利益集団、官僚制、首相・大統領）への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2-3枚）を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
 伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 【政治システム】【権力】
- 第2回 民主政治の諸制度(1) 【デュベルジェの法則】【機械的效果】【心理的效果】
- 第3回 民主政治の諸制度(2) 【議会の機能】【変換型議会】【アリーナ型議会】
- 第4回 政治文化 【政治的社会化】【脱物質的価値観】
- 第5回 マスメディア 【疑似環境】【議題設定効果】【プライミング効果】
- 第6回 政治参加・投票行動(1) 【制度的参加】【非制度的参加】
- 第7回 政治参加・投票行動(2) 【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第8回 政治家・政党(1) 【大衆政党】【包括政党】【カルテル政党】
- 第9回 政治家・政党(2) 【ダウンズモデル】【連合理論】
- 第10回 利益集団(1) 【利益集団】【集合行為論】
- 第11回 利益集団(2) 【権力構造論】
- 第12回 官僚制 【政治行政二分論】【政治行政融合論】【逆機能】
- 第13回 政治システム 【利益表出機能】【利益集約機能】
- 第14回 首相・大統領 【リーダーシップ】【PM理論】
- 第15回 地方政治・ガバナンス 【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。
 「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)
 ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』(東洋経済新報社、2012年)。
 阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』(岩波書店、2008年)
 阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は?
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会(1)・・・リサイクルは環境に優しいのか?
- 10回 循環型社会(2)・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。
 本年度は授業内容(循環型社会の回数等)を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 : Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係])について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥2,625)

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例 : 川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表!
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例 : 名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

政策過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ディレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末レポート得点から2点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

戦後の経済成長に伴い都市化が急速に進行し、大都市へ人口が流入してきた。それにより、都市の問題が生じてきている。本講義では、都市における問題による地方における問題を都市化の経緯と共に現代の問題を説明する。
講義の内容は、大きく2つに分かれる。前半は都市経済の理論的説明、後半は理論を基にして具体的な都市政策を説明した後実践例を取り上げる。本講義は、都市における問題を捉えると共に地方都市と大都市との関係性についても述べるため、マクロ、ミクロ、メゾな目線から都市問題を説明する。
本講義を受講することにより、行政による都市政策を理解することができ、民間における不動産および住宅産業や観光産業の今後の在り方についても触れるため、公務員志望者やデベロPPER関連企業志望者には特に考える機会が与えられると考えている。

教科書 /Textbooks

中村良平『まちづくり構造改革 - 地域経済構造をデザインする』日本加除出版株式会社 2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金本良嗣『都市経済学』東邦経済新報社 1997年
林宜嗣『都市問題の経済学』日本経済新聞社 1993年
西山八重子編『分断社会と都市ガバナンス』日本経済評論社 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 都市経済とは何か
3. まちづくりの経済原則
4. いま、まちの経済は？
5. まちの経済構造、どこが問題
6. まちの経済の成り立ちは？
7. まちの経済のどこを見る？
8. 中間試験
9. 実践例 観光資源による都市（函館市・いわき市）
10. 実践例 歴史活用による都市（高梁市・真庭市）
11. 実践例 再生エネルギー事業による都市（瀬戸内市・真庭市）
12. 実践例 福祉事業による都市（柏市）
13. 実践例 大型店進出による中心市街地への影響（岡山市）
14. 実践例 観光地と商店街による中心市街地（下関市）
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50% 期末試験 50%
試験は、テキスト、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks
 教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし。
 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成24年度版』(北九州市役所HP掲載)
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)
 : : 簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第7回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題 【途上国のし尿問題】
- 第11回 上水道 : : (アクティビティ＝きき水比べ) 【おいしい水】
- 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
- 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
 授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらるので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の北九州学(北九州市と環境)の同時受講も勧めておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境教育目標、環境教育アクティビティ

景観まちづくり論 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』
 日本建築学会 編『景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために』
 日本建築学会 著『まちづくりデザインのプロセス』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 都市の景観について【景観】【調査指標】
- 3回 都市デザインのプロセス①【都市】【デザイン】
- 4回 都市デザインのプロセス②【都市】【デザイン】
- 5回 都市デザインのプロセス③【都市】【デザイン】
- 6回 景観法について①【景観】【法制度】
- 7回 景観法について②【景観】【法制度】
- 8回 景観法について③【景観】【法制度】
- 9回 特別講師による講義【設計】【都市美】
- 10回 事例紹介①【景観まちづくり】
- 11回 事例紹介②【景観まちづくり】
- 12回 意見発表会①【プレゼン】
- 13回 意見発表会②【プレゼン】
- 14回 事例紹介③【景観まちづくり】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 期末試験もしくはレポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり実践論【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の日本は、地方分権社会を指向しています。さらに「新しい公共」の概念も重視されてきています。こうした社会においては、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、地域の多様な主体がそれぞれの役割を担って「まちづくり」に参画する新しい地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいた「まちづくり」の実践が必要です。また、こうした仕組みは、「完璧に作り上げる事」や「最初から最適なものを作り上げる事」は現実的ではありません。作り上げて動かし始めた仕組みを、より良いものになるように随時的確に評価し、柔軟に改善していくことが求められます。

この授業では、現在の「まちづくり」を取り巻く諸状況や課題を踏まえた上で、今後の地域経営のあり方や、地域の各主体が果たすべき役割等について、実際の政策や事例を学びながら、考えていきます。さらに、「まちづくり」を実践していく上で必要な調査、意見集約の方法等についても概説します。

このことを通じ、履修者が今後、「まちづくり」を実践していくに際し必要となる多様な視点と専門的知識を得るとともに、諸課題の解決策を考察していく上で求められる柔軟な応用力を涵養することを目指します。

※注意： 「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な用い方が行われています。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づけます。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『まちづくりの実践』(田村明 著)岩波書店(岩波新書615)
 ※この書籍は1999年発行ですが、現在にも通じる基本的な視点がまとめられています。
- 『まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門』(西村幸夫・野澤康 編)朝倉書店
- その他、最近の事例等が盛り込まれた参考書や資料は、適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 新しい地域経営を巡る動き(1)【協働】
- 3回 新しい地域経営を巡る動き(2)【新しい公共】
- 4回 新しい地域経営を巡る動き(3)【PPP(官民連携)】
- 5回 ディスカッション(1)【学生(市民)がまちづくりに関わる際の課題】
- 6回 コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネス(1)【総論】
- 7回 コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネス(2)【事例】
- 8回 まちづくりにおける合意形成
- 9回 まちづくりにおける「専門家の活用」
- 10回 ディスカッション(2)【まちづくりにおいて意見が対立したら...】
- 11回 まちの調べ方(1)【状況を把握する】
- 12回 まちの調べ方(2)【客観的な分析を行う】
- 13回 まちの調べ方(3)【資料をまとめ、表現する】
- 14回 まちの調べ方(4)【プラン、政策を考え評価する】
- 15回 ディスカッション(3)【今後のまちづくりの実践に向けて】

※ 可能な限り、各回の授業時点で社会的に話題となっているトピックや最新の政策動向を取り入れた授業を心がけます。そのため、授業の構成については変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への積極的参加 40%
- ・ 期末レポート 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業は講義を中心に進めますが、履修者によるディスカッション、発表を織り交ぜながら展開してことを予定しています。

まちづくり実践論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から、まちづくりへ幅広い関心を持ち、自分なりに情報収集を行うよう意識してください。

特に、新聞やテレビ、インターネット等で発信される、まちづくりや自治体政策に関するニュースに関心を持つ事は、本授業に限らず、地域マネジメント等を学んでいく上で極めて重要な点です。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、合意形成、現状分析、地域活性化

ものづくりマネジメント論【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

工業先進国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行い、利益を産み出しているのか、ものづくりの基本を「工場管理の視点」から学びます。

また、新興国の台頭や工場の海外移転、地域経済統合など、ビジネス環境が目まぐるしく変化する中で、わが国のものづくりがどのように変貌していこうとしているのか、新聞記事などを用いて一緒に考えます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ及びプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものづくりとは【製造業の機能と経営環境】
- 2回 生産システム【生産形態】
- 3回 生産管理【生産方式】
- 4回 生産管理【生産計画】
- 5回 生産管理【生産統制】
- 6回 品質管理【品質管理手法】
- 7回 品質管理【標準化】【ISO9000s】
- 8回 原価管理【原価計算】
- 9回 原価管理【コストダウン】
- 10回 外注管理、購買管理、在庫管理
- 11回 設備管理、レイアウト管理
- 12回 組織間連携【販売vs.生産】【製品設計vs.生産】
- 13回 グローバル化と情報化【SCM：サプライチェーンマネジメント】
- 14回 環境マネジメント【CSR：企業の社会的責任】【ISO14000s】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習状況... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からものづくりに関心を持って下さい。
(例、身近な製品がどうやって作られているのか、興味を持って考えてみる)
(例、新聞・雑誌・TVなどのメディアを通じて、ものづくり企業に関する情報を収集する)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術立国「日本」の繁栄を牽引してきたものづくりの現場が大きく変わろうとしています。円高を契機に、ものづくりの現場が海外へ移転しつつあります。このことは雇用を喪失させ、ひいては技術・技能を弱体化させ、その結果、日本の国力が衰退の一途を辿ることになります。この機会にもものづくりについて考えてみませんか？

ものづくりマネジメント論 【昼】

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
 井上正仁・能見善久編『ポケット六法 平成26年版』(有斐閣・2013年)
 ※ 基本的にレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書：○)
 ※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
 1. 平常の学習状況(進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある)(全体の30%)
 2. 講義全体の内容についての期末テスト(全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
 ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
 ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
- 長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【幸福追求権・平等原則】
- 第5回 人権論③ 【精神的自由の保障】
- 第6回 人権論④ 【社会権保障の課題】
- 第7回 統治機構論① 【国民主権・権力分立】
- 第8回 統治機構論② 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

昨年度までに植木担当の「憲法人権論」を履修されている方は、夜間開講の「日本国憲法原論」の履修をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
 人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
 それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）
- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由と表現の自由①
- 第8回 思想・良心の自由と表現の自由②
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①
- 第14回 社会権②
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができるでしょう。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ』(有斐閣)の最新版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100 % (詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法(最新版)は必ず持参して下さい。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧め。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？ 皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むろん、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会法総論 【昼】

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、体系的思考力・法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、体系的思考力・刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説[総論]』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税
- 立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税
- 齊藤誠二編『演習ノート刑法総論(全訂第3版)』(法学書院)平成15年3月
- 船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回 刑法典の沿革【公事方御定書から現行刑法典の歴史】
 - 第2回 犯罪とは?【犯罪の意義・意味】
 - 第3回 刑法学派の争い①【主観主義刑法理論】
 - 第4回 刑法学派の争い②【客観主義刑法理論】
 - 第5回 罪刑法定主義とその派生原則①【類推解釈】【遡及処罰の禁止】【慣習法の排斥】【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】
 - 第6回 罪刑法定主義とその派生原則②【構成要件の明確性】【実体的デュープロセス】
 - 第7回 犯罪の分類【結果犯】【挙動犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】【即成犯】【状態犯】【継続犯】
 - 第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
 - 第9回 行為論①【作為】【不作為】【作為犯】【不作為犯】【不真正不作為犯】
 - 第10回 行為論②【不真正不作為犯】【作為義務】
 - 第11回 構成要件論①【構成要件の概念】
 - 第12回 構成要件論②【認識根拠説】【实在根拠説】
 - 第13回 違法論①【違法の本質】【主観的違法性説】【客観的違法性説】
 - 第14回 違法論②【結果無価値】【行為無価値】【可罰的違法性】【社会的相当性】【許可された危険】
 - 第15回 違法性阻却事由①【正当行為】【正当防衛】【対物防衛】【過剰防衛】【挑発防衛】【誤想防衛】
 - 第16回 違法性阻却事由②【緊急避難】【過剰避難】【攻撃的緊急避難】【防衛的緊急避難】
 - 第17回 違法性阻却事由③【自衛行為】【被害者の承諾】
 - 第18回 責任論①【責任能力】【原因において自由な行為】
 - 第19回 責任論②【故意】【過失】
 - 第20回 責任論③【錯誤】【事実の錯誤】【法律の錯誤・違法性の錯誤】
 - 第21回 未遂論①【実行の着手】【離隔犯】【間接正犯】【原因において自由な行為】
 - 第22回 未遂論②【不能犯】【中止犯】
 - 第23回 共犯論①【共犯学説】【共犯の処罰根拠】
 - 第24回 共犯論②【共同正犯】【共謀共同正犯】【教唆犯】【従犯】
 - 第25回 共犯論③【共犯独立性】【共犯従属性】【間接正犯】
 - 第26回 共犯論④【共犯と身分】【構成的身分】【加減的身分】
 - 第27回 共犯の諸問題①【承継的共犯】【片面的共犯】【必要的共犯】
 - 第28回 共犯の諸問題②【不作為と共犯】【結果的加重犯と共犯】【共犯と錯誤】
 - 第29回 共犯の諸問題③【共犯と中止犯】【予備の共犯】
 - 第30回 罪数論【本来の一罪】【科刑上一罪】【包括一罪】【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連: 法学、刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですし、また、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

刑法犯罪論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書のみならず、種々の参考文献を読んで、予習・復習することが必要です。判例は、自分で読んでおきましょう。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)
この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論においては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪(財産罪を除く。)と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメとワークシートを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。各自が現在使用している基本書(著者を問わない。)、および『法学六法』(信山社出版)、『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない。)
《推奨》山中敬一『刑法概説II各論』(東京:成文堂・2008.10)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 《入門書》
○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京:有斐閣・2013.12)。
○山口厚『刑法入門(岩波新書)』(東京:岩波書店・2008.06)。
《刑法各論》
井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
○西田典之『刑法各論(法律学講座双書)』6版(東京:弘文堂・2012.03)。
《刑法総論》
井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
○山中敬一『刑法概説I総論』(東京:成文堂・2008.10)。
○井田良『講義刑法学・総論』(東京:有斐閣・2008.12)。
《論点集・判例集》
○西田典之/山口厚(編)『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(東京:有斐閣・2007.10)。
○阿部純二ほか(編)『刑法基本講座 1~6巻』(東京:法学書院・1992.10~1994.10)。
曾根威彦/日高義博(編)『基本判例5 刑法総論』2版(東京:法学書院・2006.07)。
曾根威彦/日高義博(編)『基本判例6 刑法総論』2版(東京:法学書院・2006.07)。
西田典之/山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論(別冊ジュリスト189号)』6版(東京:有斐閣・2008.02)。
西田典之/山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト190号)』6版(東京:有斐閣・2008.03)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジュメとワークシートを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードする。)
(2) テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく判らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
(3) 各回の講義テーマから重要な論点を選択し、具体的事例を提示する。ワークシートでは、その事例を解決するために考えなければならない「問題」を提示するので、関連事項を調べて問題に解答しておいて欲しい。講義においては、それらの「問題」を履修者に問い、対話のなかで論理的思考力を養っていきたいと考えている。履修者の活発な発言に期待する。
※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の類型)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強姦罪・強制わいせつ罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

刑法犯罪各論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメとワークシートを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習（基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。）・復習（講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。）を十分に行うようにしよう。
この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)
この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジюмеとワークシートを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。各自が現在使用している基本書(著者を問わない。)、および『法学六法』(信山社出版)、『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない。)
《推奨》山中敬一『刑法概説II各論』(東京:成文堂・2008.10)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 《入門書》
○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京:有斐閣・2013.12)。
○山口厚『刑法入門(岩波新書)』(東京:岩波書店・2008.06)。
《刑法各論》
井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
○西田典之『刑法各論(法律学講座双書)』6版(東京:弘文堂・2012.03)。
《刑法総論》
井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
○山中敬一『刑法概説I総論』(東京:成文堂・2008.10)。
○井田良『講義刑法学・総論』(東京:有斐閣・2008.12)。
《論点集・判例集》
○西田典之/山口厚(編)『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(東京:有斐閣・2007.10)。
○阿部純二ほか(編)『刑法基本講座 1~6巻』(東京:法学書院・1992.10~1994.10)。
曾根威彦/日高義博(編)『基本判例5 刑法総論』2版(東京:法学書院・2006.07)。
曾根威彦/日高義博(編)『基本判例6 刑法総論』2版(東京:法学書院・2006.07)。
西田典之/山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論(別冊ジュリスト189号)』6版(東京:有斐閣・2008.02)。
西田典之/山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト190号)』6版(東京:有斐閣・2008.03)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジюмеとワークシートを配布する(ウェブサイトから各自でダウンロードする。)
(2) テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく判らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
(3) 各回の講義テーマから重要な論点を選択し、具体的事例を提示する。ワークシートでは、その事例を解決するために考えなければならない「問題」を提示するので、関連事項を調べて問題に解答しておいて欲しい。講義においては、それらの「問題」を履修者に問い、対話のなかで論理的思考力を養っていきたくと考えている。履修者の活発な発言に期待する。
※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3) 毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4) 強盗罪
 - 5回 財産罪(5) 強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6) 詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7) 詐欺罪の諸類型
 - 8回 財産罪(8) 横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9) 盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1) 騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2) 放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3) 放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1) 文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2) 通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

刑法犯罪各論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習（基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。）・復習（講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。）を十分に行うようにしよう。
この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」および「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が規定する、国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。国民主権、民主主義、権力分立といった基本概念を把握した上で、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構の全体構造や相互関係を理解することを目指す。また、現実の政治動向などへの関心も喚起するような内容としたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）
適宜、資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第5版）』（新世社、2011年）
- 安念潤司編著『論点日本国憲法』（東京法令、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣（国の行政組織）① -内閣と行政権
- 第5回 内閣（国の行政組織）② -議院内閣制
- 第6回 内閣（国の行政組織）③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣（国の行政組織）④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

行政法総論 【昼】

担当者名
/Instructor

福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科

履修年次 2年次
/Year単位 4単位
/Credits学期 1学期 (ペア)
/Semester授業形態 講義
/Class Formatクラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法は、国や地方公共団体など、公益を実現する機関がいかなる活動をしうるかの限界を明らかにする学問です。行政法総論では、様々な問題の検討を通して、この目的のために考慮すべき基本的な事柄が何であるかを学びます。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①いくつかの行政法の基礎的な概念を理解し、説明することができる。
- ②習得した知識を用いて事案を検討することができる。
- ③行政法学の基本的な関心事である個人の自由の保障の必要性を理解する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ〔第6版〕』(有斐閣)定価2,400円
 宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅱ〔第6版〕』(有斐閣)定価2,400円
 原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』(学陽書房)定価3,465円
 石川敏行ほか『はじめての行政法〔第2版〕』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法入門〔第5版〕』(有斐閣)
 櫻井敬子=橋本博之『行政法〔第3版〕』(弘文堂)
 塩野宏『行政法I〔第5版〕』(有斐閣)
 芝池義一『行政法読本〔第2版〕』(有斐閣)
 宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第4版〕』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法Ⅰ総論〔第4版〕』(青林書院)

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法の基礎概念
 - 第2回 行政の役割
 - 第3回 規制の方法（1）事前規制
 - 第4回 許可と特許
 - 第5回 規制の方法（2）事後規制
 - 第6回 経過規定
 - 第7回 法の種類
 - 第8回 行政組織法概論（1）- 総説、国の行政組織
 - 第9回 行政組織法概論（2）- 地方公共団体の行政組織
 - 第10回 行政の裁量（1）根拠
 - 第11回 行政の裁量（2）裁量統制の技術
 - 第12回 行政の裁量（3）裁量基準
 - 第13回 取消しと撤回
 - 第14回 行政手続（1）基礎理論
 - 第15回 行政手続（2）行政手続法
 - 第16回 行政上の義務履行確保（1）- 概論
 - 第17回 行政上の義務履行確保（2）- 具体的検討
 - 第18回 行政指導の意義
 - 第19回 行政指導の実効性確保
 - 第20回 信頼の保護
 - 第21回 行政立法
 - 第22回 委任立法の限界
 - 第23回 補助金の交付
 - 第24回 行政手続による第三者の保護
 - 第25回 情報公開
 - 第26回 法律の留保
 - 第27回 行政行為の概念と特別な訴訟手続
 - 第28回 取消訴訟と国家賠償法
 - 第29回 無効の行政行為
 - 第30回 行政行為の効力
- ※ただし、授業の進度によって、各回の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政手続法

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。
 授業では、行政上の不服申立ておよび行政訴訟について基本的知識を体系的に理解すること、問題発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的な観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『新基本行政法学』（2011年、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II（第6版）』（2012年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II（第五版補訂版）』（2013年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II（4版）』（2013年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 行政上の不服申立て制度の概要
- 第 2 回 不服申立ての提起
- 第 3 回 不服申立ての審理
- 第 4 回 不服申立ての裁決
- 第 5 回 行政訴訟総説
- 第 6 回 行政事件の種類
- 第 7 回 抗告訴訟（1）抗告訴訟の種類
- 第 8 回 抗告訴訟（2）取消訴訟の訴訟要件
- 第 9 回 抗告訴訟（3）取消訴訟の審理
- 第 10 回 抗告訴訟（4）その他の抗告訴訟
- 第 11 回 抗告訴訟（5）判決と仮の救済
- 第 12 回 当事者訴訟
- 第 13 回 民衆訴訟
- 第 14 回 機関訴訟
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当然ながら予習・復習が必要である。
 （復習のための課題提出を求める。）
 行政法総論を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 博行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この科目は、民法第二編「物権」(民法175条～398条の22)について解説をする。物権とは、物を直接支配し、その利益を排他的・独占的教授する権利のことをいい、大きく「物権法」部分(物権法総論、占有権、所有権、用益物権)と「担保物権法」(典型担保、非典型担保)部分に分かれる。本講義では前者(教科書P1～P202)を中心に講義を行い、後者(教科書P203～)については概説にとどめる。

教科書 /Textbooks

- ・ 淡路剛久ほか『民法II-物権』有斐閣Sシリーズ(有斐閣, 第三版補訂, 2011年)1900円+税
- ・ 田中裕康ほか『民法判例百選I』別冊ジュリストNO.195(有斐閣, 第6版, 2009年)2095円+税
- ・ 六法(小型のもので良い)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 生熊長幸『物権法』三省堂テミス(三省堂, 2013年)2500円+税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス, 物権法序論
- 第2回 物権の効力
- 第3回 物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示①(序論, 公示方法としての登記)
- 第5回 不動産物権変動における公示②(登記を必要とする物権変動)
- 第6回 不動産物権変動における公示③(第三者の範囲)
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 立木等の物権変動と明認方法, 物権の消滅
- 第9回 占有権, 所有権(意義・性質, 内容)
- 第10回 所有権(所有権の取得, 共有, 区分所有)
- 第11回 用益物権(地上権, 永小作権, 地役権, 入会権)
- 第13回 抵当権
- 第14回 不動産譲渡担保, 質権
- 第15回 動産譲渡担保, 所有権留保, 留置権, 先取特権, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 評価は、期末試験ならびに提出物の点数を合計して行う。配点は以下のとおりである。
- ・ 期末試験(60点)
 - ・ 提出物評価(40点)
- 提出物には、毎回行う事前学習問題(10回を予定)、講義中に行うテスト(5回を予定)の二種類がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物権法, 担保物権法に存在する数多くの論点のうち、民法の他分野を学ぶにあたり特に重要かつ必要な論点について重点的に解説します。また、その論点にちなんで演習問題を解くことにより、論理的思考力や知識を活用する力を養っていただこうと考えています。

キーワード /Keywords

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的な位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣 2008年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法（第3版）』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。
 また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。
 火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。
 また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

山下友信・竹濱修・洲崎博史・山本哲生『保険法』（第3版）（有斐閣アルマ・2010年）2,100円
 六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の理解の度合い等により進度順番が変わる可能性につきご了承ください。

(【 】はキーワード)

- 1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 3回 保険法改正の概要
- 4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 5回 保険契約における告知義務(1)告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 6回 保険契約における告知義務(2)告知義務の内容・告知事項
- 7回 保険契約における告知義務(3)告知義務違反の効果
- 8回 保険契約における告知義務(4)事例研究とまとめ
- 9回 保険契約における事情変更・失効
- 10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 11回 損害保険契約 【保険代位】
- 12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために事前に配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジュメについても持参の上、講義を受けるようにしてください。
- 2, 欠席した場合、配付済レジュメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください(残余部数には限りがあります)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

企業取引法I【昼】

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第4版)」(有斐閣Sシリーズ・2011年)2100円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
- ②判例：落合誠一編「手形小切手判例百選(第6版)」(別冊ジュリスト173号)(有斐閣・2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(3)【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる(1)【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業取引法II【昼】

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」発明推進協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作者人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、特許マッピングの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割(50%程度)、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果(50%程度)を参考に総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
 単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作者の権利

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報公開および個人情報保護の法制は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開は、国民・住民が国および地方レベルで政治に参画するための手段である。他方で、情報化社会の進展により、情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。それらの仕組みがどのようになっており、具体的にどのように運用され、どのような法律問題が生じているのかということについて概要を把握することがねらいである。

授業では、情報公開法制および個人情報保護法制について基本的知識を体系的に理解すること、問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法の逐条解説[第5版]』（有斐閣、2012年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第3版]』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 情報の収集、管理、利用
第 2回 情報公開の憲法上の基礎	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求と非開示情報、訂正等請求
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 開示情報（個人情報）	第15回 まとめ
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報、意思形成過程情報	
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安、情報、外交等情報	
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会	
第 9回 個人情報保護の意義	
第10回 個人情報保護の憲法上の基礎	
第11回 個人情報保護法。個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド(1)【高度成長への準備】【経済改革】【ドッジライン】
- 2回 日本経済のトレンド(2)【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 3回 日本経済のトレンド(3)【安定成長】【ニクソンショック】【オイルショック】【バブル経済】
- 4回 日本経済のトレンド(4)【構造改革】【IT革命】【グローバリゼーション】
- 5回 日本経済のトレンド(5)【アジア展開】【リーマンショック】【中国市場】
- 6回 まとめと復習
- 7回 日本企業の国際競争力(1)【鉄鋼業】【寡占競争】
- 8回 日本企業の国際競争力(2)【自動車クラスター】【トヨタイズム】【ジャストインタイム】【企業系列】
- 9回 日本企業の国際競争力(3)【東アジア市場】【電機産業】【産業空洞化】
- 10回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】【世界最適調達】
- 11回 まとめと復習
- 12回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 13回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】【持ち株会社】
- 14回 日本経済の転換【世界最適調達】【カンパニー制】【ICT】【フラット化】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題と期末試験を重視して評価する。

課題 ... 10% 学期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等で、授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる経済記事を、よく読んでおくとう理解がしやすくなる。現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバリゼーション、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重 (2011) 『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- 1回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【メインバンク・システム】【系列】
- 2回 日本的システムの形成と崩壊・変容 【安定株主】
- 3回 少子高齢化に立ち向かう日本 【平均寿命】
- 4回 少子高齢化に立ち向かう日本 【年金・医療制度】
- 5回 財政赤字と政府債務 【基礎的財政収支】
- 6回 財政赤字と政府債務 【デフォルト】【マネタイゼーション】
- 7回 新たなグローバル化の波 【WTO】【FTA】
- 8回 新たなグローバル化の波 【直接投資】【TPP】
- 9回 再生可能エネルギーの経済学 【固定価格買い取り制度】
- 10回 再生可能エネルギーの経済学 【インセンティブ】
- 11回 量的・質的緩和とデフレ克服 【インフレーション・ターゲティング】
- 12回 量的・質的緩和とデフレ克服 【出口戦略】
- 13回 新しい日本経済のあり方とは 【リーマンショック】
- 14回 新しい日本経済の在り方とは 【所得格差】【法人実効税率】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドロッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、「経営学入門」で学習した内容をさらに発展させ、会社(企業)の基本的な仕組みだけでなく、企業経営に関するトピックも取り上げることで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

入山章栄, 『世界の経営学者はいま何を考えているのか』, 英治出版, 2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 荒井一博, 『ファンダメンタル ミクロ経済学』, 中央経済社, 2008年。
 - 伊藤秀史, 『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣, 2012年。
 - 乙政正太, 『財務諸表分析』, 同文館出版, 2009年。
 - 掛谷英紀, 『学問とは何か』, 大学教育出版, 2005年。
 - G.キング・R.O.コヘイン・S.ヴァーバ, 『社会科学のリサーチ・デザイン - 定性的研究における科学的推論』, 勁草書房, 2004年。
 - 榎原清則, 『経営学入門 [上]』(第2版), 日本経済新聞社, 2013年。
 - 榎原清則, 『経営学入門 [下]』(第2版), 日本経済新聞社, 2013年。
 - 竹内薫, 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』, 光文社新書, 2006年。
 - 角田康夫, 『新版行動ファイナンス』, 金融財政事情研究会, 2011年。
 - 戸田山和久, 『科学的思考のレッスン - 学校で教えてくれないサイエンス』, NHK出版, 2011年。
 - 古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一, 『コーポレート・ファイナンスの考え方』, 中央経済社, 2013年。
 - H.E.ブレイディ・D.コリアー, 『社会科学の方法論争 - 多様な分析道具と共通の基準』, 勁草書房, 2008年。
 - 森博嗣, 『科学的とはどういう意味か』, 幻冬舎, 2011年。
- (その他の参考書は講義で紹介します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的と意義, 成績評価の方法】
- 第2回 経営学と企業論【学問・経営学・企業論・コーポレート・ガバナンス】
- 第3回 社会科学としての経営学【経営学・社会科学】
- 第4回 経営学の研究方法①【理論分析・実証分析】
- 第5回 経営学の研究方法②【経済学ディシプリン・認知心理学ディシプリン・社会学ディシプリン】
- 第6回 経営学の研究方法③【経営戦略論, 回帰分析】
- 第7回 起業家とベンチャー・ビジネス①【アントレプレナー, 株式会社, 合同会社, 合名会社, 合資会社】
- 第8回 起業家とベンチャー・ビジネス②【シリコンバレー, ITベンチャー】
- 第9回 企業経営とM&A【株式会社, M&A, TOB, コーポレート・ガバナンス】
- 第10回 企業会計と財務諸表①【財務諸表, 粉飾決算, コーポレート・ガバナンス】
- 第11回 企業会計と財務諸表②【公認会計士, 会計監査, コーポレート・ガバナンス】
- 第12回 企業経営のトピック①【ダイバーシティ, CSR, コーポレート・ガバナンス】
- 第13回 企業経営のトピック②【ダイバーシティ, コーポレート・ガバナンス】
- 第14回 証券市場と行動ファイナンス【伝統的ファイナンス理論, 行動ファイナンス理論, 効率的市場仮説 (EMH)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%, レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで、「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。
 毎回、講義資料(「虫食いレジメ」とパワーポイント)を使用します。講義資料は学習支援フォルダにアップしているので、毎回ダウンロード & プリントアウトしていただくこと(経済学部→松本守→企業論基礎→講義資料)。また、テキスト(講義)で取り上げられている論文(英語論文)も学習支援フォルダにアップしていますが、これはプリントアウトしていただく必要はありません(あくまでも参考のためにアップしているだけです、興味のある人はダウンロードして読んでみてください)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業論基礎 【昼】

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしなが、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
 - 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
 - 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
 - 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
 - 5回 掛取引の記帳
 - 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
 - 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
 - 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
 - 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
 - 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
 - 11回 費用・収益の繰延と見越
 - 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
 - 13回 記帳の合理化、特殊な取引
 - 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実 (2013) 『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔 (2011) 『コア・テキスト 統計学』新世社
 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義 『大学演習数理統計』裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提にして行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

数学【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数とグラフ 【極限】、【連続関数】
- 2回：関数と微分 【接線】、【導関数】
- 3回：指数関数と対数関数(1) 【指数関数のグラフ】
- 4回：指数関数と対数関数(2) 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数(1) 【n次関数の微分】
- 6回：導関数(2) 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分(1) 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分(2) 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法(1) 【合成関数の微分】、【対数微分法】
- 10回：微分法(2) 【関数の増減】、【関数の凹凸】
- 11回：不定積分(1) 【n次関数不定積分】
- 12回：不定積分(2) 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分(1) 【n次関数の定積分】
- 14回：定積分(2) 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使いなどがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、「初等統計学」培風館、1700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.C.ミラー著、村上正康訳、「統計学の基礎」培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布(1) 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布(2) 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定(1) 【大標本法】
- 8回：推定(2) 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定(1) 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定(2) 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定(1) 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定(2) 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。必修科目「数学」(MTH100M)を理解していれば、「経営統計」の授業がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域経済およびそれを取り巻く環境が大きく変化していることを理解するために、国と地域のあり方、それぞれの政策などについて解説する。この講義ではとくに基礎的な理論、考え方に焦点を当てていく。そしてそうした動きが我々の日常生活とどのように関係しているのかを考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済の変化と地域(講義の概要)
- 2回 地域経済の構成【企業立地】、【家計】、【社会資本】
- 3回 地域問題の発生メカニズム【地域間格差】、【ナショナルミニマム】
- 4回 九州地域の産業構造と経済【食糧基地】、【分工場経済】
- 5回 北九州市の産業構造と経済【基礎素材産業】、【公害問題】、【環境政策】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地方分権の動向(1)・・・権限委譲【地方自治】、【権限委譲】、【規制緩和】
- 8回 地方分権の動き(2)・・・大都市制度【政令指定都市】、【中核市】、【特例市】
- 9回 地方分権の動き(2)・・・税源委譲【三位一体の改革】、【地方交付税】、【補助金】
- 10回 地域再生計画【地域再生】、【特区】
- 11回 7～10回の復習とまとめ
- 12回 市町村合併(1)・・・歴史と背景【合併特例法】、【生活圈と行政圏】
- 13回 市町村合併(2)・・・効果と課題【行財政改革】、【合併特例債】
- 14回 道州制の動向【道州制】、【連邦制】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域問題、地方分権、市町村合併

地域経済II【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マストゥリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

金融論I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題や BIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになるだろう。

<本講義の到達目標>

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基本理論」を身につける。
 2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
 3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。
- * 日本経済新聞を読めるようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

国際経済論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
 外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
 対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際経済論は、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、1学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）：世界経済の不均衡問題…… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）：資本輸出国日本…… 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」…… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷…… 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート…… 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度…… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度…… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ）…… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ）…… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果…… 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析…… 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動…… 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 …… 80%
- (2) 日常の授業への取り組み…… 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読むようになって下さい。

国際経済論II 【昼】

キーワード /Keywords

経常収支 資本収支 外貨準備高 総需要と総供給 マクロ均衡と不均衡 輸出超過 輸入超過 内需・外需
 国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート 市場レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会
 FB・政府短期証券 平価 為替介入 不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策
 財政政策 金融政策 国際資本移動

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジユメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉- 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象だけでなく、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dixit, Skeath, and Reiley, Games of Strategy (Third Edition), W. W. Norton & Company, 2009.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 5回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 6回 戦略形【数量競争と価格競争】
- 7回 展開形【時間構造】
- 8回 展開形【後方帰納法】
- 9回 展開形【サブゲーム完全ナッシュ均衡と応用】
- 10回 展開形と戦略形の融合
- 11回 応用：【コミットメント】
- 12回 応用：【脅し・約束】
- 13回 応用：【戦略的投票】
- 14回 応用：【戦略的操作性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press.
Dixit, Skeath, and Reiley. 2009. Games of Strategy. W. W. Norton & Company.
Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2回 取引ゲーム 【基本モデル】
- 3回 取引ゲーム 【余剰分析】
- 4回 取引ゲーム 【コア、余剰】
- 5回 独占【余剰分析】
- 6回 独占【自然独占】
- 7回 独占【価格差別】
- 8回 寡占【余剰分析】
- 9回 寡占【カルテルの不安定性】
- 10回 寡占【無限繰り返しゲームとカルテルの安定性】
- 11回 寡占【極限定理】と市場構造のまとめ
- 12回 独占禁止法教室 【公正取引委員会】
- 13回 入札
- 14回 入札談合
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

産業組織論I・ミクロ経済学・統計学の知識を前提とする。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・森田雅也編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。(2,730円)
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂(3,780円)が公刊されています。)
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 女性労働者の人的資源管理【男女雇用機会均等法】【ダイバーシティ】
 - 12回 高年齢労働者の人的資源管理【定年制】【再雇用制度】
 - 13回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】【雇用形態の多様化】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ【SHRM】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席は不定期にとり、単位修得条件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。ちなみに教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書が昨年使用した本とは異なりますのでご注意ください。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

生産マネジメントA 【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現在の製造業の戦略とものづくりマネジメント、そしてそれにいたる歴史を概略的に学び、その理解のうえでグローバル化のなかでの日本のものづくりの課題を展望します。
 本講義の受講を通じて、生産マネジメント分野への関心を高め、生産マネジメントにおける基礎知識と基礎的な分析力を習得し、企業のオペレーション上の問題解決を行う基礎的な能力を身につけることを狙いとします。

教科書 /Textbooks

必要に応じてレジュメ等を配布する予定です。学習を深めたい方は参考書を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤本隆宏 『生産マネジメント入門(1)生産システム編』 日本経済新聞社,2001.
 藤本隆宏 『生産マネジメント入門(2)生産資源・技術管理編』 日本経済新聞社,2001.
 藤本隆宏・中沢孝夫 『グローバル化と日本のものづくり』 放送大学教育振興会,2011.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【生産マネジメント】
- 2回 生産方式の歴史的発展(1) 【産業革命】 【科学的管理法】
- 3回 生産方式の歴史的発展(2) 【フォード方式】 【ベルトコンベアー】
- 4回 生産方式の歴史的発展(3) 【モダンタイムス】 【人間関係論】
- 5回 現代製造企業の戦略と生産活動(1) 【コストリーダーシップ】 【差異化】
- 6回 現代製造企業の戦略と生産活動(2) 【JIT】 【トヨタ生産方式】
- 7回 生産活動のグローバル化(1) 【グローバル化】 【海外生産】
- 8回 生産活動のグローバル化(2) 【中小企業】 【ケイレツ】
- 9回 生産活動のグローバル化(3) 【ロジスティクス】 【SCM】
- 10回 生産と人材(1) 【ブルーカラー】 【派遣・請負】
- 11回 生産と人材(2) 【熟練】 【OJT】
- 12回 生産と品質(1) 【TQM】 【カイゼン】
- 13回 生産と品質(2) 【QC7つ道具】
- 14回 新たな生産方式 【屋台生産方式】 【セル生産方式】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略や組織論など経営学関連科目の復習を行うことで本講義への理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメント、経営戦略、オペレーション・マネジメント

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、実際の問題の最適解法を、演習課題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

毎回電子ファイルを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋庭雅夫他「経営工学概論」朝倉書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【生産・資源・マネジメント】
- 2回 競争と協調における思考法 【システム】【目標】
- 3回 意思決定と最適化 【様々な状況に応じた意思決定の在り方と最適化手法】
- 4回 ゲーム理論(1) 【目標達成のための純粋戦略】
- 5回 ゲーム理論(2) 【目標達成のための混合戦略】
- 6回 生産計画(1) 【線形計画問題の定式化】
- 7回 生産計画(2) 【解法としてのシンプレックス法】
- 8回 生産計画(3) 【応用問題を考える】
- 9回 生産計画(4) 【動的計画法とその適用】
- 10回 工程管理(1) 【ネットワーク図】【臨界パス】
- 11回 工程管理(2) 【不確定な工期】【工期短縮】
- 12回 在庫管理(1) 【需要が確定している場合の管理法】
- 13回 在庫管理(2) 【需要が不確定な場合の管理法】
- 14回 損益分岐点分析 【変動費】【固定費】【限界利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況：20% 課題：60% 小テスト：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBメモリーを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式を多用します。できるだけ丁寧に説明しますが、数学の心得があると確実に理解は進みます。

キーワード /Keywords

情報マネジメントA 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「情報」を中心とした経営やビジネスモデルの展開方法について考察する。「情報」の本質についてレビューした後、マーケティング情報システムや流通情報システムなどを事例とする情報経営、eビジネスの実際を配布資料(VTR含む)をまじえて具体的に検討する。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター』(越出著) 創成社 ¥2200

適宜、レジユメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『インターネット・マーケティングの原理と戦略』(ワード・ハンソン著) 日本経済新聞社 ¥2800
『サプライチェーン・コラボレーション』(ポアリエ&ライター著)中央経済社 ¥4000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 経営情報学の意義	経営学における「情報と知識」
2 情報の本質	情報行動論の視座
3 情報のダイナミズム	動的情報(意味的情報)のポイント
4 経営情報と意思決定	経営情報システムの発展史
5 経営情報論の整理	企業における情報とマネジメント(小括)
6 電子市場の生成	情報化社会の流通システム
7 バーチャル・コミュニティ(C to C)	経済社会のネットワークと電子場
8 電子商取引 I(B to C)	対消費者のネットビジネス
9 電子商取引 II(B to B)	対企業のネットビジネス
10 サプライチェーン・モデル	仮想企業の最適化システム
11 顧客関係管理とデータベース(CRM)	「One to One」顧客管理システム
12 セールス・フォース・オートメーション(SFA)	営業支援システム
13 RFID(ICタグ)	非接触型ICカードの活用システム
14 ビジネスモデルの創造	小売業の経営情報システムなど
15 まとめ	ポイントの整理と残された課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課す小テスト・レポート・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし
情報マネジメントBとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

情報化社会の経営

情報マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 「組織」と「情報」の議論を中心に意味ある情報(=知識)の共有、ならびに創造の意義を明らかにし、個人・集団・組織はもとより消費社会に関わる「知」のマネジメントについて検討する。日常的な経験知をはじめ、科学的知識の生成・発展に不可欠な組織の仕組み、学習プロセスを実際場・電子場の諸問題として展開。

教科書 /Textbooks
 『ナレッジ・クリエイター』(越出 著) 創成社 ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『知識創造企業』(野中&竹中 著) 東洋経済新報社 ¥2100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1	知識経営の意義	経営における意味的情報(=知識)
2	経営組織の未来	知識社会の展望
3	情報と知識の議論	情報経営のフロンティア
4	知識マネジメント(知識変換メカニズム)	知識マネジメントの「暗黙知」「形式知」
5	知識共有(実際場と電子場)	知識の流通メカニズム
6	知識創造とクリエイター	知識の創発メカニズム
7	知識マネジメントの整理	学習ポイントの確認(小テスト)
8	顧客知の活用システム	関係性のマネジメントと知識共創
9	組織学習と「知」の蓄積	販売部門のスキルアップと学習
10	熟練者と「知」の伝承	暗黙知の共有化
11	専門家の知識マネジメント	ナレッジ・クリエイター
12	失敗の「知」に学ぶ	経験知の有効活用
13	事例研究 I	実際場の知識マネジメント
14	事例研究 II	電子場の知識マネジメント
15	まとめ	ポイントの整理

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に課する小テスト、レポート・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし
 情報マネジメントAとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 出席を重視します

キーワード /Keywords
 知識社会

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2013年版中小企業白書」佐伯印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・ 50% 期末レポート・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学的視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・薮田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか?(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか?(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。
 経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
 中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計 【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定 【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産について【資産概念の変化について】
- 13回 負債について【負債概念の変化について】
- 14回 純資産について【企業会計原則】【企業会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(2重ループ)
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 ここまでのまとめと問題演習1
 - 8回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 9回 条件分岐
 - 10回 コンピュータとの対話【メッセージダイアログ】【インプットダイアログ】
 - 11回 乱数の利用
 - 12回 問題演習2
 - 13回 問題演習3
 - 14回 問題演習4
 - 15回 まとめと総合問題演習(模擬テスト)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日頃の取り組み... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミングのためのプログラム言語 (Java)について学習すること (プログラム言語のルールの習得) は多くありません。
ルールの1つづつは簡単です。
与えられた問題を解決するプログラムは、学習したそれほど多くはないルールを組み合わせで作成します。
慣れるまでは、この組み合わせ (処理の手順) を考え出すことが相当難しいといえます。慣れるには、できるだけ多くのプログラムを作ることです。また、前期の情報科学入門で学習したscratchが大変参考になります。復習しておいてください。

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 プログラミングIで学んだプログラミング言語Java(ジャバ)のプログラミング応用スキルを身に付けることを目標とする。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks
 最初の講義で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
 結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Java開発環境Eclipseの使い方【JDK】【Eclipse】
- 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
- 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
- 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
- 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
- 7回 コンストラクターについて
- 8回 ファイルの入出力【I/O】
- 9回 画面の入出力【GUI】
- 10回 各種画面部品 1【ラベル】【ボタン】【テキスト】
- 11回 各種画面部品 2【リスト】【スライダー】
- 12回 プログラミング演習(設計)
- 13回 プログラミング演習(開発)
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

講義計画・内容は受講者の理解度、進度により変更の場合あり

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み...20% 課題...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。日頃のしっかりとした取り組み(出席、課題)が必須となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
 Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データ解析【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まり、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークシヨップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】，【分割表】
- 5回 確率の考え方【確率分布】，【2項分布】
- 6回 連続的な分布の扱い方【正規分布】，【確率密度関数】，【累積分布関数】
- 7回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 8回 標本平均の安定性について【中心極限定理】，【標準誤差】，【信頼区間】
- 9回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【信頼区間】，【t分布】，【比率の標準誤差】
- 10回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 11回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 12回 多くのグループ間での平均値の比較【分散分析】【一元配置】
- 13回 複数の要因に関する平均値の比較【分散分析】【二元配置】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 試験...50%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 /Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義 (資料を使った説明、およびノート取り) で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料 (パワーポイント資料) は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。それぞれの理解度にもよりますが、しっかりと習得には日頃の予習、復習が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

データベース【昼】

キーワード /Keywords

情報管理 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要とするデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることでもあります。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布しますが、必要に応じて参考書など各自で利用してもらいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし著、『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
宮坂雅輝著、『CGI/Perl Handbook 2nd edition』、ソフトバンクパブリッシング
KENT著、『最速攻略 CGI/Perl 作り方入門』、技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容の順番、進み方は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 課題・小テスト...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPerl言語というプログラミング言語による簡単なプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには500Mb(メガバイト)の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報管理【昼】

キーワード /Keywords

システム設計I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計II 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
 Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
 - 2回 アプリ開発とは？【Eclipse】【Android Developer Kit】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
 - 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
 - 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【intent】【レイアウト】【xml】
 - 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
 - 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
 - 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
 - 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
 - 9～10回 グラフィックスの設計手法について【画面推移】
 - 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
 講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 6回 【PERT】の実習
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ
- 13回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ
- 14回 【待ち行列理論】の実習
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 3回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】
 - 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
 - 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイステイック】
 - 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 8回 生活保護法 【生存権保障】【原理・原則】
 - 9回 社会福祉の歴史（イギリス）【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 10回 社会福祉の歴史（日本）【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 11回 社会福祉の歴史（日本）【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 12回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 13回 世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
 - 14回 世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバルズム】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 授業で配布するレジュメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①【措置制度と契約制度】
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②【介護保険法】
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③【障害者総合支援法】
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価【当事者参加】
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

年金や医療について関心をもっておいってください。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編(2010)『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 行政と民間の協働2【ボランティア活動】
- 12回 行政と民間の協働3【保護司】
- 13回 行政と民間の協働4【民生委員】
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会保障・税の一体変革が進む中で、地域福祉の推進は、生活を支える重要な課題となっている。
 授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。
 また、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、
 2,730円(出版当時)
 (必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房
- 『北九州市発21世紀の地域づくり』中央法規出版
- 『岐路にたつ大都市生涯学習』北樹出版
- 『地域を拓いた人たち』北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 第 1 回 社会福祉協議会活動の実際【社会福祉協議会】【地域福祉活動】
 - 第 2 回 社会福祉協議会の機能と役割【社会福祉法】【社会福祉法人】
 - 第 3 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【サロン活動】
 - 第 4 回 地域福祉の活動事例【福祉協力員】【ニーズ対応チーム】
 - 第 5 回 都市における孤立死防止対策【孤立死】【管理組合】
 - 第 6 回 地域福祉の人材 1【自治会】【ボランティア】【民生委員】【保護司】
 - 第 7 回 地域福祉の人材 2【住民参加型サービス】【NPO】【コミュニティビジネス】
 - 第 8 回 地域福祉の人材 3【コーディネーター】【ソーシャルワーカー】
 - 第 9 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
 - 第 10 回 コミュニティソーシャルワークの方法【相談援助】【日常生活自立支援事業】
 - 第 11 回 当事者の組織化と自立生活支援【当事者参加】【介護予防】【認知症支援】
 - 第 12 回 地域福祉計画の実際【地域福祉活動計画】【地域福祉計画】
 - 第 13 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
 - 第 14 回 地域福祉の財源【共同募金】【地域福祉基金】
 - 第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講にあたっては、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、できるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の福祉需要
- 第3回 高齢者の介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 介護の概念や対象【介護の概念と範囲】
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念】
- 第8回 介護の概念や対象【介護の対象】
- 第9回 介護予防【介護予防の必要性】
- 第10回 介護予防【介護予防プランの実際】
- 第11回 介護過程
- 第12回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第13回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第14回 終末期ケア2【終末期ケア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等及び福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
 その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険法の概要
- 第3回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第4回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第5回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第6回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第7回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第8回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第9回 介護保険法におけるネットワークと実際
- 第10回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第11回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法1【老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律】
- 第13回 高齢者福祉制度と関連法2【高齢者虐待防止法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律等】
- 第14回 高齢者福祉制度と関連法3【高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実際が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉六法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害】【発達障害】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業への参加度、提出物など)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 障害のある人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する。

教科書 /Textbooks
 小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度、講義で紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 受講上の注意と講義の総論
 - 2回 障害概念と障害者①【ICF】
 - 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害、精神障害、内部障害等】
 - 4回 障害福祉の国際的動向
 - 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション・インテグレーション、インクルージョン】
 - 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
 - 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
 - 8回 障害者福祉の法制度【国内】
 - 9回 障害者福祉の法制度【国外】
 - 10回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
 - 11回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
 - 12回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ①
 - 13回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ②
 - 14回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ③
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。

- ①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障害者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障害のある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない性と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【地域生活】
- 5回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 6回 権利擁護システム① 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム② 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に指示

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
 - 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
 - 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
 - 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
 - 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
 - 6回 相談援助の形成過程I2【ソーシャルワークの発展期】
 - 7回 相談援助の形成過程I3【ソーシャルワークの展開期】
 - 8回 相談援助の形成過程I4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
 - 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
 - 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
 - 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
 - 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
 - 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
 - 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
 社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するということについて、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

低所得者に対する支援と生活保護制度【昼】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1) 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、現代日本では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、近年発生したものではなく、昔から日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
 本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめ、その原因を探ることから始める。

2) 日本において、人々を「貧困」から救うのは各低所得者に対する支援制度と生活保護法である。
 特に生活保護法は社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解すべき重要な法である。
 本講義では、「貧困」の実態を受けて、各低所得者に対する支援制度と生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護運用の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

低所得者に対する支援と生活保護制度 (久美出版)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護 (明石書店)、よくわかる公的扶助 (ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史 (イギリス)
- 6 公的扶助の歴史 (日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・保健医療サービスについて学習し、これらのサービスを活用して、より良い医療の達成や患者の生活の再構築を支援する医療ソーシャルワーカーの役割を理解する。
- ・医療ソーシャルワーカーの歴史を振り返りながら、クライアントの自己決定への支援、さらに支援の基盤を支える権利擁護にも目を向けつつ、日本の医療の現状や専門職との連携、倫理的ジレンマなどについても学ぶ。
- ・授業を通じて、学生一人一人が保健医療サービスへの疑問や課題とはどのようなものであるかを含み、単にクライアントと医療ソーシャルワーカー相互の支援にとどまることなく、組織や社会といったより広い視点で「クライアントへの支援はどうあるべきか」を学ぶことを目指す。
- ・そのためには、学生自らが「患者」または「患者の家族」という立場になったらという意識を持ってこの授業に臨んでほしい。
- ・現任の医療ソーシャルワーカーが担当するため、より具体的な事例を多く提示し、学生がそれらの事例について自ら考え発言し、ディスカッションすることを重視した授業を展開する。

教科書 /Textbooks

教科書は特に定めない。必要に応じて参考書、資料、事例を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成のためのテキストを適宜参考にする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 保健医療サービスの概要
- 第2回 医療保険制度
- 第3回 保健医療サービスの専門職とその役割
- 第4回 保健医療サービスと社会福祉士 (医療ソーシャルワーカー)
- 第5回 医療ソーシャルワーカーの歴史・現状・役割
- 第6回 医療ソーシャルワーカー業務指針
- 第7回 よりよい面接をする
- 第8回 患者の権利とその擁護
- 第9回 保健医療サービスにおける連携
- 第10回 医療施設の機能・類型
- 第11回 介護保険制度
- 第12回 在宅支援
- 第13回 就労支援
- 第14回 事例から学ぶ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習した内容を通じて、自らが感じたこと、理解したことをまとめたレポートを提出する。提出時期やテーマは、レポートを求める際に指示する。また日常の授業への取り組みを重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでに経験した、学生自身、または家族など身近な人の病気や怪我といった事態を思い起こし、その場合の感情・対処・結果などを自分なりの言葉で話せるようにしておく。大切な体験として、必要に応じて授業の中で話題にしながら進めていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義という形ではなく、意見に耳を傾け、発言しあい、楽しい授業を一緒に作っていきましょう。

保健医療サービス【昼】

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

権利擁護と成年後見制度【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート(30%)および筆記試験(70%)を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不適應、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
- 第13回不適應の理解と援助①【防衛機制】【不適應】
- 第14回不適應の理解と援助②【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光社会学【昼】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

2013年、日本を訪れる外国人の数が1000万人を超え、観光は日本の重要な産業の一つとなろうとしている。しかしながら現在、観光が目まぐるしく注目を浴びているのは産業としてだけではない。観光は私たちのプライドの問題とも大きく関わっている。世界的なグローバリゼーションの進展は、ローカルの価値を活性化させる役割も果たしてきた。現在、観光はグローバルなまなごしによってローカルの価値を再発見する「メディア」になろうとしている。人間は、他者に見られることによって自分とは何かを確認する。観光者に見られることによって、私たちは社会的アイデンティティを獲得している。

このように産業の問題、プライドの問題が関わる日本の観光化は全てが順調なわけではない。観光化による自然破壊、文化破壊、社会的分裂等、観光は社会に矛盾ももたらす。この授業では観光を社会科学の一分野として客観的に捉え、観光をよりサステイナブルなものにするにはどのようにしたらよいかを考える。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』（ナカニシヤ出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』（明石書店）
その他、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 観光とは何か（オリエンテーション）
- 2回目 消費社会と観光 1－観光と非日常消費
- 3回目 消費社会と観光 2－観光と自己承認
- 4回目 観光とメディア－バックパッカーとメディアを中心に
- 5回目 観光の歴史－前近代（巡礼、湯治）
- 6回目 観光の歴史－前期近代（大衆観光、ナショナリズム）
- 8回目 観光の歴史－後期近代（特化する観光、オタク観光）
- 9回目 観光化と観光の理論－ブーアスティン、マキアーネル、リッツァー
- 10回目 デイズニーランド論
- 11回目 観光地と社会分裂－観光者と観光地住民
- 12回目 映画『ザ・ビーチ』からみる観光者と観光地住民
- 13回目 温泉観光地、由布院について考える－NHKの番組（プロジェクトX）を批判する
- 14回目 観光地と社会分裂－少数民族
- 15回目 観光地と共同性の再編成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

観光（旅が好きでもよい）やまちづくりに興味があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光、観光地、観光客、自己承認、ポストモダニズム、メディア

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第 2 回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第 3 回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第 4 回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第 5 回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第 6 回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第 7 回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第 8 回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第 9 回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第 10 回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第 11 回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第 12 回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第 13 回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第 14 回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 主として老年期の捉え方、知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと社会的適応について、老年期特有の変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の精神疾患について理解することができる。

教科書 /Textbooks
 資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期のとらえ方】
- 第2回 老年期の理論1【生涯発達心理学】
- 第3回 老年期の理論2【活動理論、離脱理論、継続性理論】
- 第4回 老年期の認知機能の変化 - 知能1【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 知能2【言語性能力、動作性能力】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 知能3【変化に影響する要因】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理1【記憶のモデル】
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理2【再認と再生】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
- 第10回 老年期のパーソナリティと適応1【社会適念・時代背景・社会環境】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応2【OldestOldと社会関係】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応3【成熟した人格、パーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期の精神疾患【うつ、認知症】
- 第14回 適応と生きがい【個人と社会】
- 第15回 まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。
 本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。
 講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
 レポート...20%
 学期末試験...50%
 （ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について心理学的な観点から理解を深め、スポーツ指導やスポーツ実践に活かせるようになることを目的とする。スポーツコーチングの心理、メンタルトレーニング、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、スポーツとメンタルヘルスなどの内容について、講義と簡単な実習などにより説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ心理学とは
- 2回 コーチングの心理1 【スポーツスキルの分類】 【スキルの指導】
- 3回 コーチングの心理2 【スキルの獲得】 【運動の心理的メカニズム】
- 4回 コーチングの心理3 【運動と注意集中】 【運動の記憶】
- 5回 コーチングの心理4 【合理的な練習方法】 【学習の過程】 【練習の計画】
- 6回 メンタルトレーニング1 【イメージトレーニング】 【リラクゼーション】 【あがりの対処】
- 7回 メンタルトレーニング2 【心理的スキルの評価】 【集中力】 【目標設定】
- 8回 スポーツの社会心理1 【スポーツと攻撃性】 【他者の存在とスポーツ行動】 【みるスポーツの心理】
- 9回 スポーツの社会心理2 【スポーツ集団の特徴】 【チームワーク】 【リーダーシップの機能・役割】
- 10回 スポーツの社会心理3 【スポーツの楽しさ】 【コミットメント】 【バーンアウト】
- 11回 スポーツの動機づけ1 【動機づけ理論】 【内発的動機づけ】 【運動嫌い】
- 12回 スポーツの動機づけ2 【動機づけの高め方】 【目標設定の理論】 【目標志向性】
- 13回 スポーツと心1 【パーソナリティ】 【心の発達段階】 【自己概念】 【ボディイメージ】
- 14回 スポーツと心2 【メンタルヘルス】 【運動の心理的効果】 【心理的障害】
- 15回 まとめ(スポーツ心理学の指導・実践への応用)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 具志堅 伸隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。
 到達目標は、社会におけるさまざまな問題が社会心理学的な問題と関わっていることを理解できること、また、社会心理学の基礎的な理論と用語を説明できること、さらに、講義内容をさらに深める発展的学習が自主的に行えるようになることである。

教科書 /Textbooks
 「社会心理学のストーリー」 ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 中島俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、心に関わる様々なアプローチが話題にされる。心理療法、セラピー、心の健康法などである。ここでは様々な社会場面で必要とされてきた「カウンセリング」についてを学ぶ。ここでいうカウンセリングとは「一人の人間が悩みや問題を抱えている。そしてその解決や整理の枠組みを望んでいる時に援助すること」とらえて、福祉や教育などの場面での利用を想定して、カウンセリングの目的方法についての理論を学ぶ。同時に実際に現場で実践できるように実践的なスキルについても体験的に理解と体得を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使わない。随時配布のプリント資料。紹介する参考書などを元にして学習をすすめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のねらい、計画…… 受講上の注意、[]キーワード
- 第2回 カウンセリングとは…… カウンセリングの定義・最近の推移・受講上の注意[定義]
- 第3回 カウンセリングの過程
- 第4回 カウンセリングの過程……事例とは[事例性]
- 第5回 人格(パーソナリティ)理論・発達理論の基礎を学ぶ[発達理論その他の理論]
- 第6回 ~11回 カウンセラーの基本的態度について[無条件的積極的関心・共感・純粋など]
- 第12回 ~14回様々な場所でのカウンセリング(応答を中心に)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

随時提出のミニレポートと授業への取り組みの態度...40%、授業終了時のレポート60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 比留間 太白・山本 博樹(編集)『説明の心理学-説明社会への理論・実践的アプローチ』ナカニシヤ出版
- 海保 博之(編)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学(朝倉実践心理学講座)』朝倉書店
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 コミユニケイシヨNとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

昨年度単位取得率: 56.4% (履修者: 39名)

S: 6名(15%) A: 7名(17%) B: 2名(5%) C: 7名(17%) D: 7名(17%) 不受験: 10名(26%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。

評価は、試験の結果のみで行います。

試験は、全て持ち込み可とします。

講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)

欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。

その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

コミュニケーション論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
- 「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は【絶対に受講しない方が良い】」
 - 「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
 - 「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
 - 「心理学が生活に関連していることがわかる」
 - 「心理学が役に立つものだとわかる」
 - 「就活に使えるネタが集まる」
 - 「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
 - 「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
 - 「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけないので覚悟すべし」
 - 「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
 - 「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
 - 「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks
 毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜、紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
 - 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
 - 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
 - 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
 - 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
 - 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
 - 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
 - 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
 - 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
 - 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
 - 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
 - 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
 - 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
 - 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についてもゲストスピーカーを招いて学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人体の構造と生理についての理解、臨床医学の概要。医療と介護、福祉の連携。医事法制と保険医療などの理解

教科書 /Textbooks

人体の構造と機能及び疾病 黒田研二・住居広工 ミネルヴァ書房 ¥2,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序・人の成長・発達と加齢・老化
- 2回 器官系と臓器1 【代謝・恒常性・身体、呼吸器・循環器】
- 3回 器官系と臓器2 【消化器】
- 4回 器官系と臓器3 【肝・胆・脾】
- 5回 器官系と臓器4 【泌尿器・皮膚・骨・筋・内分泌】
- 6回 生活習慣病1 【悪性新生物(癌)】
- 7回 生活習慣病2 【循環器疾患】
- 8回 生活習慣病3 【脳血管疾患】
- 9回 糖尿病・高脂血症・痛風・メタボリック
- 10回 感染症(一般的な感染症、予防免疫、輸入感染症)
- 11回 精神障害(うつ病、統合失調症、適応障害など)
- 12回 神経疾患(アルツハイマー、パーキンソンなど)
- 13回 骨関節・結合組織(関節リウマチ、SLE)
- 14回 先天性疾患(遺伝子異常、ダウンなど)
- 15回 生活習慣病・予防・感染症対策

* 各授業において適当にビデオも取り入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 平素の授業態度(全欠席して試験のみは認めない) 20%
2. 期末試験(持ち込みなし) 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の中身とそれを取りまく社会状況について理解できるようになることを目的とする。また、自分が取り組んでいるボランティア活動について、振り返ることができる能力を培う。
地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「ボランティア活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 ボランティア活動の戦後史
 - 4回～5回 ボランティア活動の現代史
 - 6回～7回 ボランティア活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 ボランティア活動の争点①
 - 11回～12回 ボランティア活動の争点②
 - 13回～14回 ボランティア活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義では、テーマに即してレジュメや資料を配布する。VTRなどの視聴覚教材を用いることがある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジュメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動実践論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 ボランティア活動の本質をどう考えるか、授業の中で私たちがなりの言葉をつかむことを目標とする。適宜ゲストを招きながら、課題、思い、展望などを共有し、議論をしながら進めていく。地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 ボランティア活動論の振り返り①
- 4回～5回 ボランティア活動論の振り返り②
- 6回～7回 ボランティア活動の争点
- 8回 中間まとめ
- 9回～14回 適宜ゲストを呼んで課題等を共有する(予定)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 受講者にも、ボランティア活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動運営論 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
ボランティア活動を維持・発展させる上で基盤となるもの、つまり、組織づくり、運営方法、資金調達、制度の活用などについて学ぶ。適宜、現場の講師を招き、ディスカッションをしながら進めていく。

教科書 /Textbooks
とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 事前学習I
- 3回 ボランティア活動の組織化について①
- 4回 ボランティア活動の組織化について②
- 5回 まとめとディスカッション
- 6回 事前学習II
- 7回 ボランティア活動団体の運営方法について①
- 8回 ボランティア活動団体の運営方法について②
- 9回 まとめとディスカッション
- 10回 事前学習III
- 11回 ボランティア活動の資金と制度について①
- 12回 ボランティア活動の資金と制度について②
- 13回 まとめとディスカッション
- 14回 ボランティア活動の維持と発展について
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講者に自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks
 必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)
 - 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは
 - 3回 スポーツ指導の心構え(法的知見を含む)
 - 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
 - 5回 救急処置
 - 6回 指導計画の立て方
 - 7回 スポーツ活動と安全管理
 - 8回 指導者の法的責任
 - 9回 スポーツと人権
 - 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
 - 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
 - 12回 これからのスポーツ振興の方向性
 - 13回 部活動とスポーツ指導者
 - 14回 日本武道の必要性
 - 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method
 受講態度...70% レポート...30%
 (遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 必要があればその都度連絡する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 近年、障害者スポーツは、障害の有無、性別、年齢などにかかわらず、ルールや用具を対象者に適合(adapted)、工夫していく考え方が浸透してきた。本講義では、特に「障害とは何か」「障害者スポーツの現状と必要性」などを理解し、障害者スポーツの意義や方法論を学習する。この講義では、自分で考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 障害とは何か
 - 3回 障害者スポーツの意義と理念
 - 4回 障害者福祉施策と障害者スポーツ
 - 5回 障害の理解とスポーツ①身体障害者とスポーツ
 - 6回 障害の理解とスポーツ②知的障害者とスポーツ
 - 7回 障害の理解とスポーツ③精神障害とスポーツ
 - 8回 障害者のスポーツ指導における留意点
 - 9回 障害者スポーツの指導法①学校体育との関係性
 - 10回 障害者スポーツの指導法②地域社会との関係性
 - 11回 障害者スポーツにおける安全管理
 - 12回 障害者スポーツ指導者制度
 - 13回 障害者スポーツの今後と課題
 - 14回 全国障害者スポーツ大会の概要
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み・・ 50% 試験・・ 30% レポート・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
 例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。また、総合型スポーツクラブである北九州スポーツクラブACEの取り組み行事などに積極的に参加し、市民のスポーツ活動の未来を考える。

教科書 /Textbooks
 必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 スポーツボランティアとは
 - 2回 スポーツボランティアの目的
 - 3回 地域スポーツを考える(1)
 - 4回 地域スポーツを考える(2)
 - 5回 スポーツイベントの運営(1)
 - 6回 スポーツイベントの運営(2)
 - 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
 - 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
 - 9回 中高年者とスポーツ(1)
 - 10回 中高年者とスポーツ(2)
 - 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
 - 12回 小学生のスポーツ活動
 - 13回 小学生のスポーツ実践
 - 14回 障がい者スポーツの支援(1)
 - 15回 障がい者スポーツの支援(2)

成績評価の方法 /Assessment Method
 受講態度...70% レポート...30%
 (遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 必要があればその都度連絡する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア各論【昼】

担当者名 /Instructor 上村 英樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行され、地域スポーツの活性化はトップアスリートへの支援とともにスポーツ振興の両輪に位置付けられました。

しかし、地域スポーツを取り巻く社会背景は「超高齢社会の到来」「子どもたちの体力の低下」や「地域の希薄化」などの課題も多く抱えており、地域で活躍するスポーツ・ボランティアには指導力のみならず、コミュニケーションスキルやリーダーシップなど人間力も求められます。この授業では、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を実現するために、スポーツで地域コミュニティを支えるスポーツ・ボランティアが、子供から高齢者までのスポーツ活動を支援していくうえで必要となる様々な知識や指導法を学んでいきます。

特に、個々の知識や指導力、企画力を高めるため指導カリキュラムや企画提案書作成に取り組み、模擬的な指導体験を通して実践力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。授業時に随時資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スポーツ・ボランティアのタイプ、現状と事例、公的役割【分類】【現状把握】【社会的役割】
- 3回 地域コミュニティと総合型地域スポーツクラブの現状と課題【総合型地域スポーツクラブ】
- 4回 スポーツ指導時のリスクとその対応【リスク管理】【CPR】
- 5回 各世代(ジュニア～シニア)がスポーツに求めるもの【各世代の特性】【ニーズとシーズ】
- 6回 スポーツイベントの企画提案書、指導カリキュラムの書き方【企画提案書】【カリキュラム】
- 7回 ジュニアスポーツ指導カリキュラムの作成①【ジュニアスポーツ】
- 8回 ジュニアスポーツ指導カリキュラムの作成②【ジュニアスポーツ】
- 9回 ジュニアスポーツ指導カリキュラムに基づく模擬指導【ジュニアスポーツ】【模擬指導】
- 10回 シニア向け事業カリキュラムの作成①【シニア】
- 11回 シニア向け事業カリキュラムの作成②【シニア】
- 12回 シニア向け事業カリキュラムに基づく模擬指導【シニア】【模擬指導】
- 13回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成①【市民参加】
- 14回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成②、発表【市民参加】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み度... 60% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して、スポーツ・ボランティアとしての実践力をしっかり身につけ、地域活動を充実したいという意欲を持って参加してください。

キーワード /Keywords

スポーツ基本法、総合型地域スポーツクラブ、コオディネーショントレーニング、心肺蘇生法(CPR)

コミュニティスポーツ論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 スポーツの歴史と概念
 - 3回 スポーツを取り巻く環境理解
 - 4回 わが国における地域スポーツの現状
 - 5回 スポーツ基本計画の概要
 - 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
 - 7回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
 - 8回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
 - 9回 スポーツ事業のプロモーション
 - 10回 スポーツイベントがもたらす効果
 - 11回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
 - 12回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
 - 13回 地域スポーツの将来像
 - 14回 スポーツと社会
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み・・・50% 試験・・・30% レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が身体を鍛えたり、スポーツやレクリエーションを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をすることができる専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に全国障害者スポーツ大会の概要や競技規則、競技種目や障害状況によって判定される障害区分、競技に使用される用具と基礎知識など幅広く学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 肢体不自由
- 3 視覚障害・聴覚障害
- 4 内部障害
- 5 知的・発達障害
- 6 精神障害
- 7 アダプテッド・スポーツの理解 競技規則
- 8 障害者スポーツ特有の用器具
- 9 補装具の理解 構造とメンテナンス
- 10 全国障害者スポーツ大会の概要 歴史と目的
- 11 全国障害者スポーツ大会 選手団とコーチのあり方
- 12 全国障害者スポーツ大会 競技内容と障害区分
- 13 トップアスリートの大会パラリンピックとは
- 14 世界の動向と日本の立場 今後の国際大会
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 試験・・・30% レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。
応用的内容が多いため、基礎的内容を扱う「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒に実施している行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報など知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 13回 運動への行動変容(1)【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容(2)【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動【ケガや疾病】
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】、【スポーツ障害】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1(歩数計を使用せず疲労度をチェックする)
- 10回 体重とウォーキング2(歩数計を使用し消費カロリーと疲労度をチェックする)
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウエアー、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネージャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01 【ケースワークの原則】
- 7 ケースワークの諸過程02 【アセスメント・プランニング】
- 8 ケースワークの諸過程03 【インターベンション・エバリュエーション】
- 9 面接技法01 【面接の目的等】
- 10 面接技法02 【インテーク等】
- 11 事例演習01 【アルコール依存症者世帯への援助】
- 12 事例演習02 【ひとり親世帯への援助】
- 13 事例演習03 【児童虐待事例での援助】
- 14 事例演習04 【高齢者世帯への援助】
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません (適宜レジュメを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 「新・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」 中央法規出版 2730円
- ・ 「グループワーク論」 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ 「グループワーク」 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ 「グループワークの専門技術」 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円
- ・ 「セルフヘルプ運動と新しいソーシャルワーク実践」 中央法規出版 岩田泰夫 3570円
- ・ 「セルフヘルプグループ」 星和書店 岡 知史 1890円

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャル・グループワークを学ぶために
- 2回 グループの持つ力1 【人と人がかかわることの意義とかがわりがもたらすもの】
- 3回 グループの持つ力2 【人間の発達に集団が果たす役割】
- 4回 グループで働く力1 【集団圧力】
- 5回 グループで働く力2 【集団凝集性】
- 6回 グループの中で生じる効果
- 7回 リーダーシップ
- 8回 グループワークの定義・モデルと原則
- 9回 グループワークの構成要素
- 10回 プログラム活動の企画
- 11回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程2 【開始期・作業機におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 グループワークの展開過程3 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 14回 セルフヘルプグループの持つ力
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・ 50% 日常の授業への取り組み・・・ 30% 課題・・・ 20%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中央法規出版の「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」の集団援助技術の章をあらかじめ読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - (1) 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - (2) 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - (3) 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - (4) 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - (5) ソーシャルワーク・アプローチ(実践モデル)の多様性について学ぶ。
2. 次の6つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。
 - (1) 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - (2) 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的立場・役割や課題についての認識を深める。
 - (3) 住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - (4) 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - (5) コミュニティワーク(コミュニティ・オーガニゼーション)の全体像について理解を深める。
 - (6) 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等の資料を必要に応じて配布・紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地域福祉のパラダイム【社会福祉の3元構造論、社会福祉の主体論】
 - 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)自治型地域福祉論、新しい公共、協働を考える
 - 3回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)住民自治、社会関係資本を考える
 - 4回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(3)地域自治を考える
 - 5回 地域福祉とまちづくり【地域の福祉力、地域力】
 - 6回 住民参加の手法【中間支援組織、プラットホーム型活動戦略】
 - 7回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜【制度改革と社会福祉援助技術の考え方】
 - 8回 地域福祉を進める社会福祉援助技術を有効に機能させるための諸要件【地域住民の主体形成】
 - 9回 コミュニティ・ソーシャルワークの基本的視座と機能【総合的・包括的援助、ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 10回 コミュニティ・ソーシャルワーカー実践事例の解説【課題抽出ネットワークの構築】
 - 11回 ソーシャルワークの定義と実践モデルの発展【対象認識、背景としての社会運動と実践モデルの変遷】
 - 12回 コミュニティ・オーガニゼーション(1)原理、原則と理論の問題点を考える
 - 13回 コミュニティ・オーガニゼーション(2)過程を考える
 - 14回 コミュニティ・オーガニゼーション(3)合意戦術と専門ワーカーの役割を考える
 - 15回 セルフヘルプ・グループの活動【地域福祉の推進主体、当事者運動を進める手法】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プリントを事前に読むこと(全体像を把握することが重要)。
講義のメモを丹念にとること。
毎回、講義の始めに前回の講義のポイントについて解説するので、重点的な学習を行うこと。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中でも構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、注文をつけてください。努力します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動、住民自治、地域分権、主体形成
- 援助技術の核心は・・・コミュニティ・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション、エンパワーメント
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括ケア
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉と社会保障機能 1【社会福祉の動向】
 - 2回 社会福祉と社会保障機能 2【社会保障機能】
 - 3回 社会福祉と社会保障機能 3【参加型社会保障】
 - 4回 社会保障と税制 1【財政理論】【公共財】
 - 5回 社会保障と税制 2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 6回 社会保障と税制 3【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
 - 8回 福祉行財政まとめ
 - 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
 - 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
 - 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
 - 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
 - 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
 - 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな施設中心の運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアを視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第4版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。経済的成長も見込まれる社会福祉を経営の立場(施設長)から論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
 国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点) + 課題(20点) + 期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
 社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正義『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。

本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
 - 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
 - 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
 - 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
 - 第6回 ジェンダーと文化
 - 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
 - 第8回 文化相対主義の考え方
 - 第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

- 第10回 現代社会における儀礼と文化的な空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間試験の講評 / 政教分離
- 第14回 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回：「地域研究における総合的認識」【総合化の意味】
- 第5回：「地域研究における総合的認識」【全体像の把握の意味】
- 第6回：「地域研究における総合的認識」【全体像把握の方法】
- 第7回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第8回：「地域研究における文化主義的アプローチ」【オリエンタリズムとは】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義的アプローチとは】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【基本的視点】
- 第14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として【人間関係】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。黒板に板書した情報はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
 - 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
 - 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
 - 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
 - 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
 - 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
 - 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
 - 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめと今後の課題について【環境と健康】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 子安増生編「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」ナカニシヤ出版
- ・ 古宮昇著「しあわせの心理学」ナカニシヤ出版

メンタル・ヘルスII【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【自己分析のわな】
- 3回 暴力と非暴力1【ストーカーの心理】【児童虐待】
- 4回 暴力と非暴力2【戦争と平和】【非暴力コミュニケーション】
- 5回 人間の発達と自己形成【コフート理論】
- 6回 ネガティブ感情への対応1...感情の働きについて【不安と憂鬱感情】
- 7回 ネガティブ感情への対応2...感情の目的について【怒りの感情】
- 8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回 他者理解について。他人の価値観を理解する【人権感覚】
- 10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。【感謝】
- 11回 心が軽くなるとは。森田療法や東洋の人間観から【あるがまま】
- 12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回 働くとはどういう事か。心理的健康と社会的健康。【社会的健康】【キャリアプランと心の健康】
- 14回 地域や世界の心の健康を考える。【ワークライフバランス】【環境】【格差】
- 15回 まとめと今後の課題【ボランティア活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験50%
中間試験(抜き打ち)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。
前年度単位取得率: 57%
S:7% A: 23% B: 13% C: 21% D: 21% -: 15%

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの人は【絶対に受講しない方が良い】」
「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
「心理学が生活に関連していることがわかる」
「心理学が役に立つものだとわかる」
「就活に使えるネタが集まる」
「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけなくなるので覚悟すべし」
「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回到現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

国際社会論【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 国境を越える制度と文化 - 国際人権レジューム、国際NGO、エスニックメディア
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、国際人権レジューム、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程, 任 章 / NIN Akira /
マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易 【比較優位】 【貿易保護】
- 3回 企業の海外進出と立地 【直接投資】
- 4回 企業の海外進出と立地 【人件費】 【為替レート】
- 5回 ICT技術と経済のグローバル化 【コンピュータ・ネットワーク】
- 6回 市場の世界化と地域経済 【グローバル】
- 7回 グローバル化と地方自治体 【自治体外交】 【多文化共生】
- 8回 グローバル化の進展と国際会計ルール採用の意義 【IFRS】
- 9回 グローバル化とファイナンス 【アベノミクス】 【金融市場】 【外国人投資家】
- 10回 グローバル化時代の地域政策 【環境】 【新産業】 【地域振興】
- 11回 人と情報のボーダレス化 【多国籍組織】 【ダイバーシティ】 【世界同時情報共有】 【ネットワークング】
- 12回 グローバル化と異文化マネジメント 【グローバルノマド】 【グローバル人事】
- 13回 景気の国際間波及メカニズム 【GDP】 【三面等価】
- 14回 景気の国際間波及メカニズム 【需要変動】 【乗数】
- 15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

国際社会と日本のあり方と関係について、様々な視点から解説する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第ⅠⅤ部の総論 姜尚中論文
- 5回 第ⅠⅠ部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第ⅠⅠ部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 7回 第ⅠⅠ部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第ⅠⅠ部の「日本」 小森陽一論文 【自己植民地化】 【近代主義】 【ナショナリズム】
- 9回 第ⅠⅠ部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第ⅠⅠ部の「国家」 巒田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第ⅠⅠⅠ部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第ⅠⅠⅠ部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第ⅠⅠⅠ部の3、高橋哲也論文 【過去の克服】
- 14回 第ⅠⅠⅠ部の4、野村浩也・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本～3本 80% 平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習、関連文献を自主的に読むこと

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本・の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履・夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション ロジカルシンキング マルチメディア スライドデザイン

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

Students will learn how to properly write business emails and letters. Presentation skills will also be learnt.

教科書 /Textbooks

『Email English』 (Paul Emmerson編 Macmillan Education出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Formal or informal?
- 3 回Key phrases
- 4 回Opening and closing
- 5 回Information, action, help
- 6 回Giving news
- 7 回Internal messages
- 8 回Attachments
- 9 回Arranging a meeting
- 1 0 回Invitations and directions
- 1 1 回Negotiating a project
- 1 2 回Checking understanding
- 1 3 回Verb forms
- 1 4 回Comparisons
- 1 5 回Sentence structure

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

business; emails

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn the basics of business English. They will learn how to communicate effectively in a business environment by expressing their thoughts and ideas in a clear but professional manner. The course will comprise of small group discussions, and individual presentations.

教科書 /Textbooks

Get Ready for business: Preparing for work by Andrew Vaughan and Dorothy E Zemach

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the Instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Breaking the Ice
Week 2: Stereotypes and generalisations
Week 3: Decision making
Week 4: Meeting styles
Week 5: Automated voicemail
Week 6: Non-verbal communication
Week 7: Email
Week 8: Presentations
Week 9: Resumes
Week 10: Interviews
Week 11: Cultural mistakes
Week 12: High context/ low context
Week 13: Presentations
Week 14: Presentations
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and discussions 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【夜】

担当者名 真鍋和博 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナー、心構えを身に付めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はしませんが、各自必要な書籍を読んで授業の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回オリエンテーション
- 第02回地域創生学群とは(目的、設立経緯、学部の仕組み等々)
- 第03回社会人・学生としてのマナー
- 第04回調査・実習・校外活動におけるマナー
- 第05回情報機器の操作におけるマナー、図書館の利用方法
- 第06回栄養管理、生活管理、学生生活
- 第07回デザイン技法、チラシ・ポスターの作り方1
- 第08回調査書・実践報告書の書き方
- 第09回レポートの書き方
- 第10回デザイン技法、チラシ・ポスターの作り方2
- 第11回会議の行い方
- 第12回グループディスカッション技法
- 第13回ハラスメントについて
- 第14回情報共有
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業中の課題に対する成果・・・50%
- 出席等の授業への取り組み姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各自適宜準備をおこなってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動概論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア学概論【夜】

担当者名 見館好隆/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

<目的>
代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、全編ワールドカフェを行って、最終的に自らの地域活動や社会人生活、つまり学びと実践を繋げます。また、期間中フィールドリサーチを実施し、最終授業にてプレゼンテーションをしていただきます。

- <進め方>
グループワーク主体です。講義は短時間です。
①来週までに予習する。
②キャリアの基本的な理論を学ぶ。
③ワールド・カフェ
④発表
⑤レポートを仕上げる。
⑥次回の予習の課題をメモする。

<期待される効果>
学群の実習はもちろん、課外活動やアルバイトも含めたさまざまな経験を自らの成長に活かす方法が得られると思います。また、将来の自分のキャリアを描くヒントも得られると思います。

<2013年度のフィールドワーク先> ※学生自らが決定
TOTO、福岡テンジン大学、一生もんshop「緑々（あおあお）」、若者ワークプラザ北九州、北九州フィルムコミッション、ライブハウスWOW、ゼンリン、ナフコ、ヴィーナスワン、EPO、トトスイリーゼ北九州、タウンモービルネットワーク北九州

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 高尾隆・中原淳『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』三省堂
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 見美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- デイヴィッドA.プライス『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』早川書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』世界思想社
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 田尾雅夫『モチベーション入門』日本経済新聞社
- 山崎亮『コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる』学芸出版社

キャリア学概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(キャリアとは?):この授業を履修すべきか?
 - 2回 キャリア・デベロップメント:今何をすべきか
 - 3回 ダイアログ/ワールド・カフェ:雑談と議論と対話の違いは?
 - 4回 成人教育学(大人の学び):学生と社会人との学びの違いは?
 - 5回 働く個性/仕事へのこだわり:自分の軸は何か?
 - 6回 働く理由/ワークモチベーション:なぜ働くのか?
 - 7回 インプロビゼーション:創造力を培うには?
 - 8回 パフォーマンスエスノグラフィー:わかりやすいプレゼンテーションとは?
 - 9回 企業内人材育成:新人がすぐに辞めないようにするには?
 - 10回 大学生のキャリア(大学生生活・就職活動):内定を取るにはどうすればいいのか?
 - 11回 職業統合的学習(WIL、PBL、SL):学群の活動の本質とは何か?
 - 12回 計画された偶発性/セレンディピティ:幸運に出会う確率を上げるには?
 - 13回 キャリア・アダプタリティ:学群の活動と自分らしさと折り合いをつけるには?
 - 14回 Connected Learning(接続された学習)大学での学びを将来につなぐには?
 - 15回 プレゼンテーションフィールドワークで何を学んだのか?
- ※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...75% プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%
 ※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業で履修者調整する可能性がありますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。
- ※1年次に1学期の『キャリア・デザイン』を受講していることが望ましい。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって体育会などで欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通してさらに地域活動や社会人生活を充実したものしたい、という意味を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域文化論 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのが、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つも目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般的と思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 - 地域文化は必要か-
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法-
- 第5回 地域文化を「演出する」地域づくり - 大分県湯布院の事例から-
- 第6回 ありのままの生活空間を見せるフットパス
- 第7回 「おもてなし」の地域文化 - 人と人をつなぐ新たな「観光」のあり方-
- 第8回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 均質化した社会に生じる環境問題と福祉問題 - ESDの観点から-
- 第11回 避難地としての川 - アジュール空間の必要性-
- 第12回 「市民」の意識と攻撃性 - ホームレスを地域社会で受容できるのか-
- 第13回 すべての人を包摂する社会へ - 社会の多様性を担保するための地域文化-
- 第14回 レポート試験 (※レポート試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に行う試験(レポート試験も含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。
また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。
つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

危機管理論 【夜】

担当者名 戸蔭仁司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域の「危機管理」についての初歩的理解を目的とする。「危機管理」の概念に始まり、特に北部九州地域における危機の事例として、自然災害や国民保護を取り扱い、地域に発生しうる「危機」の実態を理解したい。

なお、授業全般にわたり、以下の項目を特に重視する。

- ①地域の危機管理に関する知識の提供や理解にとどまらず、
- ②必要な情報を解説する技能を習得し、
- ③実践的な側面からそれらの知識や技能を活用できるようにし、
- ④それにより、生涯にわたり最低限度の危機管理能力を身に付けられるようにする。

教科書 /Textbooks

使用しない。レジユメおよび資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 危機管理総論(危機管理の定義と範囲、概念の整理、地域防災計画について)
- 第3-6回 自然災害と地域I(洪水と土砂災害)
 - ①福岡県(北九州市)の自然条件と気象条件の特徴、紫川の特徴
 - ②台風・集中豪雨のメカニズム
 - ③各種災害のメカニズム(洪水、土石流、表層崩壊、深層崩壊、地滑り、高潮等)
 - ④過去の災害事例研究
 - ⑤平成21年、22年の集中豪雨について
- 第7-8回 自然災害と地域II(地震災害)
 - ①地震のタイプとメカニズム、マグニチュードと震度
 - ②福岡県の地質条件の特徴
 - ③地震災害について(倒壊、火災、液状化、津波等)
 - ④福岡西方沖地震について
- 第9回 自然災害と地域III(異常気象と都市災害)
 - ヒートアイランド現象、「ゲリラ豪雨」、竜巻、ダウンバースト等
- 第10回 自然災害をめぐる諸制度
 - ①災害対策基本法
 - ②激甚災害法等の関連諸制度
 - ③防災計画について
- 第11-12回 有事における対応と国民保護法
 - ①国民保護法の概説
 - ②災害対策基本法との違い
 - ③国民保護計画
 - ④武力攻撃事態と緊急対処事態
 - ⑤シミュレーション(弾道ミサイル、列車爆破、or原発災害)
- 第13-14回 大学・学生の危機管理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% + 試験(もしくはレポート)70%(詳細は開講時に説明する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

危機管理論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり計画【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、都市計画やまちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。都市計画の体系やまちづくりの手法について学びつつ、まちづくりとは何かを皆で考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。(適宜、資料を配付します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- まちづくりキーワード事典
- 都市計画法を読みこなすコツ
- 初学者のための都市工学入門
- 都市計画【第3版】
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【都市について考える】
- 2回 都市計画とは【都市計画の概念】
- 3回 近代都市計画の歴史【都市計画史】
- 4回 土地利用の概念【土地利用】
- 5回 土地利用計画の実現【土地利用】
- 6回 都市計画を実現する様々な手法【都市施設】【土地区画整理事業】【市街地再開発事業】
- 7回 都市計画の支援ツール【調査】【解析】
- 8回 住環境まちづくり【住環境】
- 9回 景観まちづくり【景観】
- 10回 歴史を生かしたまちづくり【歴史】
- 11回 交通まちづくり【交通】
- 12回 地域の活性化に向けた取り組み事例①【活性化】
- 13回 地域の活性化に向けた取り組み事例②【活性化】
- 14回 特別講師による講義
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として 概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。
 授業の特徴として、①具体的な事例を体系的にとりあげること（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスなど）②個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行うことが、挙げられます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 ソーシャルワーカーとは専門職か？
 - 3回 価値観について知る
 - 4回 人間の平等と尊厳、個性の尊重
 - 5回 自己実現と社会正義
 - 6回 受容・利益の優先・自己決定
 - 7回 プライバシーと秘密保持
 - 8回 組織への倫理責任
 - 9回 地域社会への倫理責任
 - 10回 倫理的ディレンマ
 - 11回 「インテーク その1」－出会いの場面
 - 12回 「インテーク その1」－語らいの場面（共感）
 - 13回 「インテーク その1」－語らいの場面（核心）
 - 14回 「インテーク その2」－出会いと語らい
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 授業中に面接練習をしますが、それ以外の時間でも個別面接の練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
相談援助演習 1 に引き続き、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレーイング等）を行います。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 「クライアント理解（アセスメント）」その1（アウトリーチを含む）
 - 3回 「クライアント理解（アセスメント）」その2 医学モデルとストレングス視点
 - 4回 「クライアント理解（アセスメント）」その3 エコロジカル視点
 - 5回 「プランニング」その1 プランの作成（チームアプローチ、社会資源の活用）
 - 6回 「プランニング」その2 プランのねらいと効果予測の明確化
 - 7回 「インターベンション（介入）」その1 クライアントへの働きかけ（ネットワーキング）
 - 8回 「インターベンション（介入）」その2 クライアントの環境への働きかけ
 - 9回 「インターベンション（介入）」SSTを学ぶ
 - 10回 「モニタリング」その1
 - 11回 「モニタリング」その2
 - 12回 「効果測定」その1
 - 13回 「効果測定」その2
 - 14回 支援の終結
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
各自、面接の練習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷裕/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。なお、ゼミ合宿を通して、特定課題についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 グループワーク① - 準備期
 - 3回 グループワーク② - 開始期
 - 4回 グループワーク③ - 作業期
 - 5回 グループワーク④ - 終結期
 - 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
 - 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析①）
 - 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析②）
 - 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域福祉の計画と実施）
 - 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワーキング）
 - 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
 - 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
 - 13回 実践事例検討①
 - 14回 実践事例検討②
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 各自、個別面接の練習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 2～14回 実践事例
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 各自、個別面接の練習をしておくこと。また、実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて報告をしてもらいますので、プライバシーに十分配慮しながら、担当日までにとまとめて来て下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉関連テーマについて個別的に深めるとともに学びを共有し、相談援助に係る実践的な知識や技術として理解を深めることがねらいです。また、専門的援助技術として 概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
 2 - 14回 課題発表（高齢者、児童、障害児者、ホームレス、社会的排除、コミュニティワーク、貧困、施設福祉、少年非行など）
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 発表担当者は、レジュメを作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。
 ①相談援助実習の意義について理解する。
 ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書(履歴書)等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故/緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(50%) + 期末レポート(50%) = 100%
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

相談援助実習指導 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習に向けた準備科目です。実習で困らないように、しっかりとサポートしていきます。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

相談援助実習指導 2 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。
 ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
 ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習を終えて
- 2.相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
- 3.相談援助実習の振り返り② 【 " " 】
- 4.相談援助実習の振り返り③ 【 " " 】
- 5.相談援助実習の振り返り④ 【 " " 】
- 6.相談援助実習の振り返り⑤ 【 " " 】
- 7.相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
- 8.相談援助実習の振り返り⑦ 【 " " 】
- 9.相談援助実習の振り返り⑧ 【 " " 】
- 10.相談援助実習の振り返り⑨ 【 " " 】
- 11.相談援助実習の振り返り⑩ 【 " " 】
- 12.相談援助実習の振り返り⑪ 【 " " 】
- 13.相談援助実習の振り返り⑫ 【 " " 】
- 14.相談援助実習の振り返り⑬ 【 " " 】
- 15.実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 (50%) + 期末レポート (50%) = 100%
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか 1 つでも不合格となると、連動して 3 つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目 (例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」) を履修しておくこと。
 本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
 ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習を終えて、学んだことをふりかえる仕上げの科目です。実習で学んだことを磨き、自分の宝物にしてください。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまで地域福祉のコースでは、地域における様々な問題に対して関心を払い、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指してきた。地域創生演習Aにおいては、このための実践的理論をさらに補強、会得することをねらいとする。具体的には「共同体」(アドラー心理学)という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「アドラー心理学トーキングセミナー 第二部 共同体」野田俊作著, アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

地域創生演習 A 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 共同体について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまでの基礎演習の成果をふまえ、各自が、より実践的・具体的な研究テーマを設定する。資料収集、ヒアリング、実験など可能なアプローチを皆で議論しながら展開する。4年次の卒論等に向けた中間報告の前期と位置づける。

教科書 /Textbooks

最初の演習で紹介する。補足資料は適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 スケジュール発表
2回～14回 「題材」の設定と分担発表 【行動経済学】 【まちづくり実践】 【地域調査】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当発表の準備とは別に、自ら設定した研究テーマに取り組みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けた第一歩として、様々な統計データを収集したり、フィールドワークによる調査結果をまとめたりするなど、地域について様々な側面からアプローチして、地域の課題や特色について、各自が主体的に考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 テーマの設定【問題意識の明確化】
- 3～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告 1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告 2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 2年次の地域創生基礎演習C・Dでやってきたことを踏まえ、さらに問題意識の定着を図ることを目的とする。受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。課題についての調査プランの作成をめざす。

教科書 /Textbooks
 適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨN
 2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもら。2年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
この演習は、資源・環境問題の解決策として法社会的アプローチの方法や思考を身につけることを目的とする。自然環境が豊富な地域や、快適な生活環境が開発業者等によって破壊されようとしている場合、良好な自然環境や快適な生活環境を守るための方法（紛争解決法）として、法社会学は非常に有効である。受講者が法社会学の基礎知識を習得することを目指す。

教科書 /Textbooks
中尾英俊（2009）『入会権-その本質と現代的課題』勁草書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第5回：テキストの輪読（入会権とは何か）
第6回～第10回：テキストの輪読（入会権で環境を守るとはどういうことか？）
第11回～第14回：テキストの輪読（実際に入会権で環境を守った事例の検証）
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
最終レポート：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
テキストの学習だけでなく、授業中に紹介した図書を積極的に読み、レジュメや報告資料に活かすことが望まれる。年度末にレポートを課す。なお、授業時間外で実地調査等を行う場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望ましい。

キーワード /Keywords
入会権、入会林野、民法、自然資源、生存権、生活様式の変化

地域創生演習 B 【夜】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

心理・メンタルヘルスに関する理論の一つをより深めて学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分もとより他者を支援して地域のメンタルをより健康にする方法と内容について学ばねばならない。地域創生演習Bにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には森田療法をより深く学ぶ。同時に地域で活動する自助グループのゲストを適宜招き学習を深めたい。

教科書 /Textbooks

「森田療法入門」田代信維著 創元社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白掲社

地域創生演習B 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 森田療法について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当箇所発表と討議①(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 5回 担当箇所発表と討議②(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 6回 担当箇所発表と討議③(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 7回 担当箇所発表と討議④(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 8回 担当箇所発表と討議⑤(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 9回 担当箇所発表と討議⑥(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 10回 担当箇所発表と討議⑦(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 11回 担当箇所発表と討議⑧(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 12回 「生活の発表会」(森田理論の自学習グループ)の方を招いて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当箇所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところはさらに深く掘り下げてもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加(実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前の予習を行うこと。必ず当日の予定学習箇所は一読して自分の疑問点や課題を把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域創生演習Aの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その研究結果を皆で議論する。4年次の卒論等へ受けたより具体的な成果をあげることを目指す。

教科書 /Textbooks
 適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 創生演習Aの振り返り
 2回～14回 「題材」の設定と分担発表 【行動経済学】 【まちづくり調査】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けて、自分なりの地域に対する問題意識をもとに、関連する様々な要素について調べることでその要因を探るとともに、その解決方法について各自が考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
引き続き地域創生演習Aでやってきたことを踏まえ、問題意識の定着を図ることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。1学期に作成した調査プランの実施を試みる。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 イントロダクション
2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1学期に引き続き、受講生の参加が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
この演習では、「地域創生演習A」と同様に法社会学的アプローチの方法や思考を身につけることを目的とする。ただし、演習Aでは自然環境への言及が多いが、この演習では演習Aによって得た知見を都市環境にまで応用しようと試みる。地域社会で伝統的に培われた入会権の原理を都市の生活環境においていかに応用するのかを問う。

教科書 /Textbooks
鈴木龍也・富野暉一郎編(2006)『コモンズ論再考』晃洋書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
鳥越皓之(1997)『環境社会学の理論と実践-生活環境主義の立場から』有斐閣
その他、必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
第1回：授業内容についての紹介(イントロダクション)
第2回～第5回：テキストの輪読(コモンズ論とは何なのか?)
第6回～第10回：テキストの輪読(都市環境の共同管理を考える)
第11回～第14回：テキストの輪読(地域環境を地域コミュニティで共同管理していくための法的根拠とは?)
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への貢献度(積極的発言・報告準備の丹念さ)：50%
最終レポート：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
テキストの学習だけでなく、授業中に紹介した図書を積極的に読み、レジュメや報告資料に活かすことが望まれる。年度末にレポートを課す。なお、授業時間外で実地調査等を行う場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望ましい。

キーワード /Keywords
コモンズ研究の歴史、高層マンション建築問題、共同マネジメントシステム、都市環境

地域創生演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 中島俊介/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次においては、卒業研究論文及び実践報告書の作成を視野に入れた学習が期待される。これまで心理・メンタルヘルスに関する理論の一つである「森田理論」を基礎から応用までを学んできたが、これが実践できる、あるいは人に説明、講義できる段階までには当然至っていない。演習Cにおいては、これらの力を学ぶために努力したい。

教科書 /Textbooks

「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二監修，講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「我執の病理」北西憲二著，白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
 - 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
 - 3回 メンタル講師としての自覚と役割について(学ぶ意義の理解と共有。)
 - 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 12回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 13回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
 - 15回 まとめ
- 上記に示すように担当個所をみんなの前で講義する力をつけることが求められる。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえてプレゼン・講義を進めてもらいたい。将来、自分が講師をする際の模擬講義のつもりで行ってもらいたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域創生演習C【夜】

履修上の注意 /Remarks

学習箇所を自分で講義できるために、板書計画（パワーポイントに頼らずに板書の基礎から学ぶ）等を考えて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域創生演習A・Bの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その調査および研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。ゼミ生の一層真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 地域創生演習A・Bの振り返り
2回～14回 論文等テーマの設定と逐次報告 【行動経済学】 【まちづくり調査】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「都市に関する様々な事象を観察し、そこから法則性を見いだす」ことです。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析することがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自の研究・実践テーマに従って、文献・資料購読、調査等を行い、議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～14回：報告・ディスカッション
- 第15回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・議論への参加度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に際しては、事前学習を十分行ったうえでのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文の執筆に向けて各自の問題関心・テーマに基づき高度な専門的知識を身につけることを目的とする。さらに、その専門的知識は単に知識として持つだけでなく、実際の(地域)社会において活用できる実用性を有していることが望ましい。したがって、調査と研究を同時進行的に行い、その進捗状況をこの演習で報告してもらう。

教科書 /Textbooks

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介(イントロダクション)
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(積極的発言・報告準備の丹念さ)：50%
演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境問題という具体的な課題に対して議論するが、法社会的な議論を行う性格上、概念的かつ抽象的な考察もあるため、多少授業前後の予習・復習が必要となる場合がある。
なお、授業時間外で実地調査等を行う場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次においては、卒業研究論文及び実践報告書の作成を視野に入れた学習が期待される。これまで心理・メンタルヘルスに関する理論あるいは、実習で得た体験、また社会人学生は、日々の社会体験の中での体験を新しい知識で統合して獲得した知恵、それらを互いに交換し深めるのが大事である。演習Dにおいては、これらの力を学ぶために努力したい。

教科書 /Textbooks

別に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

これまで演習で使用したテキスト類また紹介した図書を参考にする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ウォーミングアップ(自己の卒業までの解決課題や抱える問題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 討議して深める、互いに学ぶ意義の理解と共有。
- 4回 課題発表と討議①(自分の課題を発表する。議論する)
- 5回 課題発表と討議②(自分の課題を発表する。議論する)
- 6回 課題発表と討議③(自分の課題を発表する。議論する)
- 7回 課題発表と討議④(自分の課題を発表する。議論する)
- 8回 課題発表と討議⑤(自分の課題を発表する。議論する)
- 9回 課題発表と討議⑥(自分の課題を発表する。議論する)
- 10回 課題発表と討議⑦(自分の課題を発表する。議論する)
- 11回 課題発表と討議⑧(自分の課題を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 学習後に向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように自己の課題をみんなの前で表現しそれを皆の力で解決に導く力をつけることが求められる。問題に関連した文献や自己の体験を踏まえ整理して授業に臨んでもらいたい。

地域創生演習D 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の課題をきちんと他人に説明するための資料収集や言葉の力を得る普段の努力が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
引き続き、受講生の決めた具体的なテーマに関し、その調査研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 これまでの総括と振り返り
2回～14回 各自の論文等の題目設定と作成指導 【行動経済学】 【まちづくり調査】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「都市に関する様々な事象を観察し、そこから法則性を見いだす」ことです。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析することがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自の研究・実践テーマに従って、文献・資料購読、調査等を行い、議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～14回：報告・ディスカッション
- 第15回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・議論への参加度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に際しては、事前準備を十分に行ったうえでのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

引き続き、この演習では「地域創生演習C」と同様に、卒業論文の執筆に向けて各自の問題関心・テーマに基づき高度な専門的知識を身につけることを目的とする。さらに、その専門的知識は単に知識として持つだけでなく、実際の（地域）社会において活用できる実用性を有していることが望ましい。したがって、調査と研究を同時進行的に行い、その進捗状況をこの演習で報告してもらう。

教科書 /Textbooks

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境問題という具体的な課題に対して議論するが、法社会学的な議論を行う性格上、概念的かつ抽象的な考察もあるため、多少授業前後の予習・復習が必要となる場合がある。
授業時間外に実地調査等をする可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉関連テーマについて個別に深めた学びを、発表およびディスカッションを通して、卒業論文・卒業実践報告としてまとめていきます。社会福祉の専門性を深めるとともに、関連領域についての幅広い知識や技術を理解していくことがねらいです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
 2 - 14回 卒業論文・卒業実践報告についての発表およびディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 発表担当者は必ずレジュメを作成してくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 中島俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行つてのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文・卒業実践報告【夜】

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自設定のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終決定
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとりアドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回：オリエンテーション
 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
 第14回：中間報告会
 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
 第29回：最終報告会
 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method
 論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
 随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告4回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この講義は、地域で起こる社会経済事象を対象として、地域の課題と解決のために実施されるさまざまな調査について、より実践的な知識を習得することがねらいです。
講義では、まず、まちを知るため各種公的統計の見方・調べ方について解説します。次に世論調査の方法と実際について学習します。さらに、その調査結果がどのように活用されるのかについても具体的に解説します。主な内容は、「まちづくり」をメインテーマとし、継続的に実施される行政の世論調査や市民の意識と行動調査などを題材とします。
地域の課題解決策をいかに調査に反映させればよいのでしょうか。結果から何がわかるのでしょうか。授業を通じてしっかり身につけましょう。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
- 2回 北九州市、その地域社会のプロフィール①
- 3回 北九州市、その地域社会のプロフィール②
- 4回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
- 5回 データ読み取りに際しての注意事項① 【基準値のあやまり】【少数の法則】
- 5回 データ読み取りに際しての注意事項② 【人間的なあやまり】【ヒューリスティクス】
- 6回 世論調査について① - 質問文作成の要領と注意点 【ステレオタイプ】
- 7回 世論調査について② - 質問文作成ルールの復習
- 8回 世論調査について③ - 質問文のあやまりと完全性の限界
- 9回 世論調査について④ - 調査実施手順
- 10回 地域調査事例とその読み方 ① 【まちづくり調査事例】
- 11回 地域調査事例とその読み方 ② 【分析の実際】
- 12回 地域調査事例とその読み方 ③
- 13回 地域調査事例とその読み方 ④ 【検定】【順位法】
- 14回 地域調査事例とその読み方 ⑤ 【多変量解析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 期末レポート(ミニレポート含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業のなかで小テストを行います。また、実際にデータ分析してもらうこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。
 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)
 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)
 ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』(東洋経済新報社、2012年)。
 阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』(岩波書店、2008年)
 阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は?
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・解決策を考える
- 9回 循環型社会(1)・・・リサイクルは環境に優しいのか?
- 10回 循環型社会(2)・・・ペットボトルのリサイクル
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。
 本年度は授業内容(循環型社会の回数等)を変更する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

都市環境論【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成24年度版』(北九州市役所HP掲載)
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)
: : 簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第7回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題 【途上国のし尿問題】
- 第11回 上水道 : : (アクティビティ＝きき水比べ) 【おいしい水】
- 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 【大気汚染】
- 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう！【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
 授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらるので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の北九州学(北九州市と環境)の同時受講も勧めておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境教育目標、環境教育アクティビティ

福祉環境デザイン論 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks

なし (適宜、レジュメや参考資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (福祉環境デザインとは) 【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI (道路、歩道、広場等) 【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII (公共施設、商業施設等) 【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 欧州におけるバリアフリーのまちづくりの動向
- 9回 公共交通のデザインI (交通施設) 【交通バリアフリー法】、【駅】
- 10回 公共交通のデザインII (車両) 【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
- 11回 世界の交通まちづくり【海外事例】
- 12回 シェアによる持続可能な生活【サイクルシェアリング】、【カーシェアリング】、【カーフリー】
- 13回 住民参加によるまちづくりの合意形成手法【ワークショップ】、【市民参加】
- 14回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験及び中間時期に課すレポートで評価します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的参加を求めます

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
- 長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権保障と人権制約】
- 第4回 人権論② 【裁判所による権利保障】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権】
- 第6回 統治機構論② 【権力分立】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の選挙制度】
- 第9回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第10回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第11回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第12回 地方自治 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第13回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学部1年生は昼間開講「日本国憲法原論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法概論I【夜】

担当者名 /Instructor 平山 也寸志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・民法を授業の対象とする。生活において我々は、例えば、商品を買う、電車に乗る、家を借りるという場合、それぞれ、売買契約、運送契約、賃貸借契約という法律関係におかれる。民法はこのような我々の生活関係を広く規律する法である。民法典は110年以上の歴史がある法律であるが、総則・物権・債権・親族・相続の5編からなる。この授業では、そのうち、総則編と物権編を授業の対象とする。
- ・民法を理解することは、分量が多く、しかも、理論が緻密なので、難事であるが、基本的な制度について、具体例を挙げながら、解説することをこの授業の目的とする。
- ・主要項目としては、民法の沿革、権利の主体（権利能力、行為能力、制限行為能力（未成年、法定後見）、権利の客体（物）、法律行為、代理、無効と取消、時効、物権法定主義、物権変動と登記、所有権、制限物権、担保物権などである。
- ・この授業を受講することにより、民法が関係する社会現象に関心を持てるようになることを目標としたい。

教科書 /Textbooks

丸山英気＝三好登『民法概説』（成文堂、第6版） 2800円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 清水元『プロGRESSIVE民法[物権法]』（成文堂、第2版）
 清水元『プロGRESSIVE民法[担保物権法]』（成文堂、第2版）
 平井一雄＝清水元編著『基本講座 民法I（総則・物権）』（信山社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 民法の沿革
- 2回 法源論
- 3回 権利能力
- 4回 行為能力（制限能力①未成年者）
- 5回 制限行為能力（法定後見）
- 6回 法律行為と意思表示①
- 7回 法律行為と意思表示②
- 8回 代理
- 9回 無効と取消
- 10回 時効
- 11回 物権法定主義
- 12回 物権変動と登記
- 13回 所有権
- 14回 制限物権
- 15回 担保物権

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①定期テスト 90%
- ②小テスト等平常点 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをあらかじめ各回分は読んでくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利の主体 意思表示 契約 所有権 登記

民法概論II【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

民法は、私たち私人（一般市民）間のさまざまな法律関係（財産関係や家族関係）に適用される基本的ルールを定めたものです。わが国の民法典には、民法全体に共通するルールを扱う総則（第1編）を頂点に、物権（第2編）、債権（第3編）、親族（第4編）、および相続（第5編）と、全部で5つの編が置かれています。

この講義では、これらのうち、「民法概論I」の内容を受けて、債権（第3編）を中心に解説を行います。できる限り具体的場面を挙げて、法制度や概念について、平易な解説を加える予定です。この講義を通じて、現代社会における民法、とりわけ、債権法分野の機能や目的を考えてみましょう。

なお、この講義で扱う債権（第3編）の具体的内容について、もう少しだけ紹介しておきましょう。民法（財産法）の後半部分に当たる債権（第3編）では、債権の共通規範に関する諸規定、つまり、「債権の目的」、「債権の効力」、「多数当事者の債権及び債務」、「債権の譲渡」、そして、「債権の消滅」に関わる条文が置かれています。要するに、発生した債権がどのような内容のものであるか、どのような効力があるか、どのように消滅していくか、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲り渡す場合はどうなるか、という各局面について規律しています。さらに、債権（第3編）の中の後半部分では、その債権の発生原因となる、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する諸規定が置かれています。①の契約は、私たちの日常生活の一部を形成しているとすらえます（たとえば、コンビニでおにぎりを1つ買ったということは、おにぎりについての売買契約を締結し、そこから発生する義務（おにぎりの引渡し債務と代金支払債務）が履行されたということになります。）。また、④の不法行為は、現代社会において不可避免的に発生します（たとえば、交通事故がその代表例です。）。

この講義では、これら、「債権」を中心に、民法典の条文・判例（最高裁判所がその判決理由の中で示した規範）・学説の概要を解説します。

教科書 /Textbooks

西原 慎治『パンデクテンシステムで学ぶ民法入門』（久留米大学 西原慎治研究室、2014年）；定価（2,750円＋税）

※小型六法持参が望ましいですが、指定教科書巻末には、民法典の規定が全て掲載されていますので、そちらを参照いただいても構いません。「民法概論I」で既に、小型六法を購入済みの方は、そちらを持参して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、○近江 幸治『民法講義0 セロからの民法入門』（成文堂、2012年）；定価（2,800円＋税）を挙げておきます。その他の参考書については、講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】内はキーワード） ※レジュメを適宜配布しますが、上記指定教科書は毎回持参して下さい。

- 第1回：民法入門・再び？【物権とは？債権とは？パンデクテンシステムとは？】
- 第2回：債権総論①【債権とは何か？】
- 第3回：債権総論②【債権の効力】
- 第4回：債権総論③【多数当事者の債権関係】
- 第5回：債権総論④【債権譲渡とは？】
- 第6回：債権総論⑤【債権の消滅：弁済・相殺・更改・免除・混同とは？】
- 第7回：中間試験&民法（債権関係）の改正について【債権総論分野の理解度検証】
- 第8回：債権各論①【契約総則①：契約の意義・契約の成立】
- 第9回：債権各論②【契約総則②：契約の効力】
- 第10回：債権各論③【契約総則③：契約の解除】
- 第11回：債権各論④【各種の契約①：贈与・売買・交換】
- 第12回：債権各論⑤【各種の契約②：消費貸借・使用貸借・賃貸借】
- 第13回：債権各論⑥【各種の契約③：雇用・請負・委任・寄託・組合・終身定期金・和解】
- 第14回：債権各論⑦【事務管理・不当利得・不法行為】
- 第15回：【不法行為の残りの部分】とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

※中間試験の成績（45分間）...30%

※期末定期試験の成績（80分間）...70%

以上の合算（合計100%）で評価します。なお、期末定期試験のみ、「全て持込み可」の試験です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法概論II【夜】

履修上の注意 /Remarks

予・復習を常に心がけて下さい。できれば、上記指定教科書の前半部分(1~128頁:「民法概論I」で扱われる内容を概ねカバーしています。)を開講時までに通読しておく、講義内容が理解しやすくなると思います(熟読ではなく、ざっと目を通すだけでも随分違うと思います)。

なお、開講以降は、次回授業時までに、担当者が指定する頁を予習として通読してきて下さい。また、「民法概論I」を履修しておく、本講義の内容をより深く理解することができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権法

現代日本経済入門 A 【夜】

担当者名 /Instructor 古谷 京一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

我々の日常生活は、「高度経済成長と石油ショック」、「バブルの発生・崩壊」、「失われた20年」、「リーマンショック後の世界金融危機」、「アベノミクス」などさまざまな経済現象に影響を受けます。
 本講義では、そのような我々の日常生活に大きな影響を及ぼす経済の動きを理解するための経済学の基本的な考え方（生産物の流れ：需要と供給、マネーの循環、景気や経済成長など）と経済構造を理解する事を目的とします。
 さらに、現実の経済問題、経済政策、日本経済の歴史などに興味を持ち、経済学の基礎知識を用いてそのような問題やトピックにアプローチしていただけるための準備となる土台作りをすることをねらいとします。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。授業内で資料を提示・配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『最新日本経済入門』 小峰隆夫著 日本評論社、「日本経済のパースペクティブ」 脳田成著 有斐閣、
 『日本経済の真実』 吉富勝著 東洋経済新報社、『日本経済とマクロ経済学』 吉川洋著 東洋経済新報社、
 『入門 経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社、「マクロ経済学」 伊藤元重著 日本評論社、
 『マンキュー 入門経済学』 N.G. マンキュー著 足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆訳 東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 内容
- 第1回 経済学のエッセンスとデータで見る日本経済の現状：経済成長、GDP、所得、人口、失業率など
 - 第2回 現在日本経済の構造：経済市場の構造：財市場、金融市場、労働市場、需要サイドと供給サイド（財・サービスの消費と生産、寄与度）
 - 第3回 消費と経済：基礎消費（財・サービスを購入する意味って？）、消費性向（財・サービスの購入の仕方の特徴って何だろう？）
 - 第4回 企業と経済①：投資（企業の財・サービスの購入の意味って？）、在庫循環（企業は購入した財・サービスをどのように使っているのか？）
 - 第5回 政府と経済①：政府支出と政府の役割（政府は何のために財・サービスを購入するのか？）、財政政策とは
 - 第6回 政府と経済②：財政赤字、社会資本、公共財（国の借金って？社会全体に必要な財・サービスって何だろう？）
 - 第7回 マネーと経済①：貯蓄（お金を貯める意味って？）資金循環（直接金融、間接金融、世の中でお金の流れる仕組みとは？）
 - 第8回 マネーと経済②：金融政策とは、日本銀行の役割（世の中で流通しているお金の管理って誰がしているのか？）、デフレ経済とは
 - 第9回 外国と日本経済：貿易とは、グローバル化（世界と日本の経済的結び付きとは？）、WTOやTPPとは
 - 第10回 日本経済の構造①：日本経済の履歴書（景気循環と成長：経済の伸び縮みとは？明治・大正・昭和（戦後復興期まで）の特徴）
 - 第11回 日本経済の構造②：日本経済の履歴書（景気循環と成長：経済の伸び縮みとは？昭和（戦後復興から高度経済成長期まで）の特徴）
 - 第12回 日本経済の構造③：日本経済の履歴書（景気循環と成長：経済の伸び縮みとは？昭和（高度経済成長期）から平成（バブル経済）の特徴）、高度経済成長の光と影
 - 第13回 日本経済の構造④：日本経済の履歴書（景気循環と成長：経済の伸び縮みとは？昭和（高度経済成長期）から平成（バブル経済）の特徴）、バブル経済の光と影
 - 第14回 日本経済の構造⑤：日本経済の履歴書（景気循環と成長：経済の伸び縮みとは？平成（バブル崩壊後の失われた10年からリーマンショック後の特徴）
 - 第15回 日本経済の今後：持続可能性（我々の生活と経済はこれからどうなっていくのか？）

現代日本経済入門 A 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：10%、課題・レポート提出：20%、期末試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内で配布されるプリントや資料を、予習復習のために活用して下さい。

上記のスケジュールに従って授業を進めていくつもりですので、各回を継続して受講する事が望ましい。ただし、授業の理解度などによってスケジュールが変更される場合もあります。

また、内容理解を進めるためにレポートや課題が課される場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実、理論、歴史、政策などの様々面から日本経済を理解するための視点と知識を共に養っていきましょう！

キーワード /Keywords

現代日本経済入門B 【夜】

担当者名 /Instructor 素川 博司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

産業や労働の側面から日本経済を学びます。前期（古谷）が主に需要が中心であったのに対して、供給に焦点をあてることにします。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本経済図説』宮崎勇著、岩波新書
- 『はじめての経済講義』佐和隆光著、日本経済新聞出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 景気と成長 [経済発展の諸要因]
- 第2回 変わる産業構造 [産業構造の高度化、規制緩和]
- 第3回 第1次産業の変化 [農業の生産性]
- 第4回 第2次産業の変化 [高度成長]
- 第5回 第3次産業の変化 [サービス産業、金融サービス]
- 第6回 エネルギーと経済 [エネルギーの供給構造、省資源]
- 第7回 新技術と経済 [大量生産型、知識集約型]
- 第8回 暮らしと労働 [雇用、労働]
- 第9回 暮らしと産業 [就業構造、ミスマッチ]
- 第10回 暮らしと豊かさ [余暇・レジャー、労働時間]
- 第11回 経済力と生活の質 [消費者物価、消費構造、個人資産]
- 第12回 経済力と生活の質 [健康・教育・社会保障]
- 第13回 日本経済の今後1 [持続可能性、労働問題]
- 第14回 日本経済の今後2 [持続可能性、環境問題]
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するプリントを利用して、授業の事前事後の学習に役立てること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 - 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 - 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
 - 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
 - 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
 - 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 - 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
 - 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 - 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 - 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 - 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
 - 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 - 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
 - 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 - 15回 まとめ
- (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

マネジメントをめぐる様々な側面を取り上げ、解説します。企業の中で人間らしく働くことの問題点を明確にして、働くことにとって何が重要であるか、そのためにはどのようなマネジメントが必要であるのか、考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業の概要、勉強することの意義について考える
- 2 私たちのくらしと企業、マネジメント
- 3 企業とマネジメントと社会
- 4 誰が企業を動かし、マネジメントしているのか
- 5 社長と経営者はどのようにマネジメントしているのか
- 6 日本の誇りにしたい企業と良いマネジメント
- 7 日本のブラック企業、失敗したマネジメント
- 8 企業の理念とそれを実現するマネジメント
- 9 マネジメントの仕組みと組織
- 10 企業はどのように製品をつくるのか
- 11 マネジメントと人間らしい働き方
- 12 社員の賃金と労働時間
- 13 人の採用から定年まで
- 14 マネジメントによる社員の人材育成
- 15 企業に入るためには何をすればよいのか

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞を読み、ニュースを見聞すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント、誇りにしたい企業、ブラック企業、人間らしい働き方

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
 本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。
 本講義の具体的な到達目標は次の通りです。
 ① 企業とはどういうものか、ということについてイメージすることができる。
 ② 企業の種類やその特徴について説明できる。
 ③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
 ④ 株式会社の所有と支配について説明できる。
 ⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
 ⑥ CSR (企業の社会的責任) の概念と基本的な考え方について説明できる。
 ⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べるすることができる。
 ⑧ CSRの意義について自分の意見を述べるすることができる。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』(佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】【企業の目的】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の役割】【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【資本の証券化】
- 10回 株式会社の制度的特徴(3) 【株式会社と証券市場】
- 11回 株式会社における所有と支配 【専門経営者】【所有と支配の分離】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 13回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 14回 企業に求められる21世紀型CSR 【CSR(企業の社会的責任)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。
 本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks
 入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 中央経済社編 会計法規集

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 簿記とは何か
 - 第2回 簿記の目的
 - 第3回 簿記の必要性
 - 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
 - 第5回 計算項目(2) 収益・費用
 - 第6回 会計取引とは何か
 - 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
 - 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
 - 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
 - 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
 - 第11回 試算表の作成
 - 第12回 精算表の作成
 - 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
 - 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
 - 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。
 ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

本講義は、2014年度入学生は受講できない。2013年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
 沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
 C.I.バーナード(山本次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは? 【戦略という概念】【企業の営為と経営戦略】
- 第3回 経営戦略の基礎 【フォードとGM】【経営戦略の2つのレベル】【多角化戦略】
- 第4回 事業戦略 【マクドナルドとモスバーガー】【3つの基本戦略】
- 第5回 全社戦略① 【シャープ】【資源蓄積】【VRIO】
- 第6回 全社戦略② 【PPM】
- 第7回 全社戦略③ 【フジフィルム】【ドメイン】【事業創造】
- 第8回 事業戦略の発展① 【コストリーダーシップの発展】【トヨタ生産方式】
- 第9回 事業戦略の発展② 【コストリーダーシップ+差別化】【セブンイレブン】
- 第10回 事業戦略の発展③ 【市場創造】【ヤマト運輸】
- 第11回 全社戦略の発展① 【M&A】【垂直統合】【多角化】
- 第12回 全社戦略の発展② 【国際経営】【BOP】【ノキア】
- 第13回 全社戦略の発展③ 【株主戦略】【カゴメ】
- 第14回 経営戦略と倫理 【三菱ふそう】【意思決定】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...80% 小レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを読み、事前に予習してください。
 状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

意思決定 目的と環境 事業戦略 全社戦略

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

前期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気対策として行う財政政策とその有効性について学びます。マクロ経済学の講義ですすでに学習したかもしれませんが、ケインズの45度線分析やIS - LMモデルでは、財政政策は経済全体の有効需要を生み出し、それが失業の解消とGDPの増加をもたらす有効な景気対策であると教えてくれます。しかし、財政政策が有効ではないと主張する経済学の考え方も存在します。それは新古典派経済学の主張です。この授業の前半では、この財政政策の有効性に関する異なる考え方：ケインズ的な財政理論と新古典派のマクロ財政理論を学び財政政策は本当に有効なのかどうかについて議論したいと思います。講義の後半では世代間の財政問題をテーマに扱います。国債の償還問題や公的年金制度の問題は世代間の利害にかかわる重要な財政問題です。ヨーロッパや日本、アメリカなどの先進国では、政府の国債残高（政府の借金）が膨大でありそれを解消するためにはどのように財政再建を進めればよいかが議論されています。高齢化の進むこれらの国では、それと並行して公的年金制度をどう持続していくのかという問題にも直面しています。これらの問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

現代経済学入門『財政』井堀利宏 著 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー マクロ経済学 (第3版) I 入門編 と II 応用編
 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回財政思想と財政制度
- 2 回財政政策の理論1-1 45度線分析 乗数の計算
- 3 回財政政策の理論1-2 IS - LMモデル
- 4 回財政政策の理論1-3 IS - LMモデルにおける財政政策の効果
- 5 回財政政策の理論2-1 新古典派経済学；恒常所得仮説
- 6 回財政政策の理論2-2 新古典派経済学；恒常所得仮説と財政政策の有効性
- 7 回中間試験 (日程は第1回目の授業でアナウンスします。必ず受験してください)
- 8 回公債1 政府の予算制約と公債残高の変化
- 9 回公債2 公債負担の転嫁1 世代間対立の問題
- 10 回公債3 公債負担の相殺とリカード (バロー) の中立性命題
- 11 回財政運営 財政破綻・財政の持続可能性
- 12 回財政再建 財政再建の方向性・方法・議論
- 13 回公的年金1 公的年金の存在理由
- 14 回公的年金2 積み立て方式年金の経済効果
- 15 回公的年金3 賦課方式年金の経済効果

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学の知識を使います。図や簡単な数式 (中学・高等学校程度) を入門のマクロ経済学の講義よりもよく用います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は連続ドラマのように話の内容が途切れることなく連続しています。ですからできるかぎりきちんと毎回、講義に参加するようにしてください。

キーワード /Keywords

財政、財政政策

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
 また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
 そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >
 財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし
 『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
 中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計 【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定 【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産について【資産概念の変化について】
- 13回 負債について【負債概念の変化について】
- 14回 純資産について【企業会計原則】【企業会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
 根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義 (資料を使った説明、およびノート取り) で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料 (パワーポイント資料) は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。それぞれの理解度にもよりますが、しっかりと習得には日頃の予習、復習が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

データベース【夜】

キーワード /Keywords

システムデザイン 【夜】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

理解しやすい情報や使いやすいシステムをデザインするには、利用者（ユーザ）のを中心に考えることが重要です。本授業では、そのために必要な、利用者のニーズやウォンツを知り、自分たちでアイデアを出し合い、形にまとめていく一連のプロセスをワークを通して体験しながら学習します。最終的には、情報関連分野のみならず、より広い領域で実践に生かせる知識、技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『情報デザインの教室』（情報デザインフォーラム編）丸善

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション
- 2回 UIとは何か？
- 3回 ベンチマーク
- 4回 相手を知る (1) 【インタビュー】
- 5回 相手を知る (2) 【ファウンドビヘイビア】
- 6回 発想する (1) 【マインドマップ】
- 7回 発想する (2) 【ブレインライティング】
- 8回 ペルソナ手法とシナリオ手法
- 9回 情報の構造化
- 10回 ルールと作法
- 11回 基本デザイン・構造設計
- 12回 画面デザイン・フロー設計
- 13回 ユーザビリティ、ヒューリスティック法
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」や情報関連科目を受講していると、理解しやすくなる場合があります。
基本的には、毎回ワークを行います（グループワークが中心ですが、個人ワークもあります）。
授業の時間と内容の都合上、遅刻は厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

興味がないとこの授業は苦痛になるだけだと思います。
授業に対して一生懸命取り組んでくれることを期待しています。

キーワード /Keywords

要求分析、UI（ユーザインタフェース）、ユーザ中心設計

情報ネットワーク【夜】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 3回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】
 - 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
 - 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイステイック】
 - 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 8回 生活保護法 【生存権保障】【原理・原則】
 - 9回 社会福祉の歴史（イギリス）【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 10回 社会福祉の歴史（日本）【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 11回 社会福祉の歴史（日本）【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 12回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 13回 世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
 - 14回 世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況 10% レポート・提出物 20% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 授業で配布したレジユメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会・編集『新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉』中央法規出版
※最新版を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2013』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 3回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 4回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 5回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 6回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 7回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 8回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 9回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 10回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 11回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法、地域福祉への展開】
- 12回 福祉政策の国際比較①【欧米の福祉政策】
- 13回 福祉政策の国際比較②【東アジア諸国の福祉政策】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出 (20点) + 中間テスト (30点) + 期末テスト (50点) = 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ教科書の前半部分を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学ばせて学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編(2010)『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 行政と民間の協働2【ボランティア活動】
- 12回 行政と民間の協働3【保護司】
- 13回 行政と民間の協働4【民生委員】
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の福祉需要
- 第3回 高齢者の介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程 1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程 2【介護保険制度】
- 第6回 介護の概念や対象【介護の概念と範囲】
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念】
- 第8回 介護の概念や対象【介護の対象】
- 第9回 介護予防【介護予防の必要性】
- 第10回 介護予防【介護予防プランの実際】
- 第11回 介護過程
- 第12回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第13回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第14回 終末期ケア 2【終末期ケア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等及び福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
 その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険法の概要
- 第3回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第4回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第5回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第6回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第7回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第8回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第9回 介護保険法におけるネットワークと実際
- 第10回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第11回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法1【老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律】
- 第13回 高齢者福祉制度と関連法2【高齢者虐待防止法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律等】
- 第14回 高齢者福祉制度と関連法3【高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚機材などを用いることで、その実際が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

特になし
レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉六法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害】【発達障害】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業への参加度、提出物など)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害者施策の変遷を概観するとともに、「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する」ことを理念に掲げてH25年4月1日より段階的に施行される障害者総合支援法の内容について読み解くことによって、障害を持つ人を取り巻く現状とその課題について理解する。さらに、その理解をもとに、障害を持つ人が自らの力や可能性を發揮し、その時々にとその人にとっての最善を選択し、主体的に生きること、暮らすこと、「こうありたい」という思いを実現することを支援する援助者に求められる視点やアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは、使用しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」
KSボックス 上田敏著「ICF(国際生活機能分類)の理解と活用-人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか」
その他、授業において適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか、成績評価の方法
- 2回 障害をもつということ① 「障害を持つということ」
- 3回 障害を持つということ② 「当事者の思い」
- 4回 障害を持つということ③ 「障害の概念と構造的な理解」
- 5回 障害を持つ人を取り巻く現状
- 6回 障害を持つ人に対する施策 「障害者施策の変遷」
- 7回 障害者総合支援法の理念・概要・支給決定プロセス
- 8回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービス
- 9回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスと地域における生活支援
- 10回 障害を持つ人の権利 「社会的障壁」
- 11回 障害を持つ人の権利を守ること 「権利擁護」
- 12回 障害を持つ人が働くことの意味 「就労支援」
- 13回 障害を持つ人があたりまえに地域で暮らすことを支援するために 「多職種連携・ネットワーク」
- 14回 障害を持つ人のもつ力 「エンパワメント」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：70% 提出課題：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

提示した参考書に目を通しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程II2 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程II3 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程II4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年の貧困と格差の拡大傾向を背景として、生活保護費保護者数は史上最高数に達し、また、ワーキングプア、ネットカフェ難民、孤立・孤独死、DVなど、貧困に伴う問題状況も変容しています。公的扶助に対する需要が拡大・変質する中で、生活保護と他の所得保障制度との連携や被保護世帯に対する社会福祉的援助の強化が求められています。

この講義では、現代の貧困問題、生活保護制度、その他の低所得者支援の諸制度、生活保護受給者の生活実態を学習し、福祉需要を有する者に対する相談援助活動において必要となる生活保護制度及びその関連制度についての知識と理解力を習得することを目的として講義を行います。あわせて海外の公的扶助制度との比較によって、我が国の公的扶助制度の特徴と課題について考察します。

具体的には以下の学習到達目標に従って講義を行います。

- 1.低所得者層の生活実態と福祉需要について説明できること
- 2.福祉需要を有する者に対する相談援助において必要となる生活保護制度について説明できること
- 3.生活保護と関連する他の低所得者支援制度について説明できること
- 4.低所得者に対する自立支援の意義と課題について説明できること
- 5.公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向について説明できること

教科書 /Textbooks

岩田正美編「公的扶助論—低所得者に対する支援と生活保護制度」ミネルヴァ書房社会福祉士養成テキストブック 14、¥ 2,730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田正美「現代の貧困」筑摩書房(格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです。)
 社会保障法学会編「ホームレス施策と社会保険の現代的課題」法律文化社
 小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会(立案者による生活保護法の逐条解説です)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15回の講義について、以下の計画に従って授業を行います。

- 1.現代の貧困 (社会的排除、相対的貧困、見えない貧困)
- 2.公的扶助の意義と役割 (社会保険と公的扶助、社会手当と公的扶助、最後のセーフティーネット)
- 3.世界および日本における公的扶助の歴史 (エリザベス救貧法、恤救規則、救護法、生活保護法)
- 4.福祉国家と公的扶助 (生存権、社会保障制度審議会勧告、構造改革)
- 5.生活保護I 生活保護法の基本原理 (国家責任・無差別平等・最低生活保障の原理)
- 6.生活保護II 生活保護法の基本原理 (補足性の原理)
- 7.生活保護III 保護実施上の原則と保護の内容・方法 (申請保護、世帯単位、基準及び程度、必要即応、8種類の扶助、現金給付と現物給付、居宅保護と施設保護)
- 8.生活保護IV 保護の実施 (実施機関、実施要領、最低生活費の算定、資産調査及び収入認定)
- 9.生活保護V 生活保護行政と援助活動 (行政行為、指導指示、被保護者の権利と義務、財源)
- 10.被保護層の動向と課題 (保護率と捕捉率の動向、生活保護訴訟)
- 11.海外の公的扶助制度との比較に見る我が国の制度の特徴 (イギリス)
- 12.海外の公的扶助制度との比較に見る我が国の制度の特徴 (フランス、アメリカ)
- 13.母子世帯と児童扶養手当制度
- 14.ホームレス自立支援政策の概要、自立支援プログラムの目的、実際と課題
- 15.生活福祉資金貸付制度その他の低所得者施策

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、定期試験 (70%) により、評価を行います。
 定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、その知識の正確さないし説明の適切性について筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

履修上の注意 /Remarks

以下の点に留意して履修してください。

- ・ テキストを事前に読んでおくこと
- ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を用いるので、それによって事後の学習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代我が国の貧困問題は複雑化・多様化しつつあるといえます。現代の貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択し、自分なりの問題関心を持って授業に臨むことによって、講義もわかりやすくなると思います。

キーワード /Keywords

相対的貧困と絶対的貧困、「見えない貧困」、「貧困の連鎖」

エリザベス救貧法、恤救規則、公的扶助と社会保険、生存権

生活保護基準、資産調査、保護の補足性、福祉事務所、自立支援プログラム、指導・指示

第二のセーフティネットと最後のセーフティネット

保健医療サービス【夜】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。これにより学生は医療保険制度の概要、政策動向、専門職の役割等を理解することができる。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方、医療保険制度【医療保険制度の概要】
- 第2回 医療保険制度【医療費に関する政策動向】
- 第3回 診療報酬制度の概要
- 第4回 保健医療サービスの概要【医療施設の概要】
- 第5回 保健医療サービスの概要【保健医療対策の概要】
- 第6回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【医師の役割】
- 第7回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【インフォームドコンセントの意義と実際】
- 第8回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【保健師、看護師等の役割】
- 第9回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等の役割】
- 第10回 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際【医療ソーシャルワーカーの役割】
- 第11回 保健医療サービス関係者との連携と実際【医師、保健師、看護師等との連携の方法と実際】
- 第12回 保健医療サービス関係者との連携と実際【医療チームアプローチの実際】
- 第13回 保健医療サービス関係者との連携と実際【在宅看護と地域の連携】
- 第14回 地域の社会資源との連携【連携の方法と実際】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講の態度・参加度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 小鉢 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学びます。介護保険法・障害者総合支援法により提供される、本人の権利擁護のための福祉サービスや、本人に対する権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、本人の財産管理能力を補完するための成年後見制度等、福祉職にとって不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks
 適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「権利擁護と成年後見制度」(弘文堂)～社会福祉士シリーズ～

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 エピローグ(基本的人権と権利擁護)
 - 2回 民法1(権利能力と行為能力)
 - 3回 民法2(契約の自由とその修正)
 - 4回 民法3(親族と扶養)
 - 5回 民法4(相続)
 - 6回 福祉サービス～措置から契約へ
 - 7回 介護保険法の仕組み
 - 8回 総合支援法の仕組み
 - 9回 成年後見制度1(法定後見)
 - 10回 成年後見制度2(任意後見)
 - 11回 後見人の仕事とその限界
 - 12回 日常生活自立支援事業
 - 13回 虐待防止(高齢者虐待防止法・障害者虐待防止法)
 - 14回 あるべき権利擁護
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況・・・30%
 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 社会福祉小六法は、毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第 2 回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第 3 回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第 4 回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第 5 回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第 6 回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第 7 回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第 8 回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第 9 回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第 10 回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第 11 回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第 12 回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第 13 回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第 14 回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【夜】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 主として老年期の捉え方、知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと社会的適応について、老年期特有の変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の精神疾患について理解することができる。

教科書 /Textbooks
 資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期のとらえ方】
第2回	老年期の理論1【生涯発達心理学】
第3回	老年期の理論2【活動理論、離脱理論、継続性理論】
第4回	老年期の認知機能の変化 - 知能1【横断的方法、縦断的方法、系列法】
第5回	老年期の認知機能の変化 - 知能2【言語性能力、動作性能力】
第6回	老年期の認知機能の変化 - 知能3【変化に影響する要因】
第7回	老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理1【記憶のモデル】
第8回	老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理2【再認と再生】
第9回	老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
第10回	老年期のパーソナリティと適応1【社会適念・時代背景・社会環境】
第11回	老年期のパーソナリティと適応2【OldestOldと社会関係】
第12回	老年期のパーソナリティと適応3【成熟した人格、パーソナリティ変容の要因】
第13回	老年期の精神疾患【うつ、認知症】
第14回	適応と生きがい【個人と社会】
第15回	まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks
 『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合，メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え，メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 比留間 太白・山本 博樹(編集)『説明の心理学-説明社会への理論・実践的アプローチ』ナカニシヤ出版
- 海保 博之(編)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学(朝倉実践心理学講座)』朝倉書店
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 コミユニケイシヨNとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

昨年度単位取得率: 56.4% (履修者: 39名)

S: 6名(15%) A: 7名(17%) B: 2名(5%) C: 7名(17%) D: 7名(17%) 不受験: 10名(26%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。

評価は、試験の結果のみで行います。

試験は、全て持ち込み可とします。

講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)

欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。

その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

コミュニケーション論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。

「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの方は【絶対に受講しない方が良い】」

「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」

「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」

「心理学が生活に関連していることがわかる」

「心理学が役に立つものだとわかる」

「就活に使えるネタが集まる」

「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」

「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」

「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけなくなるので覚悟すべし」

「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」

「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」

「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者名 /Instructor 村田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 健康と疾病、医療と医学、医療制度、現代医療の抱える諸問題、さらに現在トピックスとなっている疾患や医療関連の諸問題について解説する。

教科書 /Textbooks
 『人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	人の成長・発達と老化：	身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化
2～3回	身体構造と心身の機能：	人体部位の名称 各器官の構造と機能
4～7回	疾病の概要：	生活習慣病、メタボリックシンドローム、日本人の三大死因疾患、 感染症、神経・精神疾患、先天性疾患、難病、高齢者と疾患等 終末期医療と緩和ケア
8～9回	障害の概要：	身体障害、知的障害、発達障害、 精神障害・認知症・高次脳機能障害
10～11回	リハビリテーションの概要	
12回	国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要	国際障害分類 (ICDH) から国際生活機能分類 (ICF) へ
13～14回	健康のとらえ方：	健康の概念とプライマリヘルスケア、日本の人口統計 人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策等
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況・期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体スポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動【ケガや疾病】
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】、【スポーツ障害】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つければ嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

健康科学【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

社会調査の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01 【ケースワークの原則】
- 7 ケースワークの諸過程02 【アセスメント・プランニング】
- 8 ケースワークの諸過程03 【インターベンション・エバリュエーション】
- 9 面接技法01 【面接の目的等】
- 10 面接技法02 【インテーク等】
- 11 事例演習01 【アルコール依存症者世帯への援助】
- 12 事例演習02 【ひとり親世帯への援助】
- 13 事例演習03 【児童虐待事例での援助】
- 14 事例演習04 【高齢者世帯への援助】
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません (適宜レジュメを配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 「新・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」 中央法規出版 2730円
- ・ 「グループワーク論」 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ 「グループワーク」 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ 「グループワークの専門技術」 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円
- ・ 「セルフヘルプ運動と新しいソーシャルワーク実践」 中央法規出版 岩田泰夫 3570円
- ・ 「セルフヘルプグループ」 星和書店 岡 知史 1890円

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャル・グループワークを学ぶために
- 2回 グループの持つ力1 【人と人がかかわることの意義とかがわりがもたらすもの】
- 3回 グループの持つ力2 【人間の発達に集団が果たす役割】
- 4回 グループで働く力1 【集団圧力】
- 5回 グループで働く力2 【集団凝集性】
- 6回 グループの中で生じる効果
- 7回 リーダーシップ
- 8回 グループワークの定義・モデル・原則
- 9回 グループワークの構成要素
- 10回 プログラム活動の企画
- 11回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程2 【開始期・作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 グループワークの展開過程3 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 14回 セルフヘルプグループの持つ力
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・ 50% 日常の授業への取り組み・・・ 30% 課題・・・ 20%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中央法規出版の「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」の集団援助技術の章をあらかじめ読んでおいてください。
なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉と社会保障機能 1【社会福祉の動向】
 - 2回 社会福祉と社会保障機能 2【社会保障機能】
 - 3回 社会福祉と社会保障機能 3【参加型社会保障】
 - 4回 社会保障と税制 1【財政理論】【公共財】
 - 5回 社会保障と税制 2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 6回 社会保障と税制 3【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
 - 8回 福祉行財政まとめ
 - 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
 - 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
 - 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
 - 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
 - 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
 - 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな施設中心の運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアを視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第4版」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。経済的成長も見込まれる社会福祉を経営の立場(施設長)から論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名
/Instructor

坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点)+課題(20点)+期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用